

2022年度三重短期大学年報

三重短期大学内部質保証推進委員会

目 次

2022年度三重短期大学年報刊行にあたって	1
2022年度三重短期大学の概況	2
1. 三重短期大学の理念と目的・教育目標	5
2. 組織	
1) 全学組織	
表 1 設置学科・専攻等	7
2) 教員組織	
表 2 全学の教員組織	8
表 3 専任教員個別表	9
表 4 専任教員年齢構成	13
3) 事務組織	
表 5 事務組織	14
3. 教育	
1) 教育課程	
表 6 学科の開設授業科目における専任担当率	15
表 7 学科・専攻別の学生定員及び在籍学生数	17
2) 教育内容と効果	
表 8 国家試験・資格試験合格率および卒業免許取得率	18
表 9 卒業判定	19
表10 就職・進学状況	20
表11 学科の退学者・休学者数	21
4. 入試	
表12 学科の志願者・合格者・入学者数の推移	22
表13 学科の入学者の構成	24
5. 学生生活	
表14 学生相談室利用状況	25
表15 奨学金給付・貸与状況	26
表16 授業料免除状況	27
6. 研究	
表17 教員研究費	28
表18 科学研究費の採択状況	29

表19	教員研究室の状況	30
表20	専任教員の担当授業時間数	31
7.	社会活動	
表21	公開講座の開設状況	32
8.	大学運営	
1)	施設・設備	
表22	校地・校舎、講義室・演習室等の面積	33
表23	学科・専攻毎の講義室・演習室等の面積・規模	34
2)	図書館	
表24	図書資料の所蔵数	35
表25	学生閲覧室等の面積・座席数	36
表26	図書館利用状況	37
3)	財務	
表27	歳入・歳出決算表	38
4)	管理運営	
表28	教授会開催状況	39
9.	専任教員の活動実績	41

2022年度三重短期大学年報刊行にあたって

本学における全学的な自己点検評価は、7年毎の認証評価とその中間時点にあたる3年ないし4年毎に実施しており、自己点検評価報告書としてとりまとめています。2010年度には、大学評価・学位授与機構による認証評価を受審する際に提出し、その結果、適格の判定を与えられました。また、2013年度には中間的な自己点検評価報告書を作成して学内外に公表しました。2017年度には大学基準協会による短期大学認証評価を受審する際に提出し、「評価の結果、貴短期大学は本協会の短期大学基準に適合していると認定する。」との評価結果を受けました。2020年度には新型コロナウイルス感染症の感染拡大が本学の学内運営に少なからず影響を及ぼしましたが、その状況下においても、中間的な自己点検評価報告書を作成して学内外に公表しました。

自己点検評価を実施するにあたっては、その基礎資料として、毎年、専任教員の研究・教育業績調査を実施し、さらに自己点検評価実施に必要な定型的なデータを収集しています。また、これらの基礎データについては、2011年度分から「三重短期大学年報」としてとりまとめ、本学ホームページ上に公開して、広く本学の状況について発信しています。（原則12月に公開）

「三重短期大学年報」は、基礎的データの掲載が主な内容です。職階別の年齢構成・男女比などの教員データ、受験者数・合格者数などの入試データや、在籍学生数・卒業者数・休退学者数・進路状況などの学生データ、施設・設備・短大財政などの管理データ、それに専任教員の教育・研究・地域貢献活動の状況などから構成することとし、当該年度の本学の状況を数値面から把握できるように、大項目ごとに章立てして構成してあります。また、全体的な概要を冒頭に記載してあります。ただし、あくまでも特徴的な変化を把握するもので、個々の評価には踏み込んでおりません。

今後とも、継続的に本学の情報を公開していく中で、自己点検評価に必要な外部からの意見・提言をお寄せいただきますよう関係各方面にお願いいたします。

2023年12月

三重短期大学内部質保証推進委員会

2022年度三重短期大学の概況

1. 本学の理念・目的・教育目標について

- ・2008年3月に本学の理念と教育目標を制定し、各学科・専攻では、それぞれの教育目標に即して求める学生像をアドミッション・ポリシーとして明確化した。以後、2014年度には、新たにディプロマポリシーとカリキュラムポリシーを定めてHP上に公開し、2016年度には、これら3つのポリシーの体系的見直しを行っている。

2. 本学の組織について

- ・学科・専攻・コース構成については、法経科は2007年度以降継続しており、生活科学科は2021年度から食物栄養学専攻が食物栄養学科食物栄養学専攻に改編され、3学科体制となった。
- ・専任教員は、助教以上が法経科14名、食物栄養学科8名、生活科学科8名の計30名で、教員1名当たりの在籍学生数は平均21.0(=629/30)名(法経科23.3、食物栄養学科11.8、生活科学科26.1)である。
- ・教員の年齢構成は、35歳以下が4名、36歳以上45歳以下が11名、46歳以上55歳以下が7名、56歳以上65歳以下が8名である。
- ・教員の職階構成は、教授10名、准教授11名、講師6名、助教3名となっている。
- ・事務職員は、常勤職員が16名、会計年度職員等が13名となっており、常勤職員の人数が昨年度より2名増となっている。

3. 教育課程の状況

- ・開設授業科目のうち専門教育科目における専任教員の担当比率は、法経科第1部が51.7%(昨年度47.8%)、法経科第2部が48.8%(昨年度45.5%)、食物栄養学科が70.0%(昨年度64.3%)、生活科学科が49.5%(昨年度49.5%)であり、約半数が専任教員により担当されている。昨年度との比較では、生活科学科は変わらないが、法経科第1部が3.9%、法経科第2部が3.3%、食物栄養学科が5.7%増加している。
- ・収容定員に対する在籍学生数の割合では、法経科第1部(1.09)と生活科学科(1.05)は、いずれも定員を充足しているが、食物栄養学科は若干充足していない(0.94)。法経科第2部(0.55)は、在籍数が定員を充足していない状況が続いている。
- ・卒業判定の合格率は、87.3%であり、昨年度(87.4%)とほぼ同じである。
- ・留年率は、7.3%であり、昨年度(7.2%)とほぼ同じである。
- ・退学・休学状況では、退学率は3.2%であり、昨年度(4.5%)より1.3%減少している。また、休学者数は18名おり昨年度(4名)より14名増加している。
- ・国家試験・資格試験の合格状況では、栄養士免許取得率は97.6%であり昨年度(98.0%)とほぼ同じである。管理栄養士免許取得者は、昨年度の12名から6名へと減少している。
- ・卒業後の進路状況では、就職者数は、法経科第1部(65名、昨年度57名)と生活科学科(62名、昨年度55名)は昨年度より増加しているが、食物栄養学科(30名、昨年度41名)と法経科第2部(12名、昨年度22名)は減少している。進学者数は、他大学への編入に関してみると、食物栄養学科(7名、昨年度6名)は昨年度より増加しており、法経科第1部(18名、昨年度18名)は昨年度と変わらないが、法経科第2部(9名、昨年度18名)と生活科学科(1

4名、昨年度20名)は減少している。

4. 入試の状況

- ・定員充足率は、過去5年間の平均では、法経科第1部(105.8%)と生活科学科(105.4%)は、100%を越えているが、食物栄養学科(96.0%)と法経科第2部(58.6%)は100%未満である。
- ・入学定員に対する志願者の割合は、全学的にみると昨年度の1.47(=516/350)倍から1.50(=525/350)倍へと若干増加しており、法経科第1部と法経科第2部が増加し、食物栄養学科と生活科学科が減少している。
- ・入試種別の入学者の構成は、一般選抜(2次募集含む)が30.3%(昨年度36.1%)、学校推薦型選抜が40.1%(昨年度43.2%)、共通テスト利用選抜が20.2%(昨年度14.0%)、社会人特別選抜が4.4%(昨年度2.4%)、関連分野特別選抜が5.0%(昨年度4.3%)となっている。昨年度より一般選抜(2次募集含む)が5.8%、学校推薦型選抜が3.1%減少したのに対し、共通テスト利用選抜が6.2%増加している。

5. 学生生活の状況

- ・学生相談室では、臨床心理士によりカウンセリングが行われている。利用状況では、年間開室日数は計28日(昨年度43日)であり、昨年度より15日減少している。相談件数も39件(昨年度77件)であり、昨年度より38件減少している。なお、今年度の開設時間は10:30~13:30、17:30~19:30であった。
- ・奨学金給付・貸与状況は、在籍学生629名の47.4%(昨年度50.4%)に当たる298名が受給している。受給学生比率は昨年度より減少している。一人当たりの平均受給額は年間約50.2万円であり、すべて日本学生支援機構奨学金の貸与・給付である。
- ・授業料の減免は、半期ごとに認定されるが、修学支援新制度に基づくものは、2022年度前・後期合計で、全額免除108件、2/3免除45件、1/3免除27件、合計180件が認定されている。また、大学独自減免制度によるものは、前・後期合計で、全額免除1件、2/3免除1件が認定された。

6. 専任教員の研究環境

- ・教員の研究費総額は1,136万円である。学内外を合わせた教員1人当たりの平均研究費(経常研究費)は法経科で36.5万円、食物栄養学科と生活科学科は31.5万円である。このうち、研究費総額に対する設置者の支出によって手当てされる分(学内経常研究費)の割合は、法経科が58%、食物栄養学科と生活科学科が54%である。
- ・科学研究費の採択状況は、2022年度は2件申請があり、1件(食物栄養学科)が採択された。
- ・教員研究室の個室率は、全学科で100%である。共同研究室も含めた研究室の平均面積は、法経科は22.7㎡、食物栄養学科は26.7㎡、生活科学科は28.9㎡である。
- ・助教を除く専任教員の一週間あたりの担当授業時間数は、法経科は平均10.0授業時間、食物栄養学科は平均10.9授業時間、生活科学科は平均11.9授業時間である。

7. 社会活動

- ・本学が提供している公開講座は、オープンカレッジ、地域連携講座、出前講義がある。2022年度の公開講座は、オープンカレッジ10講座、地域連携講座2講座、出前講座15講座が開講された。1講座当たりの平均受講者数は35名であった。

8. 大学運営

- ・校地・校舎の面積の増減はない。講義室・演習室等の面積は2,611㎡であり、昨年度より12㎡減少した。講義室の学生1人当たりの面積は1.90㎡である。
- ・図書館の収蔵冊数は100,207冊で、2022年度中に1,401冊増加した。また、図書館の入館者数は13,932名（昨年度16,878名）、貸出者数は2,689名（昨年度3,565名）、貸出冊数は4,506冊（昨年度6,597冊）である。入館者数は昨年度より2,946名減少し、貸出冊数は2,091冊減少している。
- ・大学財政についてみると、2022年度の歳入合計は7億7,664万円で、そのうち授業料・入学金が2億3,135万円、一般財源が3億3,694万円となっている。歳出の内訳は、一般職給が4億2,616万円、大学管理運営事業費1億596万円、図書館管理運営事業費1,184万円、教育研究関係事業費534万円、施設維持補修事業費2億2,410万円が主なものである。
- ・教授会は定例・臨時を含めて19回開催され、大学運営上の諸課題の審議・決定に当たった。

9. 専任教員の活動状況

- ・専任教員の活動状況については、「三重短期大学教員研究・教育業績」として、教員ごとに研究・教育・社会的活動の状況を掲載した。

1. 三重短期大学の理念と目的・教育目標

(1) 三重短期大学の理念

三重短期大学は、知の創造と継承を理念として、真理の探究とそれに基づく教育により優れた人材を育成するとともに、地域における知の拠点として、広く市民と連携し、協働することを通じて、地域の文化の向上及び豊かな地域社会の実現に寄与する。

1) 教育研究の理念

① 真理の探究（知の創造・継承・発展）

教育・研究活動を通じて、人類普遍の真理と真実を追究し、世界の平和と人類の福祉の向上、文化の批判的継承と創造に貢献する。

② 優れた人材の育成

広い分野の総合的な知識と深い専門的学術を教授研究し、豊かな人間性と高い知性を備え、論理的で自主的な判断能力に加え、応用力や実践力に富む有為な人材を育成する。
高い公共性・倫理性を備え、民主的で文化的な社会の形成に主体的に参画する市民を育成する。

2) 地域貢献の理念

津市の設置する公立短期大学として、地域の諸問題や社会の要請に対応した特色ある研究の推進を図り、その成果を積極的に地域に還元するとともに、高等教育に対する地域のニーズに的確に応え、生涯学習の振興に寄与することを通じて、地域社会に貢献する。

3) 大学運営の理念

真理の探究と知の創造にかかわる、自律性と自発性に基づく教育研究活動を尊重し、促進する。

大学の自治とは、大学がいかなる利害からも自由に知の創造と発展を行うことを通じて広く人類社会に貢献することができるよう、国民から特に付託されたものであることを常に自覚し、教育研究及び管理運営に関して、主体的に点検と評価を進めるとともに、他者からの批判的評価を積極的に求め、その付託に伴う責務を自立的に果たすべく努める。

(2) 三重短期大学の目的

学則に三重短期大学の目的は次のように定めている。

三重短期大学（以下「本学」という。）は、教育基本法（昭和 22 年法律第 25 号）にのっとり、広く教養を与えるとともに、深く専門の学術技能を教授研究し、有為の人材を育成して文化の発展に寄与することを目的とする。

(3) 三重短期大学の教育目標

三重短期大学は、広い分野の総合的な知識と深い専門的学術を教授研究し、豊かな人間性と高い知性を備え、論理的で自主的な判断能力に加え応用力や実践力の富む有為な人材の育成を行う。

- ・創造性豊かな人間性と優れた専門性を備えた人材の育成
文化・社会・人間・自然に関する人類の知的遺産を学び理解するとともに、基本的な知的思考能力を育成する。
- ・実社会で活躍できる知的・人間的資質を備えた人材の育成
総合的に考える能力、科学的な思考法、適切な自己表現能力、自主的な課題発見・解決能力など応用力や実践力を育成する。
- ・地域社会を主体的に担う市民の育成
高い公共性・倫理性を備え、民主的で文化的な社会の形成に主体的に参画する市民を育成する。
- ・国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力の養成
グローバルな視野と国際感覚を身につけるとともに、コミュニケーション能力や情報社会に対応できる ICT（Information & Communication Technology）活用能力を育成する。

(4) 学科・専攻の目的

法経科第1部

法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する専門的な知識を身につけ、もって地域社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

法経科第2部

法律・政治・経済・経営など社会科学に関する幅広い教養を身につけ、自らの人生を豊かにするとともに、地域社会に貢献できる市民を育成することを目的とする。

食物栄養学科食物栄養学専攻

食と健康に関する専門知識と技能を備え、地域社会の食や健康問題に貢献できる人材を育成することを目的とする。

生活科学科生活科学専攻

地域社会の人々が豊かで幸福な生活が営めるように、福祉学や心理学ならびに居住環境の観点から地域社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

(5) 学科・専攻の教育目標

法経科第1部

- ・法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識の修得の上に、最新の学問的到達について一定の理解をもった人材を育成する。
- ・机上の学問にとどまらず、修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することのできる人材を育成する。
- ・社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけ、地域社会に貢献しうる見識ある職業人・市民の育成をめざす。

法経科第2部

- ・社会科学についての基本的な素養を身につけた市民の育成をめざす。
- ・「学ぶことで自らの人生をより豊かなものにしたい」という願いを支援する。
- ・社会のみならず文化や自然についての幅広い教養の上に、広い視野と寛容さを身につけた、地域社会に貢献しうる見識ある市民の育成をめざす。

食物栄養学科食物栄養学専攻

- ・食を通じた豊かな人間形成と、食に関する知識と技能を融和させて実践することができる専門性の高い教育を行う。
- ・科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解や対処ができる栄養士や栄養教諭などの食のスペシャリストを育成する。
- ・個人の食や健康問題に対応した栄養教育を実践できる能力を養い、地域社会の食や健康問題に貢献できる人材を育成する。

生活科学科生活科学専攻

- ・生活とは「いのち」をつないでいく営みとしての「暮らし」に他ならない。生活科学は「いのち」と「暮らし」にかかわる諸科学の知見を統合することによって、生活の守護と質的向上を目指す実践的かつ総合的な学問である。自ら賢明な生活者たることを目指すとともに、生活の具体的な場としての地域の快適化と活性化に貢献する人材を育成することが、本学科の教育目標である。
- ・「生活の具体的な場」である地域は、生活の主体である人々（諸個人・家族・コミュニティ）と、その活動の条件となる環境によって構成されるものであって、「生活福祉・心理コース」においては主に前者の、「居住環境コース」においては主に後者の側面から、生活科学を学ぶものである。

表1 設置学科・専攻等

	学 科	部・専 攻	コ ー ス
三重短期大学	法経科	第1部<1969年4月> 第2部<1952年4月>	法律コース<2007年4月> 経商コース<2007年4月>
	食物栄養学科	食物栄養学専攻<2021年4月>	
	生活科学科	生活科学専攻<1991年4月>	生活福祉・心理コース<2007年4月> 居住環境コース<2007年4月>

表 2 全学の教員組織 (2022年度)

学科・部・専攻		専任教員数					助手	設置基準上 必要専任 教員数	専任教員1人あた りの在籍学生数 (表7の在籍数/A)	兼任教員数					兼任 教員数
		教授	准教授	講師	助教	計(A)				教授	准教授	講師	助教	計	
法経科	第1部	5	5	4		14		7	23.29	2	3	2		7	50
	第2部														3
食物栄養学科	食物栄養学専攻	2	2	1	3	8		4	11.75			1		1	38
生活科学科	生活科学専攻	3	4	1		8		4	26.13	3	2	1		6	53
合 計		10	11	6	3	30		18		5	5	4		14	175
短期大学全体の入学定員に 応じ定める専任教員数								5							

- [注] 1 専任とは、常勤する者をいい、兼任とは、学外からの兼務者を示す。
 2 同一の兼任教員が複数の学科を担当する場合、重複して記載している。
 3 2022年5月1日時点の状況を示す。

表3 専任教員個別表 (2022年度)
法経科

職名	氏名	性別	就職年月日	現職就任年月日	所属	授業科目								最終学歴及び学位称号		
						毎週授業時間数										
						科目名	講義		演習		実験・実習・実技		計			
前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期								
教授	村井 美代子	女	2003/4/1	2011/4/1	法経科	英語Ⅰ(法2)	2.0	2.0					2.0	2.0	大阪大学大学院 文学研究科 文学博士	
						英語講義	2.0	2.0					2.0	2.0		
						英語講義(法2)	2.0	2.0					2.0	2.0		
						計	6.0	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	6.0		
教授	橋本 孝	男	2004/4/1	2012/4/1	法経科 コース	刑法	4.0							4.0	0.0	中央大学大学院 法学研究科 法学修士
						刑法(法2)	4.0							4.0	0.0	
						刑事政策		2.0					0.0	2.0		
						法学基礎演習				2.0		0.0	2.0			
						社会学演習			2.0	2.0		2.0	2.0			
			計	8.0	2.0	4.0	6.0	0.0	0.0	12.0	8.0					
教授	石原 洋介	男	2005/4/1	2014/4/1	法経科 経商 コース	金融論		4.0					0.0	4.0	一橋大学大学院 経済学研究科 経済学修士	
						金融論(法2)	4.0						4.0	0.0		
						国際経済論	2.0						2.0	0.0		
						経商基礎演習				2.0		0.0	2.0			
						社会学演習			2.0	2.0		2.0	2.0			
			計	6.0	4.0	4.0	6.0	0.0	0.0	10.0	10.0					
教授	藤枝 律子	女	2010/4/1	2018/4/1	法経科 法律 コース	行政法	4.0						4.0	0.0	名古屋大学大学院 法学研究科 修士(法学)	
						行政法(法2)	4.0						4.0	0.0		
						地方自治法		2.0					0.0	2.0		
						農林体験セミナー					2.0		2.0	0.0		
						医療・健康・福祉実践					2.0		2.0	0.0		
						食と観光実践						2.0	0.0	2.0		
						次世代産業実践						2.0	0.0	2.0		
						法学基礎演習				2.0		0.0	2.0			
						社会学演習			2.0	2.0		2.0	2.0			
									計	8.0	2.0	4.0	6.0	4.0		4.0
教授	大畑 智史	男	2016/4/1	2021/4/1	法経科 経商 コース	財政学		4.0					0.0	4.0	東北大学大学院 経済学研究科 経済学修士	
						財政学(法2)	4.0						4.0	0.0		
						地方財政論(法2)		2.0					0.0	2.0		
						経商基礎演習				2.0		0.0	2.0			
						社会学演習			2.0	2.0		2.0	2.0			
			計	4.0	6.0	4.0	6.0	0.0	0.0	8.0	12.0					
准教授	田中 里美	女	2012/4/1	2015/4/1	法経科 経商 コース	会計学	4.0						4.0	0.0	明治大学大学院 商学研究科 博士(商学)	
						会計学(法2)		4.0					0.0	4.0		
						税務会計論	2.0						2.0	0.0		
						経商基礎演習				2.0		0.0	2.0			
						社会学演習			2.0	2.0		2.0	2.0			
			計	6.0	4.0	4.0	6.0	0.0	0.0	10.0	10.0					
准教授	今本 幸平	男	2018/4/1	2018/4/1	法経科	文学Ⅰ	2.0						2.0	0.0	関西大学大学院 文学研究科 博士(文学)	
						文学Ⅰ(法2)	2.0						2.0	0.0		
						文学Ⅱ		2.0					0.0	2.0		
						文学Ⅱ(法2)		2.0					0.0	2.0		
						ドイツ語Ⅰ・独語Ⅰ	2.0	2.0					2.0	2.0		
						ドイツ語Ⅰ・独語Ⅰ(法2)	2.0	2.0					2.0	2.0		
			計	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	10.0					
准教授	田添 篤史	男	2018/4/1	2018/4/1	法経科 経商 コース	経済原論	4.0						4.0	0.0	京都大学大学院 経済学研究科 博士(経済学)	
						経済原論(法2)	4.0						4.0	0.0		
						経済学史		2.0					0.0	2.0		
						経商基礎演習				2.0		0.0	2.0			
						社会学演習			2.0	2.0		2.0	2.0			
			計	8.0	2.0	4.0	6.0	0.0	0.0	12.0	8.0					
准教授	浅野 和也	男	2020/4/1	2020/4/1	法経科 経商 コース	経営学	4.0						4.0	0.0	中京大学大学院 経営学研究科 博士(経営学)	
						経営学(法2)		4.0					0.0	4.0		
						人的資源管理論(法2)	2.0						2.0	0.0		
						経商基礎演習				2.0		0.0	2.0			
						社会学演習			2.0	2.0		2.0	2.0			
			計	6.0	4.0	4.0	6.0	0.0	0.0	10.0	10.0					

職名	氏名	性別	就職年月日	現職就任年月日	所属	授業科目								最終学歴及び学位称号			
						毎週授業時間数											
						科目名		講義		演習		実験・実習・実技			計		
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
准教授	川上 哲	男	2020/4/1	2020/4/1	法経科法律コース	行政学	4.0							4.0	0.0	一橋大学大学院社会学研究科修士(社会学)	
						行政学(法2)		4.0						0.0	4.0		
						地方政治論		2.0						0.0	2.0		
						法学基礎演習					2.0			0.0	2.0		
						演習				2.0	2.0			2.0	2.0		
						社会科学演習				2.0	2.0			2.0	2.0		
計	4.0	6.0	4.0	6.0	0.0	0.0		8.0	12.0								
講師	鷺尾 和紀	男	2017/4/1	2017/4/1	法経科経商コース	マーケティング論Ⅰ・マーケティング論	4.0						4.0	0.0	高千穂大学大学院経営学研究科修士(経営学)		
						マーケティング論Ⅰ・マーケティング論(法2)		4.0					0.0	4.0			
						マーケティング論Ⅱ		2.0					0.0	2.0			
						経商基礎演習				2.0			0.0	2.0			
						演習				2.0	2.0			2.0		2.0	
						社会科学演習				2.0	2.0			2.0		2.0	
計	4.0	6.0	4.0	6.0	0.0	0.0		8.0	12.0								
講師	鎌塚 有貴	女	2018/10/1	2018/10/1	法経科法律コース	憲法Ⅰ・日本国憲法・憲法	4.0						4.0	0.0	明治大学大学院法学研究科修士(法学)		
						憲法Ⅱ		2.0					0.0	2.0			
						憲法Ⅰ・日本国憲法(法2)		4.0					0.0	4.0			
						法学基礎演習				2.0			0.0	2.0			
						演習				2.0	2.0			2.0		2.0	
						社会科学演習				2.0	2.0			2.0		2.0	
計	4.0	6.0	4.0	6.0	0.0	0.0		8.0	12.0								
講師	西川 昇吾	男	2020/4/1	2020/4/1	法経科法律コース	労働法	4.0						4.0	0.0	熊本大学大学院社会文化科学研究科修士(法学)		
						労働法(法2)		4.0					0.0	4.0			
						社会保障法		2.0					0.0	2.0			
						法学基礎演習				2.0			0.0	2.0			
						演習				2.0	2.0			2.0		2.0	
						社会科学演習				2.0	2.0			2.0		2.0	
計	4.0	6.0	4.0	6.0	0.0	0.0		8.0	12.0								
講師	照井 暎瑛	男	2022/4/1	2022/4/1	法経科法律コース	民法Ⅰ	4.0						4.0	0.0	明治大学大学院法学研究科修士(法学)		
						民法Ⅰ(法2)		4.0					4.0	0.0			
						民法Ⅱ		2.0					0.0	2.0			
						法学基礎演習				2.0			0.0	2.0			
						演習				2.0	2.0			2.0		2.0	
						社会科学演習				2.0	2.0			2.0		2.0	
計	8.0	2.0	4.0	6.0	0.0	0.0		12.0	8.0								

食物栄養学科

職名	氏名	性別	就任年月日	現職就任年月日	所属	授業科目								最終学歴及び学位称号		
						科目名	講義		演習		実験・実習・実技		計			
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期		後期	
教授	橋本 博行	男	2018/4/1	2018/4/1	食物栄養学科	食品学各論	2.0							2.0	0.0	愛媛大学大学院 連合農学研究科 農学博士
						食品学総論	2.0							2.0	0.0	
						食品の機能		2.0						0.0	2.0	
						食品衛生学		2.0						0.0	2.0	
						食品学実験					3.0			3.0	0.0	
						食品衛生学実験					3.0			3.0	0.0	
						食物栄養学入門	0.2							0.2	0.0	
						管理栄養特殊講義		0.2						0.0	0.2	
						特別演習			4.0	4.0				4.0	4.0	
						計	4.2	4.2	4.0	4.0	3.0	3.0		11.2	11.2	
教授	阿部 雅里	女	2006/4/1	2020/4/1	食物栄養学科	栄養教育論	2.0							2.0	0.0	福山大学園大学 大学院生活科学 研究科 博士（人間生活 科学）
						栄養指導論		2.0						0.0	2.0	
						栄養教育論実習				3.0				3.0	0.0	
						栄養指導論実習					3.0			0.0	3.0	
						給食運営管理論実習Ⅱ				1.0	2.0			1.0	2.0	
						給食運営管理論実習Ⅲ				1.0	2.0			1.0	2.0	
						食物栄養学入門	0.6							0.6	0.0	
						管理栄養特殊講義		0.8						0.0	0.8	
						特別演習			4.0	4.0				4.0	4.0	
						計	2.6	2.8	4.0	4.0	5.0	7.0		11.6	13.8	
准教授	駒田 亜衣	女	2007/8/1	2014/4/1	食物栄養学科	調理学	2.0							2.0	0.0	青森県立保健大 学大学院健康科 学研究科 博士（健康科 学）
						給食運営総合指導	2.0							2.0	0.0	
						給食運営管理論実習Ⅰ				6.0				6.0	0.0	
						給食運営管理論実習Ⅱ				1.0				1.0	0.0	
						給食運営管理論実習Ⅲ				1.0				1.0	0.0	
						食物栄養学入門	0.2							0.2	0.0	
						特別演習			4.0					4.0	0.0	
						計	4.2	0.0	4.0	0.0	8.0	0.0		16.2	0.0	
准教授	相川 悠貴	男	2017/10/1	2019/4/1	食物栄養学科	健康管理概論		2.0						0.0	2.0	筑波大学大学院 人間総合科学研 究科 博士（体育科 学）
						解剖生理学	2.0							2.0	0.0	
						生化学	2.0							2.0	0.0	
						運動保健学		2.0						0.0	2.0	
						生化学実験				3.0				3.0	0.0	
						解剖生理学実験					3.0			0.0	3.0	
						食物栄養学入門	0.2							0.2	0.0	
						管理栄養特殊講義		0.2						0.0	0.2	
						特別演習			4.0	4.0				4.0	4.0	
						計	4.2	4.2	4.0	4.0	3.0	3.0		11.2	11.2	
講師	杉野 香江	女	2017/4/1	2020/4/1	食物栄養学科	食生活論	2.0							2.0	0.0	鈴鹿医療科学大 学保健衛生学研 究科 修士（保険衛生 学）
						栄養学		2.0						0.0	2.0	
						栄養学実験					3.0			0.0	3.0	
						応用栄養学Ⅰ	2.0							2.0	0.0	
						応用栄養学Ⅱ	2.0							2.0	0.0	
						応用栄養学実習					3.0			0.0	3.0	
						食物栄養学入門	0.2							0.2	0.0	
						管理栄養特殊講義		0.2						0.0	0.2	
						特別演習			4.0	4.0				4.0	4.0	
						計	6.2	2.2	4.0	4.0	0.0	6.0		10.2	12.2	
助教	飯田 津喜美	女	1990/4/1	2008/4/1	食物栄養学科	食物栄養学入門	0.2							0.2	0.0	三重短期大学家政科 食物栄養学専攻
						管理栄養特殊講義		0.2						0.0	0.2	
						特別演習			4.0	4.0				4.0	4.0	
						計	0.2	0.2	4.0	4.0	0.0	0.0		4.2	4.2	
助教	服部 知美	女	2019/4/1	2019/4/1	食物栄養学科	食物栄養学入門	0.2							0.2	0.0	鈴鹿医療科学大 学医療科学研究科 医療科学修士
						管理栄養特殊講義		0.2						0.0	0.2	
						特別演習			4.0	4.0				4.0	4.0	
						計	0.2	0.2	4.0	4.0	0.0	0.0		4.2	4.2	
助教	福安 智哉	男	2020/4/1	2020/4/1	食物栄養学科	食物栄養学入門	0.2							0.2	0.0	名古屋学芸大 学大学院栄養科 院栄養科学研究科 修士（栄養学）
						管理栄養特殊講義		0.2						0.0	0.2	
						特別演習			4.0	4.0				4.0	4.0	
						計	0.2	0.2	4.0	4.0	0.0	0.0		4.2	4.2	

生活科学科

職名	氏名	性別	就任年月日	現職就任年月日	所属	授業科目								最終学歴及び学位称号	
						毎週授業時間数									
						科目名	講義		演習		実験・実習・実技		計		
前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期							
教授	南有哲	男	1999/4/1	2007/4/1	居住環境コース	環境論	2.0						2.0	0.0	京都市立大学大学院 経済学研究科 経済学修士
						環境論(法2)	2.0						2.0	0.0	
						生活経営	2.0						2.0	0.0	
						環境共生論	2.0						2.0	0.0	
						環境政策論		2.0					0.0	2.0	
						環境政策論(法2)		2.0					0.0	2.0	
						地域政策論Ⅱ・地域政策論(法2)		2.0					0.0	2.0	
						地域づくり実践			2.0				2.0	0.0	
						生活科学概論	0.6						0.6	0.0	
						居住環境基礎				2.0			4.0	2.0	
						居住環境特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0	
						計	8.6	6.0	6.0	6.0	0.0	0.0	14.6	12.0	
教授	木下誠一	男	2009/4/1	2015/4/1	居住環境コース	居住計画論	2.0						2.0	0.0	三重大学大学院 工学研究科 博士(工学)
						建築製図基礎	4.0						4.0	0.0	
						居住福祉論		2.0					0.0	2.0	
						住生活論		2.0					0.0	2.0	
						キャリア形成セミナー	2.0						2.0	0.0	
						地域づくり実践			2.0				2.0	0.0	
						生活科学概論	0.2						0.2	0.0	
						居住環境基礎				2.0			0.0	2.0	
						居住環境特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0	
						計	8.2	4.0	6.0	6.0	0.0	0.0	14.2	10.0	
教授	小野寺一成	男	2014/4/1	2019/4/1	居住環境コース	都市計画論		2.0					0.0	2.0	東洋大学大学院 工学研究科 博士(国際地域学)
						地域政策論Ⅰ・地域政策論	2.0						2.0	0.0	
						住環境計画	2.0						2.0	0.0	
						地域環境学		2.0					0.0	2.0	
						まちづくり企画・まちづくり設計Ⅰ			2.0				2.0	0.0	
						まちづくり設計・まちづくり設計Ⅱ				2.0			0.0	2.0	
						地域づくり実践			2.0				2.0	0.0	
						生活科学概論	0.2						0.2	0.0	
						居住環境基礎				2.0			0.0	2.0	
						居住環境特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0	
						自治体行政特論	2.0						2.0	0.0	
						計	6.2	4.0	8.0	8.0	0.0	0.0	14.2	12.0	
准教授	北村香織	女	2007/4/1	2010/4/1	生活福祉・心理コース	障害者福祉論	2.0						2.0	0.0	龍谷大学大学院 社会学研究科 社会学修士
						社会福祉発達史	2.0						2.0	0.0	
						社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ				3.0			0.0	3.0	
						社会福祉援助技術演習Ⅰ				4.0			0.0	4.0	
						社会福祉援助技術現場実習Ⅰ						1.0	0.0	1.0	
						社会福祉援助技術現場実習Ⅱ						1.0	0.0	1.0	
						地域づくり実践			2.0				2.0	0.0	
						生活科学概論	0.2						0.2	0.0	
						福祉心理基礎演習				2.0			0.0	2.0	
						福祉心理演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
計	4.2	0.0	4.0	11.0	1.0	1.0	9.2	12.0							
准教授	武田誠一	男	2013/10/1	2013/10/1	生活福祉・心理コース	医療福祉論	2.0						2.0	0.0	九州保健福祉大学大学院 社会学研究科 修士(社会学)
						社会福祉援助技術総論	4.0						4.0	0.0	
						社会福祉援助技術論Ⅰ		4.0					0.0	4.0	
						社会福祉援助技術現場実習Ⅰ						1.0	0.0	1.0	
						社会福祉援助技術現場実習Ⅱ						1.0	0.0	1.0	
						地域づくり実践			2.0				2.0	0.0	
						生活科学概論	0.2						0.2	0.0	
						福祉心理基礎演習				2.0			0.0	2.0	
福祉心理演習			2.0	2.0			2.0	2.0							
計	6.2	4.0	4.0	4.0	1.0	1.0	11.2	9.0							
准教授	笠浩一朗	男	2015/4/1	2015/4/1	居住環境コース	情報と社会	2.0						2.0	0.0	名古屋大学大学院 情報科学研究科 博士(情報科学)
						数理科学	2.0						2.0	0.0	
						情報と科学・情報技術論		2.0					0.0	2.0	
						プログラミング基礎		2.0					0.0	2.0	
						情報処理実習Ⅰ(法2)					2.0		2.0	0.0	
						情報処理実習Ⅱ						4.0	0.0	4.0	
						地域づくり実践			2.0				2.0	0.0	
						生活科学概論	0.2						0.2	0.0	
						居住環境基礎				2.0			0.0	2.0	
居住環境特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0							
計	4.2	4.0	6.0	6.0	2.0	4.0	12.2	14.0							
准教授	高橋彩	女	2019/4/1	2019/4/1	生活福祉・心理コース	発達心理学	2.0						2.0	0.0	愛知学院大学大学院 総合政策研究科 博士(総合政策)
						心理学	2.0						2.0	0.0	
						心理学概論		2.0					0.0	2.0	
						心理学と心理的支援論		2.0					0.0	2.0	
						青年期の心理		2.0					0.0	2.0	
						心理学基礎実験			4.0				4.0	0.0	
						心理学研究法		2.0					0.0	2.0	
						地域づくり実践			2.0				2.0	0.0	
						生活科学概論	0.2						0.2	0.0	
						福祉心理基礎演習				2.0			0.0	2.0	
福祉心理演習			2.0	2.0			2.0	2.0							
計	4.2	8.0	8.0	4.0	0.0	0.0	12.2	12.0							
講師	田中武士	男	2022/4/1	2022/4/1	生活福祉・心理コース	社会保障論Ⅰ	2.0						2.0	0.0	佛教大学大学院 社会学研究科 修士(社会学)
						社会保障論Ⅱ		2.0					0.0	2.0	
						社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ			3.0				3.0	0.0	
						社会福祉論Ⅰ	2.0						2.0	0.0	
						介護概論	2.0						2.0	0.0	
						社会福祉援助技術現場実習Ⅰ						1.0	0.0	1.0	
						社会福祉援助技術現場実習Ⅱ						1.0	0.0	1.0	
						地域づくり実践			2.0				2.0	0.0	
						生活科学概論	0.2						0.2	0.0	
						福祉心理基礎演習				2.0			0.0	2.0	
福祉心理演習			2.0	2.0			2.0	2.0							
計	6.2	2.0	7.0	4.0	1.0	1.0	14.2	7.0							

[注] 1 1 授業科目を複数の教員で担当する場合、当該授業時間数を担当教員で割り毎週授業時間数を算出した。
 2 2022年5月1日時点の状況を示す。

表4 専任教員年齢構成 (2022年度)

学科	職位	61歳～	56歳～	51歳～	46歳～	41歳～	36歳～	31歳～	26歳～	計
		65歳	60歳	55歳	50歳	45歳	40歳	35歳	30歳	
法経科	教授	2	1	1	0	1	0	0	0	5
		40.0%	20.0%	20.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	准教授	0	0	0	2	2	1	0	0	5
		0.0%	0.0%	0.0%	40.0%	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	講師	0	0	0	0	1	1	1	1	4
助教	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計		2	1	1	2	4	2	1	1	14
		14.3%	7.1%	7.1%	14.3%	28.6%	14.3%	7.1%	7.1%	100.0%
定年 65歳										

学科	職位	61歳～	56歳～	51歳～	46歳～	41歳～	36歳～	31歳～	26歳～	計
		65歳	60歳	55歳	50歳	45歳	40歳	35歳	30歳	
食物栄養学科	教授	1	0	0	0	1	0	0	0	2
		50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	准教授	0	0	0	1	0	0	1	0	2
		0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	100.0%
	講師	0	0	0	0	0	1	0	0	1
0.0%		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
助教	0	1	1	0	0	0	1	0	3	
	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	100.0%	
合計		1	1	1	1	1	1	2	0	8
		12.5%	12.5%	12.5%	12.5%	12.5%	12.5%	25.0%	0.0%	100.0%
定年 65歳										

学科	職位	61歳～	56歳～	51歳～	46歳～	41歳～	36歳～	31歳～	26歳～	計
		65歳	60歳	55歳	50歳	45歳	40歳	35歳	30歳	
生活科学科	教授	1	2	0	0	0	0	0	0	3
		33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	准教授	0	0	0	2	2	0	0	0	4
		0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	講師	0	0	0	0	1	0	0	0	1
0.0%		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
助教	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
合計		1	2	0	2	3	0	0	0	8
		12.5%	25.0%	0.0%	25.0%	37.5%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
定年 65歳										

学科	職位	61歳～	56歳～	51歳～	46歳～	41歳～	36歳～	31歳～	26歳～	計
		65歳	60歳	55歳	50歳	45歳	40歳	35歳	30歳	
全学科	教授	4	3	1	0	2	0	0	0	10
		40.0%	30.0%	10.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	准教授	0	0	0	5	4	1	1	0	11
		0.0%	0.0%	0.0%	45.5%	36.4%	9.1%	9.1%	0.0%	100.0%
	講師	0	0	0	0	2	2	1	1	6
0.0%		0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	16.7%	16.7%	100.0%	
助教	0	1	1	0	0	0	1	0	3	
	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	66.7%	
合計		4	4	2	5	8	3	3	1	30
		13.3%	13.3%	6.7%	16.7%	26.7%	10.0%	10.0%	3.3%	100.0%
定年 65歳										

[注] 2022年5月1日時点の状況を示す。

表5 事務組織（2022年度）

	部 署 名	担当名	専任職員		兼務職員	常勤嘱託 職 員	会計年度 職 員	その他	計
				うち管理職					
短期大学業務系	短期大学事務局		1	1					1
	学生部	教務学生担当	5	2(1)	1		2		7
	大学総務課	総務担当	7	5	3(1)		8	1	16
		地域連携センター							
	附属図書館	図書担当	3	2(1)			2		5
合 計			16	9(2)	4(1)		12	1	29

[注] 1 () 内数字は、教員が管理職を担当している数を示す。

2 計には兼務職員を含まない。

表6 学科の開設授業科目における専任担当率

[2020年度]

学 科・部・専 攻			必修科目	選択必修科目	全開設授業科目	
法経科	第1部	専門教育	専任担当科目数 (A)	1.00	28.00	29.00
			兼任担当科目数 (B)	0.00	25.00	25.00
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	100.00	52.83	53.70
		教養教育	専任担当科目数 (A)	2.50	14.00	16.50
			兼任担当科目数 (B)	3.50	19.00	22.50
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	41.67	42.42	42.31
	第2部	専門教育	専任担当科目数 (A)	1.00	18.00	19.00
			兼任担当科目数 (B)	0.00	14.00	14.00
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	100.00	56.25	57.58
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.50	13.00	14.50
			兼任担当科目数 (B)	2.50	16.00	18.50
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	37.50	44.83	43.94
生活科学科	食物栄養学 専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	6.00	34.90	40.90
			兼任担当科目数 (B)	1.00	18.10	19.10
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	85.71	65.85	68.17
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.50	14.00	15.50
			兼任担当科目数 (B)	3.50	19.00	22.50
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	30.00	42.42	40.79
	生活科学 専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	2.00	41.00	43.00
			兼任担当科目数 (B)	0.00	46.00	46.00
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	100.00	47.13	48.31
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.50	14.00	15.50
			兼任担当科目数 (B)	3.50	19.00	22.50
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	30.00	42.42	40.79

[2021年度] 食物栄養学科は新カリキュラム

学 科・部・専 攻			必修科目	選択必修科目	全開設授業科目	
法経科	第1部	専門教育	専任担当科目数 (A)	0.92	26.83	27.75
			兼任担当科目数 (B)	0.08	30.17	30.25
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	91.67	47.08	47.84
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.50	17.00	18.50
			兼任担当科目数 (B)	3.50	19.00	22.50
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	30.00	47.22	45.12
	第2部	専門教育	専任担当科目数 (A)	1.00	19.00	20.00
			兼任担当科目数 (B)	0.00	24.00	24.00
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	100.00	44.19	45.45
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.50	18.00	19.50
			兼任担当科目数 (B)	2.50	17.00	19.50
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	37.50	51.43	50.00
食物栄養学 学科	食物栄養学 専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	5.00	31.00	36.00
			兼任担当科目数 (B)	1.00	19.00	20.00
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	83.33	62.00	64.29
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.50	17.00	18.50
			兼任担当科目数 (B)	3.50	19.00	22.50
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	30.00	47.22	45.12
生活科学科	生活科学 専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	2.00	43.00	45.00
			兼任担当科目数 (B)	0.00	46.00	46.00
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	100.00	48.31	49.45
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.50	16.00	17.50
			兼任担当科目数 (B)	3.50	19.00	22.50
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	30.00	45.71	43.75

[2022年度]

学 科・部・専 攻			必修科目	選択必修科目	全開設授業科目	
法経科	第1部	専門教育	専任担当科目数 (A)	1.00	29.00	30.00
			兼任担当科目数 (B)	0.00	28.00	28.00
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	100.00	50.88	51.72
		教養教育	専任担当科目数 (A)	0.50	17.00	17.50
			兼任担当科目数 (B)	3.50	19.00	22.50
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	12.50	47.22	43.75
	第2部	専門教育	専任担当科目数 (A)	1.00	20.00	21.00
			兼任担当科目数 (B)	0.00	22.00	22.00
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	100.00	47.62	48.84
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.50	16.00	17.50
兼任担当科目数 (B)	2.50	16.00	18.50			
専任担当率 % (A / (A+B) *100)	37.50	50.00	48.61			
食物栄養 学科	食物栄養学 専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	6.00	22.00	28.00
			兼任担当科目数 (B)	1.00	11.00	12.00
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	85.71	66.67	70.00
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.50	17.00	18.50
			兼任担当科目数 (B)	3.50	19.00	22.50
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	30.00	47.22	45.12
生活科学科	生活科学 専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	2.00	44.00	46.00
			兼任担当科目数 (B)	0.00	47.00	47.00
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	100.00	48.35	49.46
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.50	17.00	18.50
			兼任担当科目数 (B)	3.50	19.00	22.50
			専任担当率 % (A / (A+B) *100)	30.00	47.22	45.12

- [注] 1 「全開設授業科目」とは、必修科目と選択必修科目をあわせたものである。
 2 専任担当科目数には、他学科の専任教員による兼担科目も含む。

表7 学科・専攻別の学生定員及び在籍学生数

[2020年度]

学科	部・専攻	入定 學員	収容 定員 (A)	在籍学生 総数 (B)	B/A	在籍学生数				備考
						1年次 学生数	2年次			
							学生数 (C)	留年者数 (内数) (D)	留年率 D/C (%)	
法経科	第1部	100	200	218	1.09	107	111	8	7.21	
	第2部	150	300	189	0.63	86	103	12	11.65	
計		250	500	407	0.81	193	214	20	9.35	
生活科学科	食物栄養学専攻	50	100	98	0.98	49	49	0	0.00	
	生活科学専攻	100	200	226	1.13	112	114	5	4.39	
計		150	300	324	1.08	161	163	5	3.07	
合計		400	800	731	0.91	354	377	25	6.63	

2020年5月1日現在

[2021年度]

学科	部・専攻	入定 學員	収容 定員 (A)	在籍学生 総数 (B)	B/A	在籍学生数				備考
						1年次 学生数	2年次			
							学生数 (C)	留年者数 (内数) (D)	留年率 D/C (%)	
法経科	第1部	100	200	221	1.11	109	112	5	4.46	
	第2部	100	250	153	0.61	55	98	16	16.33	
計		200	450	374	0.83	164	210	21	10.00	
食物栄養学科	食物栄養学専攻	50	50	42	0.84	42	-	-	-	
生活科学科	食物栄養学専攻	-	50	51	1.02	-	51	2	3.92	
	生活科学専攻	100	200	221	1.11	108	113	4	3.54	
合計		350	750	688	0.92	314	374	27	7.22	

2021年5月1日現在

[2022年度]

学科	部・専攻	入定 學員	収容 定員 (A)	在籍学生 総数 (B)	B/A	在籍学生数				備考
						1年次 学生数	2年次			
							学生数 (C)	留年者数 (内数) (D)	留年率 D/C (%)	
法経科	第1部	100	200	217	1.09	103	114	7	6.14	
	第2部	100	200	109	0.55	47	62	12	19.35	
計		200	400	326	0.82	150	176	19	10.80	
食物栄養学科	食物栄養学専攻	50	100	94	0.94	52	42	0	0.00	
生活科学科	生活科学専攻	100	200	209	1.05	97	112	5	4.46	
合計		350	700	629	0.90	299	330	24	7.27	

2022年5月1日現在

[注] 1 2年次学生数のうち、留年者数は、前年度の卒業判定不合格者から退学者等を引いた数。

表8 国家試験・資格試験合格率および卒業免許取得率

[2020年度]

学科・部・専攻	国家試験・資格試験の名称	受験者数 (A)	合格者数 (B) (取得者数)	合格率 (%) B/A
【国家試験・資格試験】				
生活科学科食物栄養学専攻	管理栄養士	25	10	40.0
生活科学科生活科学専攻	2級建築士		5	
	社会福祉士	8	0	0.0
【卒業免許】				
生活科学科食物栄養学専攻	栄養士免許	49	45	91.8

[2021年度]

学科・部・専攻	国家試験・資格試験の名称	受験者数 (A)	合格者数 (B) (取得者数)	合格率 (%) B/A
【国家試験・資格試験】				
生活科学科食物栄養学専攻	管理栄養士	31	12	38.7
生活科学科生活科学専攻	2級建築士		5	
	社会福祉士	10	1	10.0
【卒業免許】				
生活科学科食物栄養学専攻	栄養士免許	51	50	98.0

[2022年度]

学科・部・専攻	国家試験・資格試験の名称	受験者数 (A)	合格者数 (B) (取得者数)	合格率 (%) B/A
【国家試験・資格試験】				
生活科学科食物栄養学専攻	管理栄養士	27	6	22.2
生活科学科生活科学専攻	2級建築士		3	
	社会福祉士	15	6	40.0
【卒業免許】				
食物栄養学科食物栄養学専攻	栄養士免許	41	40	97.6

[注] 1 2級建築士合格者数は、本学が把握した人数を計上した。
受験者数、合格者数が把握できない場合は、空欄とした。

表9 卒業判定

学科・部・専攻		2020年度			2021年度		
		卒業予定者 (A)	合格者 (B)	合格率 (%) B/A	卒業予定者 (A)	合格者 (B)	合格率 (%) B/A
法経科	第1部	111	103	92.8	112	103	92.0
	第2部	103	82	79.6	98	73	74.5
計		214	185	86.4	210	176	83.8
生活科学科	食物栄養学専攻	49	47	95.9	51	51	100.0
	生活科学専攻	114	109	95.6	113	100	88.5
計		163	156	95.7	164	151	92.1
合計		377	341	90.5	374	327	87.4

学科・部・専攻		2022年度		
		卒業予定者 (A)	合格者 (B)	合格率 (%) B/A
法経科	第1部	114	108	94.7
	第2部	62	37	59.7
計		176	145	82.4
食物栄養学科	食物栄養学専攻	42	41	97.6
生活科学科	生活科学専攻	112	102	91.1
合計		330	288	87.3

[注] 1 卒業予定者数は、各年度とも5月1日現在

表10 就職・進学状況

学 科	部・専攻	進 路		2020年度	2021年度	2022年度
		就職	進学			
法経科	第1部	就職	民間企業	54	47	58
			官公庁	9	10	7
			上記以外	0	0	0
		進学	他大学編入	16	18	18
			上記以外	3	4	1
	そ の 他	21	24	24		
	合 計	103	103	108		
	第2部	就職	民間企業	21	19	11
			官公庁	1	3	1
			上記以外	0	0	0
進学		他大学編入	22	18	9	
		上記以外	4	2	1	
そ の 他		34	31	15		
合 計	82	73	37			
法経科 計				185	176	145
食物栄養学 科 ※[注3]	食物栄養学 専攻	就職	民間企業	39	41	29
			官公庁	0	0	1
			上記以外	0	0	0
		(A)	(29)	(32)	(30)	
		進学	他大学編入	5	6	7
	上記以外		1	1	0	
そ の 他	2	3	4			
合 計	47	51	41			
生活科学科	生活科学 専攻	就職	民間企業	60	51	55
			官公庁	4	4	7
			上記以外	0	0	0
		進学	他大学編入	19	20	14
			上記以外	2	3	0
	そ の 他	24	22	26		
合 計	109	100	102			

[注] 1 「その他」は、当該学科の各年度の卒業生（9月卒業を含む）のうち就職・進学のいずれも
しないものの人数を示す。

「(A)」は、教職や栄養士等の有資格者として職業に就いた卒業生数を示す。

- 2 就職については、契約社員（契約が1年以上かつ30時間以上勤務の場合）も含む。
- 3 2021年度より、食物栄養学科が新設されました。

表11 学科の退学者・休学者数

【退学者】

学 科	部・専攻	2020年度				2021年度				2022年度			
		1年次	2年次	合計	退学率 (%)	1年次	2年次	合計	退学率 (%)	1年次	2年次	合計	退学率 (%)
法経科	第1部	3	3 (3)	6	2.8	2	2 (0)	4	1.8	1	4 (1)	5	2.3
	第2部	4	5 (2)	9	4.8	4	14 (8)	18	11.8	3	7 (3)	10	9.2
法経科 計		7	8 (5)	15	3.7	6	16 (8)	22	5.9	4	11 (4)	15	4.6
食物栄養学科	食物栄養学専攻	/	/	/	/	0	/	0	0.0	1	0 (0)	1	1.1
生活科学科	食物栄養学専攻	0	0 (0)	0	0.0	0	0 (0)	0	0.0	/	/	/	/
生活科学科	生活科学専攻	3	1 (0)	4	1.8	1	8 (2)	9	4.1	1	3 (1)	4	1.9
生活科学科 計		3	1 (0)	4	1.2	1	8 (2)	9	2.9	/	/	/	/
合 計		10	9 (5)	19	2.6	7	24 (10)	31	4.5	6	14 (5)	20	3.2

【休学者】

学 科	部・専攻	2020年度			2021年度			2022年度		
		1年次	2年次	合計	1年次	2年次	合計	1年次	2年次	合計
法経科	第1部	1	0 (0)	1	0	0 (0)	0	3	1 (0)	4
	第2部	0	2 (1)	2	1	1 (0)	2	1	8 (5)	9
法経科 計		1	2 (1)	3	1	1 (0)	2	4	9 (5)	13
食物栄養学科	食物栄養学専攻	/	/	/	0	/	0	1	1 (0)	2
生活科学科	食物栄養学専攻	0	0 (0)	0	0	0 (0)	0	/	/	/
生活科学科	生活科学専攻	1	1 (0)	2	2	0 (0)	2	0	3 (2)	3
生活科学科 計		1	1 (0)	2	2	0 (0)	2	/	/	/
合 計		2	3 (1)	5	3	1 (0)	4	5	13 (7)	18

【注】1 () 内の数字は3年次以上生の学生数を内数で示したもの。

2 退学率については、各年度の5月1日現在の学生数に占める割合とする。

3 休学者数は延べ人数で示した。

表12 学科の志願者・合格者・入学者数の推移

学科	部・専攻	入試の種類		2019年度 入試	2020年度 入試	2021年度 入試	2022年度 入試	2023年度 入試	過去5年間 におけるA /Bの平均 (%)
法 経 科	第 1 部	学校推薦型選抜 (推薦入試)	志願者	77	78	60	59	70	105.8%
			合格者	53	52	56	54	55	
			入学者	53	52	56	54	55	
			入学定員	50	50	50	50	50	
		一般選抜 (一般入試)	志願者	140	123	107	92	93	
			合格者	64	64	73	70	64	
			入学者	39	40	48	39	42	
			入学定員	40	40	40	40	40	
		共通テスト利用 選抜 (センター利用入試)	志願者	93	70	17	50	42	
			合格者	32	33	12	30	12	
			入学者	17	14	5	10	2	
			入学定員	10	10	10	10	10	
		関連分野特別選 抜	志願者					3	
			合格者					3	
			入学者					3	
			入学定員					0	
	第1部 計	志願者	310	271	184	201	208		
		合格者	149	149	141	154	134		
		入学者(A)	109	106	109	103	102		
		入学定員(B)	100	100	100	100	100		
		A/B	1.09	1.06	1.09	1.03	1.02		
	第 2 部	学校推薦型選抜 (推薦入試)	志願者	35	35	23	13	23	
			合格者	30	26	20	12	23	
			入学者	13	12	7	8	15	
			入学定員	30	30	25	25	25	
		一般選抜 (一般入試)	志願者	33	33	24	19	20	
			合格者	25	25	22	18	20	
			入学者	24	21	18	14	16	
入学定員			40	40	25	25	25		
一般選抜 2次募集		志願者				5	1		
		合格者				5	1		
		入学者				5	0		
		入学定員				0	0		
共通テスト利用 選抜 (センター利用入試)		志願者	90	79	42	20	40		
		合格者	79	68	41	20	40		
		入学者	56	43	23	14	27		
		入学定員	50	50	25	25	25		
社会人特別選抜		志願者	5	10	7	7	12		
	合格者	4	10	6	7	12			
	入学者	4	10	6	6	12			
	入学定員	30	30	25	25	25			
第2部 計	志願者	163	157	96	64	96			
	合格者	138	129	89	62	96			
	入学者(A)	97	86	54	47	70			
	入学定員(B)	150	150	100	100	100			
	A/B	0.65	0.57	0.54	0.47	0.70			
学科 合計	志願者	473	428	280	265	304			
	合格者	287	278	230	216	230			
	入学者(A)	206	192	163	150	172			
	入学定員(B)	250	250	200	200	200			
	A/B	0.82	0.77	0.82	0.75	0.86			

- [注] 1 各入学定員が若干名の場合は「0」とした。
 2 関連分野特別選抜の法経科1部は経商コースのみ。
 3 2021年入試から食物栄養学科。

学科	部・専攻	入試の種類		2019年度 入試	2020年度 入試	2021年度 入試	2022年度 入試	2023年度 入試	過去5年間 におけるA /Bの平均 (%)
食物栄養学専攻	食物栄養学専攻	学校推薦型選抜 (推薦入試)	志願者	39	28	32	34	24	
			合格者	22	25	29	29	23	
			入学者	22	25	29	29	23	
			入学定員	20	20	25	25	25	
		一般選抜 (一般入試)	志願者	44	40	20	30	22	
			合格者	39	40	18	24	20	
			入学者	22	21	9	12	11	
			入学定員	25	25	20	20	20	
		共通テスト利用 選抜 (センター利用入試)	志願者	32	15	21	21	11	
			合格者	21	15	21	10	11	
			入学者	5	3	4	3	6	
		関連分野特別選抜	志願者				8	11	
	合格者					8	8		
	入学者					8	8		
	入学定員					0	0		
	学科 合計	志願者	115	83	73	93	68		
		合格者	82	80	68	71	62		
		入学者 (A)	49	49	42	52	48		
		入学定員 (B)	50	50	50	50	50		
		A/B	0.98	0.98	0.84	1.04	0.96		
生活科学専攻	生活科学専攻	学校推薦型選抜 (推薦入試)	志願者	36	31	38	38	34	
			合格者	35	31	36	38	34	
			入学者	35	31	36	38	34	
			入学定員	45	45	45	45	45	
		一般選抜 (一般入試)	志願者	74	75	79	65	52	
			合格者	69	65	74	61	47	
			入学者	46	36	42	38	27	
			入学定員	30	30	30	30	30	
		共通テスト利用 選抜 (センター利用入試)	志願者	78	104	38	48	58	
			合格者	53	61	37	47	58	
			入学者	28	33	20	15	29	
			入学定員	20	20	20	20	20	
	関連分野特別選抜	志願者	4	12	9	6	5		
		合格者	4	8	8	5	5		
		入学者	4	8	8	5	5		
		入学定員	5	5	5	5	5		
	社会人特別選抜	志願者	1	5	3	1	4		
		合格者	1	4	3	1	4		
		入学者	0	4	2	1	2		
		入学定員	0	0	0	0	0		
学科 合計	志願者	193	227	167	158	153			
	合格者	162	169	158	152	148			
	入学者 (A)	113	112	108	97	97			
	入学定員 (B)	100	100	100	100	100			
	A/B	1.13	1.12	1.08	0.97	0.97			
短期大学合計	志願者	781	738	520	516	525			
	合格者	531	527	456	439	440			
	入学者 (A)	368	353	313	299	317			
	入学定員 (B)	400	400	350	350	350			
	A/B	0.92	0.88	0.89	0.85	0.91			

表13 学科の入学者の構成 (2023年度入試)

学 科	部		入 学 者 数						備 考	
			一般選抜	一般選抜 (2次募集)	学校推薦 型選抜	共通テスト 利用選抜	社会人特 別選抜	関連分野 特別選抜		計
法経科	第1部	入学定員	40		50	10		0	100	
		入学者数	42		55	2		3	102	
		計に対する割合	41.2%		53.9%	2.0%		2.9%	100.0%	
	第2部	入学定員	25	0	25	25	25		100	
		入学者数	16	0	15	27	12		70	
		計に対する割合	22.9%	0.0%	21.4%	38.6%	17.1%		100.0%	
食物栄養学科	入学定員	20		25	5		0	50		
	入学者数	11		23	6		8	48		
	計に対する割合	22.9%		47.9%	12.5%		16.7%	100.0%		
生活科学科	入学定員	30		45	20	0	5	100		
	入学者数	27		34	29	2	5	97		
	計に対する割合	27.8%		35.1%	29.9%	2.1%	5.1%	100.0%		
合 計	入学定員	115	0	145	60	25	5	350		
	入学者数	96	0	127	64	14	16	317		
	計に対する割合	30.3%	0.0%	40.1%	20.2%	4.4%	5.0%	100.0%		

2023年4月5日現在

[注] 1 各入学定員が若干名の場合は「0」とした。また、当該入試制度を導入していない場合は、空欄とした。

表14 学生相談室利用状況

施設の名称	専任 スタッフ 数	非常勤 スタッフ 数	開室時間	年間開設日数			年間相談件数			備 考
				2020年度	2021年度	2022年度	2020年度	2021年度	2022年度	
学生相談室	0	1	10:30 ~ 13:30	9		6	19		10	臨床心理士
	0	1	14:30 ~ 16:30	1			1			臨床心理士
	0	1	16:30 ~ 19:30	36	43		89	77		臨床心理士
	0	1	17:30 ~ 19:30			22			29	臨床心理士

表15 奨学金給付・貸与状況 (2022年度)

(単位:千円)

奨学金の名称	給付・貸与 の別	支給対象 学生数 (A)	在籍学生 総数 (B)	在籍学生数に 対する比率 (%) A/B	支給総額 (C)	1件あたり支給額 C/A
日本学生支援機構奨学金	貸与	200	629	31.8%	110,436	552
	給付	98		15.6%	39,304	401
計		298	629	47.4%	149,740	502

表16 授業料免除状況

(人)

年度	2020年度	
	前期	後期
学期	大学独自減免 (2年生)	
全額免除	総数	2 2
	法経科第1部	2 1
	法経科第2部	0 1
	生活科学科	0 0
	1年次	0 0
	2年次	2 2
	半額免除	0 0
総数	0 0	
法経科第1部	0 0	
法経科第2部	0 0	
生活科学科	0 0	
1年次	0 0	
2年次	0 0	

(人)

年度	2020年度		2021年度				2022年度			
	前期	後期	前期		後期		前期		後期	
学期	修学支援新制度に基づく		修学支援新制度に基づく	大学独自減免	修学支援新制度に基づく	大学独自減免	修学支援新制度に基づく	大学独自減免	修学支援新制度に基づく	大学独自減免
全額免除	総数	78 78	73 4	65 5	53 1	55 0				
	法経科第1部	23 21	24 1	21 1	22 0	24 0				
	法経科第2部	22 25	18 2	15 2	7 0	7 0				
	食物栄養学科		9 0	8 0	6 0	6 0				
	生活科学科	33 32	22 1	21 2	18 1	18 0				
	1年次	41 43	35 0	31 1	23 0	23 0				
	2年次	37 35	38 4	34 4	30 1	32 0				
2/3免除	総数	26 27	21 1	23 1	21 0	24 1				
	法経科第1部	7 9	8 0	9 0	9 0	9 0				
	法経科第2部	7 6	4 0	4 0	4 0	3 0				
	食物栄養学科		4 0	4 0	1 0	4 0				
	生活科学科	12 12	5 1	6 1	7 0	8 1				
	1年次	14 13	10 0	11 0	11 0	10 0				
	2年次	12 14	11 1	12 1	10 0	14 1				
1/3免除	総数	19 13	18 0	14 0	18 0	9 0				
	法経科第1部	4 4	5 0	5 0	8 0	3 0				
	法経科第2部	7 4	6 0	2 0	3 0	1 0				
	食物栄養学科		1 0	2 0	2 0	1 0				
	生活科学科	8 5	6 0	5 0	5 0	4 0				
	1年次	14 9	9 0	6 0	12 0	7 0				
	2年次	5 4	9 0	8 0	6 0	2 0				

表17 教員研究費

学科	研究費の内訳	2020年度			2021年度			2022年度			
		研究費 (円)	研究費総額 に対する 割合	教員1人 あたりの額 (円)	研究費 (円)	研究費総額 に対する 割合	教員1人 あたりの額 (円)	研究費 (円)	研究費総額 に対する 割合	教員1人 あたりの額 (円)	
法経科	学内	研究費総額	4,928,000	100%	352,000	4,890,000	100%	365,000	4,890,000	100%	365,000
		経常研究費	3,080,000	63%	220,000	2,860,000	58%	220,000	2,860,000	58%	220,000
		学内共同研究費									
	学外	経常研究費	1,848,000	37%	132,000	2,030,000	42%	145,000	2,030,000	42%	145,000
		科学研究費補助金									
		政府もしくは政府関連 法人からの研究助成金									
		民間の研究助成財団 等からの研究助成金									
		奨学寄附金									
		受託研究費									
		共同研究費									
その他											
食物栄養学科	学内	研究費総額			3,040,000	100%	315,000	3,950,000	100%	315,000	
		経常研究費			1,360,000	54%	170,000	1,360,000	54%	170,000	
		学内共同研究費									
	学外	経常研究費			1,160,000	38%	145,000	1,160,000	29%	145,000	
		科学研究費補助金			520,000	17%	—	1,430,000	36%	—	
		政府もしくは政府関連 法人からの研究助成金									
		民間の研究助成財団 等からの研究助成金			0		—	0		—	
		奨学寄附金									
		受託研究費									
		共同研究費									
その他											
生活科学科	学内	研究費総額	12,994,000	100%	302,000	2,520,000	100%	315,000	2,520,000	100%	315,000
		経常研究費	2,720,000	21%	170,000	1,360,000	54%	170,000	1,360,000	54%	170,000
		学内共同研究費									
	学外	経常研究費	2,112,000	16%	132,000	1,160,000	46%	145,000	1,160,000	46%	145,000
		科学研究費補助金	4,550,000	35%	—	0	0%	—	0	0%	—
		政府もしくは政府関連 法人からの研究助成金									
		民間の研究助成財団 等からの研究助成金	3,612,000	28%	—	0	—	0	—	—	
		奨学寄附金									
		受託研究費									
		共同研究費									
その他											

- [注] 1 「教員1人あたりの額」は、個人研究費を含まない。
 2 「学外の経常研究費」は、教育振興会からの研究費・旅費補助を含む。

表18 科学研究費の採択状況

学科	文科省 科学研究費								
	2020年度			2021年度			2022年度		
	申請 件数(A)	採択 件数(B)	採択率 (%)	申請 件数(A)	採択 件数(B)	採択率 (%)	申請 件数(A)	採択 件数(B)	採択率 (%)
法経科	0	0	0.0	0	0	0.0	1	0	0.0
食物栄養学科				2	0	0.0	1	1	100.0
生活科学科	3	1	33.3	0	0	0.0	0	0	0.0
計	3	1	33.3	2	0	0.0	2	1	50.0

[注] 1 採択件数には、当該年度新規に採択された件数のみ示す。

表19 教員研究室の状況 (2022年度)

学 科	室 数			総面積 (㎡)	1室あたりの 平均面積 (㎡)		専任教員数 (B)	個室率 (%) A/B	教員1人あた りの平均面積 (㎡)	備 考
	個室(A)	共 同	計		個 室	共 同				
法経科	14	1	15	318.0	19.5	45.0	14	100%	22.7	0
食物栄養学科	8		8	213.8	26.7		8	100%	26.7	0
生活科学科	8	1	9	231.4	26.9	35.4	8	100%	28.9	0
計	30	2	32	763.2						

[注] 1 「備考」欄には、個室を持たない教員数を示す。

表20 専任教員の担当授業時間数（2022年度）

法経科 (14人)

区分	教員	教授	准教授	講師	助教	備考
最高		14.0 授業時間	10.0 授業時間	10.0 授業時間		1 授業時間:45分
最低		6.0 授業時間	10.0 授業時間	10.0 授業時間		
平均		10.0 授業時間	10.0 授業時間	10.0 授業時間		

食物栄養学科 (8人)

区分	教員	教授	准教授	講師	助教	備考
最高		12.7 授業時間	11.2 授業時間	11.2 授業時間	4.2 授業時間	1 授業時間:45分
最低		11.2 授業時間	8.1 授業時間	11.2 授業時間	4.2 授業時間	
平均		12.0 授業時間	9.7 授業時間	11.2 授業時間	4.2 授業時間	

生活科学科 (8人)

区分	教員	教授	准教授	講師	助教	備考
最高		13.3 授業時間	13.1 授業時間	10.6 授業時間		1 授業時間:45分
最低		12.1 授業時間	10.1 授業時間	10.6 授業時間		
平均		12.8 授業時間	11.5 授業時間	10.6 授業時間		

[注] 1 表3で算出した毎週授業時間数をもとに、1週間あたりの授業時間数を記載した。

[注] 2 在外研修及び休職、並びに後期就職者を含む。

表21 公開講座の開設状況

講座名	年間開設講座数(A)			募集人員(延べ数)			参加者(延べ数)(B)			1講座当たりの 平均受講者数 (B)/(A)		
	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
オープンカレッジ	0	10	10	0	500	500	0	416	459	0	42	46
地域連携講座	0	3	2	0	150	100	0	105	75	0	35	38
出前講座	3	17	15	—	—	—	56	471	416	19	28	28
計	3	30	27	0	650	600	56	992	950	19	33	35

[注] 1 2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響によりオープンカレッジと地域連携講座は中止とした。

表22 校地・校舎、講義室・演習室等の面積（2022年度）

校 地 ・ 校 舎				講 義 室 ・ 演 習 室 等	
校地面積 (m ²)	設置基準上必要校地面積 (m ²)	校舎面積(m ²)	設置基準上必要校舎面積 (m ²)	講義室・演習室・学生実習室総数	講義室・演習室・学生実習室総面積 (m ²)
25,045	8,000	7,059	5,150	27	2,611

[注] 1 校舎面積には、講義室、演習室、学生実習室、実験・実習室、研究室、附属図書館（書庫、閲覧室、事務室）、管理関係施設（学長室、応接室、事務室、医務室等）、大学ホール、クラブハウス、廊下、便所等を含む。

2 校地面積は令和元年度地籍調査により修正。

表23 学科・専攻毎の講義室・演習室等の面積・規模（2022年度）

講義室・演習室 学生自習室等	室数	総面積 (m ²)	専用・共用 の別	収容人員 (総数)	学生総数	在籍学生1人あ たり面積 (m ²)	備考
講義室			生活専用				
			食物栄養専用				
			法経専用				
	12	1,196.2	共用	940	629	1.90	
演習室	1	35.4	生活専用	12	209	0.17	
			食物栄養専用				
	5	75.0	法経専用	60	326	0.23	
	2	161.8	共用	75	629	0.26	
実験室			生活専用				
	2	279.5	食物栄養専用	100	94	2.97	
			法経専用				
			共用				
実習室	1	163.7	生活専用	50	209	0.78	
	3	535.9	食物栄養専用	120	94	5.70	
			法経専用				
	1	163.7	共用	52	629	0.26	
体育館	1	1,519	共用				

表24 図書資料の所蔵数（2022年度）

図書館の名称	図書の冊数（冊）		定期刊行物の種類（種類）		視聴覚資料の所蔵数（点数）	電子ジャーナルの種類（種類）	過去3年間の図書受け入れ状況（冊）			備考
	図書の冊数	開架図書の冊数（内数）	内国書	外国書			2020年度	2021年度	2022年度	
三重短期大学附属図書館	100,207	40,000	97	15	415	12	1,013	1,206	1,401	

[注] 1 視聴覚資料の所蔵数は、点数を示す。

表25 学生閲覧室等の面積・座席数（2022年度）

図書館の名称	図書館の面積 (㎡)	学生閲覧室	学生収容定員 (B)	収容定員に対する 座席数の割合(%) A/B	その他の学習 室の座席数	利用者用PC (台)		視聴覚資料 視聴ブース (席)
		座席数 (A)				資料検索	データ ベース	
三重短期大学附属図書館	404	76	700	10.9	0	1	1	3

表26 図書館利用状況

専任 スタッフ数 (人)	非常勤 スタッフ数 (人)	年間 開館 日数	開館時間	入館者数(人)			貸出者数(人)			貸出冊数(冊)		
				2020年度	2021年度	2022年度	2020年度	2021年度	2022年度	2020年度	2021年度	2022年度
2 (2)	1.5 (1.5)	229	開講日 8:30 ~21:00 休講日 8:30~ 17:00	9,152	16,878	13,932	2,229	3,565	2,689	4,327	6,597	4,506
							学内 2,156 [教職員] 264 学生 1,892	学内 3,516 [教職員] 378 学生 3,138	学内 2,653 [教職員] 334 学生 2,319	学内 4,204 [教職員] 644 学生 3,560	学内 6,520 [教職員] 1,021 学生 5,499	学内 4,437 [教職員] 851 学生 3,586
							学外 73	学外 49	学外 36	学外 123	学外 77	学外 69

- [注] 1 スタッフ数の()内数字は司書の資格を有するものの人数。
 2 開館時間には1月と7月の臨時開館日(土曜開館、月末開館)は含まない。
 3 入館者数は、貸出者数と閲覧利用等の利用者数の合計値。
 4 貸出者数、貸出冊数は、学内、学外の合計値。
 5 非常勤スタッフについては、夜間のみのスタッフを0.5人で換算。

表27 歳入・歳出決算表

(円)

歳入・出	内訳	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
歳入合計		584,273,026	528,889,033	611,706,668	552,537,729	576,493,097	776,639,913	600,751,000
	授業料	215,652,500	219,095,000	227,303,500	204,116,600	197,537,500	187,247,500	197,538,000
	入学料	47,446,100	59,368,700	56,654,200	41,750,700	41,679,600	44,105,700	41,728,000
	入学検定料	13,203,000	14,138,000	13,370,000	9,462,000	9,252,000	9,533,000	9,297,000
	その他歳入	54,290,884	8,042,978	70,056,906	10,663,883	3,751,064	198,811,348	3,766,000
	一般財源	253,680,542	228,244,355	244,322,062	286,544,546	324,272,933	336,942,365	348,422,000
歳出合計		584,273,026	528,889,033	611,706,668	552,537,729	576,493,097	776,639,913	600,751,000
	①一般職給	411,884,817	407,120,234	417,178,346	431,131,614	425,831,740	426,164,497	443,481,000
	②大学管理運営事業	90,504,584	90,002,209	93,185,047	94,223,972	122,781,509	105,956,716	108,157,000
	③図書館管理運営事業	13,864,018	12,460,385	12,819,690	12,770,076	12,453,844	11,836,428	25,337,000
	④地域貢献推進事業	1,020,967	780,031	676,046	520,328	681,375	574,717	1,686,000
	⑤地域問題研究事業	2,436,758	2,360,368	1,034,866	2,595,544	2,675,621	2,671,861	2,793,000
	⑥教育研究関係事業	11,752,205	11,701,803	11,516,508	8,982,125	3,750,243	5,335,565	8,094,000
	⑦施設維持補修事業	52,809,677	4,464,003	75,296,165	2,314,070	8,318,765	224,100,129	11,203,000

(各年決算資料より作成 2023年度は予算額)

表28 教授会開催状況(2022年度)

開催年月日	定例・臨時の別	出席数(人)	欠席数(人)	審議事項
4/21	定例	35	0	1 2022年度各種委員会委員について 2 休学・退学願について 3 既修得単位の認定について 4 地域問題研究所研究員の承認について
5/19	定例	35	0	1 休学・退学願について 2 地域連携事業「連携校対象の講義(文章作成の技法と実践)」について
6/16	定例	34	1	1 休学・退学願について 2 今年度の「目標と計画」について 3 アドミッション・ポリシーについて 4 学修成果の共有とルーブリックについて
7/21	定例	34	1	1 休学・退学願について 2 法経科専任教員(行政法担当教員)公募(第1次選考)について 3 非常勤講師の採用について 4 2022年度開設講座表及び時間割について 5 三重短期大学情報委員会規程の改正について 6 ルーブリックの作成について
8/9	臨時	32	3	1 法経科専任教員(行政法担当教員)公募(第2次選考)について 2 休学願について 3 三重短期大学情報ネットワーク利用規程の改正について
9/9	臨時	32	3	1 令和4年9月卒業判定について 2 科目等履修生合否判定について 3 令和5年度行事日程(前期)について 4 令和5年度在外研修について 5 三重短期大学研究倫理委員会規程の改正について 6 三重短期大学総務連絡調整会議規程の改正について 7 三重短期大学資格審査委員会規程の改正について 8 学長選挙管理委員会の設置について 9 法経科専任教員(行政法担当)第2次選考結果について(追認)
9/22	臨時	35	0	1 三重短期大学法経科専任教員公募要領(案)について 2 教員評価について
10/20	定例	34	1	1 休学願・退学願について 2 令和5年度行事日程(案)について 3 2023年度開設講座表について 4 学長選挙日程(案)について
10/27	臨時	34	1	1 令和5年度関連分野特別選抜入学試験合否判定について 2 令和5年度行事日程(案)について 3 非常勤講師の採用について
11/24	定例	34	1	1 休学願・退学願について 2 非常勤講師の採用について 3 2023年度開設講座表(案)及び時間割(案)について 4 学長候補者の承認について
12/1	臨時	34	1	1 令和5年度学校推薦型選抜及び社会人特別選抜入学試験の合否判定について
12/15	定例	34	1	1 休学願について 2 2023年度開設講座表(案)及び時間割(案)について 3 学長選挙投票結果について

1/19	定例	34	1	<ul style="list-style-type: none"> 1 休学願について 2 令和5年度行事日程（予定）について 3 法経科専任教員（行政法担当教員）公募（第1次選考）について 4 非常勤講師の採用について 5 2023年度開設講座表（案）及び時間割（案）について 6 卒業研究テーマ一覧（案）について 7 外部資金受入状況一覧（案）について 8 ルーブリック（案）について 9 アセスメント・ポリシー（案）について 10 学生部長の改選について 11 附属図書館長及び地域連携センター長の改選について
2/2	臨時	34	1	<ul style="list-style-type: none"> 1 法経科専任教員（行政法担当教員）公募（第2次選考）について 2 三重短期大学科目等履修生に関する規程の改正について 3 三重短期大学聴講生に関する規程の改正について 4 三重短期大学学則の改正について 5 専任教員の昇任について
2/14	臨時	34	1	<ul style="list-style-type: none"> 1 令和5年度一般選抜入学試験の合否判定について 2 非常勤講師の採用について 3 三重短期大学教員資格審査委員会規程施行細則の改正について
2/27	臨時	33	2	<ul style="list-style-type: none"> 1 令和4年度卒業判定について 2 令和4年度栄養士免許取得要件の判定について 3 2023年度開設講座表（案）及び時間割（案）について 4 PROGテストの実施について 5 令和4年度外部評価委員会改善状況報告書について 6 三重短期大学教員資格審査委員会規程施行細則の改正について 7 三重短期大学学則の改正について 8 三重短期大学再入学に関する規程の改正について
3/7	臨時	30	5	<ul style="list-style-type: none"> 1 令和5年度大学入学共通テスト利用選抜（法経科第1部・食物栄養学科・生活科学科）・法経科第2部（一般選抜・社会人特別選抜・大学入学共通テスト利用選抜）入学試験の合否判定について
3/16	定例	33	2	<ul style="list-style-type: none"> 1 休学願について 2 再入学希望者に係る審査結果について 3 令和5年度科目等履修生・聴講生の合否判定について 4 2023年度開設講座表（案）及び時間割（案）について 5 令和5年度行事日程（予定）について 6 法経科専任教員公募要領（案）について 7 食物栄養学科専任教員内部昇格（案）等について 8 令和5年度各種委員（案）について 9 教員評価について
3/27	臨時	31	4	<ul style="list-style-type: none"> 1 令和5年度法経科第2部一般選抜入学試験（2次募集）の合否判定について 2 休学・退学願について 3 2023年度時間割（案）について 4 2023年度三重短期大学運営方針（案）について 5 2023年度キャリア支援方針（案）について 6 大学入学共通テスト利用選抜における配点の変更について 7 人材評価実施要領（案）について 8 法経科専任教員公募要領（案）について 9 食物栄養学科専任教員内部昇格（案）等について 10 各種委員会の今年度の「総括」について 11 教員資格審査委員会委員の改選について 12 令和5年度各種委員（案）について

三重短期大学教員研究・教育業績 (2022年度)

所属：法経科		職名：教授	氏名：村井 美代子
I 研究活動			
1 研究課題：イギリス・ロマン派の詩			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：英語Ⅰ（基礎、夜、通年、2）、英語講読（共通、昼、通年、2）、英語講読（共通、夜、通年、2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 (その他)	オフィスアワーでは進路や学習についての相談に応じ、編入学希望学生には過去問の採点、志望理由書の添削、面接練習などを行った。またTOEICや英検受験希望学生に、学習方法などの指導を行った。		
教育上の工夫	<p>英語Ⅰ（基礎、夜、通年、2） 感染対策をとりながらの対面授業だったため、コロナ前のように学生一人一人に考えや回答を求めることが十分に実施しにくかったが、今年度は学生に少し発言を求めるようにし、徐々に本来の「演習」形式に戻すように努めた。アクリル板が教卓に設置されていたため、板書が見にくいとの声があり、板書を減らして講義資料を配付した。学習の補助になったようなので次年度以降も続けてみたい。発言の機会が減ったため、学生の理解度の把握が難しかった。プリント提出数を増やすなどして、学生の理解度や質問の把握を工夫した。</p> <p>英語講読（共通、昼、通年、2） 感染対策をとりながらの対面授業だったため、コロナ前のように学生一人一人に考えや回答を求めることが十分に実施しにくかったが、今年度は学生に少し発言を求めるようにし、徐々に本来の「演習」形式に戻すように努めた。アクリル板が教卓に設置されていたため、板書が見にくいとの声があり、板書を減らして講義資料を配付した。学習の補助になったようなので次年度以降も続けてみたい。発言の機会が減ったため、学生の理解度の把握が難しかった。プリント提出数を増やすなどして、学生の理解度や質問の把握を工夫した。</p> <p>英語講読（共通、夜、通年、2） 感染対策をとりながらの対面授業だったため、コロナ前のように学生一人一人に考えや回答を求めることが十分に実施しにくかったが、今年度は学生に少し発言を求めるようにし、徐々に本来の「演習」形式に戻すように努めた。アクリル板が教卓に設置されていたため、板書が見にくいとの声があり、板書を減らして講義資料を配付した。学習の補助になったようなので次年度以降も続けてみたい。発言の機会が減ったため、学生の理解度の把握が難しかった。プリント提出数を増やすなどして、学生の理解度や質問の把握を工夫した。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本英文学会、イギリス・ロマン派学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	<p>『赤毛のアン』を読み直す』（出前講座 アスト津 11月22日） 「あらすじで読み直すイギリス小説」（出前講座 松阪公民館 10月7日）</p>		
学外審議会委員等	<p>文部科学省 大学設置・学校法人審議会委員 三重県 県民功労者選考委員 内閣府 男女共同参画推進連携会議議員 日本高等教育評価機構 短期大学評価判定委員 全国公立短期大学協会 副会長</p>		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
<p>小学生の頃、石井桃子訳の『クマのプーさん』を読んでイギリスが大好きになり、日本語訳ではなく原語で読めるようになりたいと思ったことが英語学習のスタートです。大学2年生の時にイギリスの詩人ジョン・キーツの作品に出会い、イギリス文学研究の道を進むことになりました。研究者となり教員となりましたが、「イギリスと英語が大好き」ということに今も変わりありません。「受験英語」として仕方なく学んできたという人も多いと思いますが、受験勉強から解放された大学の2年間、英文を読み解く楽しさを学生の皆さんと共有できればと思っています。</p>			

三重短期大学教員研究・教育業績（2022年度）

所属：法経科		職名：教授	氏名：楠本 孝
I 研究活動			
1 研究課題：ヘイトスピーチの刑事規制			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：刑法（法1、昼、前期、4）、刑法（法2、夜、後期、4）、刑事政策（法1、昼、後期、2）、法学基礎演習（法1、昼、後期、2）、演習（法1、昼、通年、4）、社会科学演習（法2、夜、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）			
教育上の工夫	<p>刑法（法1、昼、前期、4） 罪刑法定主義、法益保護の原則、責任主義など、刑法学の基本原則を丁寧に時間をかけて講義した。</p> <p>刑法（法2、夜、後期、4） 罪刑法定主義、法益保護の原則、責任主義など、刑法学の基本原則を丁寧に時間をかけて講義した。</p> <p>刑事政策（法1、昼、後期、2） 死刑存廃論、終身刑導入論、少年法の概要、少年法改正、精神障害者の犯罪と対策について、丁寧に時間をかけて講義した。</p> <p>法学基礎演習（法1、昼、後期、2） 山口厚『刑法入門』（岩波新書）をゼミ生全員で精読した。</p> <p>演習（法1、昼、通年、4） ゼミ生が自分の研究テーマについて、先行研究の内容を報告し、ゼミ生全員で討議する形式で進め、最終的にゼミ生全員がゼミ論文にまとめ、ゼミ論集を作成した。</p> <p>社会科学演習（法2、夜、通年、4） ゼミ生が自分の研究テーマについて、先行研究の内容を報告し、教員と討議する形式で進め、最終的にゼミ論文にまとめ、ゼミ論集に掲載した。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本刑法学会、日本犯罪社会学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	<p>NACS三重分科会に出前講座「少年非行について」（2022年11月12日）、 地域問題研究所研究交流集会「外国人との共生の在り方を考える」コーディネーター（2023年2月4日）</p>		
学外審議会委員等	津市人権施策審議会委員、津市青少年問題協議会委員、津市国際交流推進基金運営委員会委員		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
ヘイトスピーチ規制の保護法益としての「人間の尊厳」概念について勉強中です。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2022年度）

所属：法経科		職名：教授	氏名：石原 洋介
I 研究活動			
1 研究課題：東アジアにおける金融・経済協力、自由貿易協定（FTA）とWTOルールの研究、世界の南北格差の解決に向けての研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：金融論（法1、昼、後期、4）、金融論（法2、夜、前期、4）、国際経済論（法1、昼、前期、2）、演習（法1、昼、通年、4）、社会科学演習（法2、夜、通年、4）、経商基礎演習（法1、昼、後期、2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	三重短期大学生協専務理事		
学内教育活動 （その他）	クラス担任、オフィスアワー、卒論作成指導、編入学のための面接指導		
教育上の工夫	<p>金融論（法1、昼、後期、4） 金融論は四年制大学の経済学部では三年次以降に配置されることが多いため、短大生には難解な金融理論の解説よりも、いわゆる金融リテラシー教育に重点をおいてカリキュラムを組んでいる。図や表を多用してわかりやすいレジュメ作成に努めている。</p> <p>国際経済論（法1、昼、前期、2） 現在の新自由主義的グローバリゼーションがもたらした経済格差の拡大や国際金融の不安定化について理論、歴史、具体的事例、今後の課題と展望を学べるように、カリキュラム編成している。特に私の専門研究対象であるアジア経済を重点的にとりあげ、これまでの研究成果を生かした内容を教授するようにしている。</p> <p>演習（法1、昼、通年、4） 金融論演習では学生の興味関心を喚起するため夏季休暇を利用して日本銀行、貨幣博物館、東京証券取引所の見学を予定していたが、コロナ禍で中止した。前期は見学に向けた準備として日本銀行の機能や役割について学んだ。後期は卒論作成を通じた論文作成指導を行いながら、環境と経済と社会のバランスのとれた発展をテーマとした文献を使い、ゼミ生と討論した。</p> <p>金融論（法2、夜、前期、4） 金融論は四年制大学の経済学部では三年次以降に配置されることが多いため、短大生には難解な金融理論の解説よりも、いわゆる金融リテラシー教育に重点をおいてカリキュラムを組んでいる。図や表を多用してわかりやすいレジュメ作成に努めている。</p> <p>社会科学演習（法2、夜、通年、4） 社会科学演習では現代グローバリズムがもたらした諸矛盾を学び、どうすれば解決できるのかを学生とともに議論している。また、前期はSDGsをテーマとし、各主体がどのように目標に貢献できるのかを討議した。後期は米中対立を経済、金融面から考える文献を用い日本の進路について考えた。</p> <p>経商基礎演習（法1、昼、後期、2） 経済・金融の基礎を学びながら、レジュメ作成、報告、討論などのゼミ活動に慣れってもらうことに主眼を置いた。テーマは国立第一銀行頭取として日本の資本主義形成に多大な貢献をした波沢栄一の自叙伝やSDGsに関する文献を使用した。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本金融学会、経済理論学会、日本科学者会議			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動	津演劇鑑賞会幹事、日本科学者会議三重支部事務局長		
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
<p>FDSDFワーキンググループ長、生協専務理事、学外では日本科学者会議三重支部事務局長、演劇鑑賞会幹事などの仕事を引き受け、気がつくという間に一年が過ぎていました。FDSDFワーキング長としては、卒業研究ループリックの取り纏めや、授業評価アンケートの見直しなどを行いました。2023年度から図書館長兼地域連携センター長に選出されたので、志願者増や地域連携事業の発展に尽力したいと思います。</p>			

三重短期大学教員研究・教育業績（2022年度）

所属：法経科		職名：教授	氏名：藤枝 律子
I 研究活動			
1 研究課題：行政活動に対する市民・住民の参加			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：行政法（法1、昼、前期、4）、行政法（法2、夜、前期、4）、演習（法1、昼、通年、4）、社会科学演習（法2、夜、通年、4）、地方自治法（法1、昼、後期、2）、法学基礎演習（法1、昼、後期、2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）	クラス担任、オフィスマワー、学外演習（裁判傍聴）、卒論作成指導、編入学のための面接試験指導		
教育上の工夫	<p>行政法（法1、昼、前期、4） 学生の興味を引くように、テレビのドキュメント番組等を録画したDVDを観る機会を作るようにして、講義に少し変化をもたせるよう工夫した。少しでも社会に対して興味・関心を持てるよう、できるだけ最近のニュースを素材にして授業を組み立てることを心がけた。取り上げたテーマを、多くの学生が身近な問題として考えられるような講義になるように努力をした。</p> <p>行政法（法2、夜、前期、4） 判例だけでなく、新聞記事やテレビのドキュメント番組等の録画を利用して、学生たちの興味を引くように講義に変化を持たせるよう工夫した。少しでも社会に対して興味・関心を持てるよう、できるだけ新しい判例や出来事を素材にして授業を組み立てることを心がけた。取り上げたテーマを、多くの学生が身近な問題として考えられるような講義になるように努力をした。</p> <p>演習（法1、昼、通年、4） ディベート形式で、演習を行った。それぞれの学生が、卒論のテーマとして、行政判例の一つを選択し、判決文や参考文献を読み込んでから、自分が選んだ判例に対する裁判官役を務めた。他のゼミ生が原告、被告に分かれて、それぞれの立場から活発な議論を出来るように促した。卒論執筆者は、出された意見を参考にしながら、卒論を執筆するように指導をした。卒論完成までメールで、提出原稿を繰り返し添削した。</p> <p>社会科学演習（法2、夜、通年、4） 前期の前半では、テキストを使用して、行政法の講義と同時進行で、基礎的な知識の習得を目指した。後半は、それぞれの学生が、卒論のテーマとして、行政判例の一つを選択してもらい、判決文や参考文献を準備した。図書館での文献の探し方やデータベースの利用方法も教えながら、卒論執筆が円滑に進行するように指導を行った。卒論完成までメールで、提出原稿を繰り返し添削した。</p> <p>地方自治法（法1、昼、後期、2） ドキュメンタリー等の視覚教材や新聞の切り抜き等を活用して、地方自治に関心を持てられるように工夫した。少しでも自分の住んでいる「まち」に関して興味・関心を持てるように、出来るだけ最近のニュースを素材にして授業を組み立てることを心掛けた。</p> <p>法学基礎演習（法1、昼、後期、2） 2年生の演習につながるよう、図書館での文献の探し方やデータベースの利用方法の説明を行い、さらに判決文を丁寧に読み込むことから始めた。その後、裁判官・原告・被告に分かれて、それぞれの立場から意見を述べるディベート形式で、演習を行った。出来るだけ自分達で、活発な議論ができるように各チームに分かれての準備の時間も充分にとるようにした。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本教育法学会、日本公法学会、日本地方自治学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等	桑名市情報公開・個人情報保護審査会委員・行政不服審査会委員、鈴鹿市建築審査会委員、四日市市市情報公開・個人情報保護審査会委員、三重県男女共同参画審議会委員、鈴鹿市景観審議会委員		
学外講演会講師等	「男女共同参画・ジェンダー平等と地方自治」東海自治体学校分科会講座（2022年5月15日）		
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
教育をはじめ、行政は我々にとって身近な存在であるにもかかわらず、遠くに感じられる存在でもあります。行政の活動に対してどのように市民・住民が関心を持ち、関わり、参加しているか、その可能性を考えていきたいと思っています。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2022年度）

所属：法経科		職名：教授	氏名：大畑 智史
I 研究活動			
1 研究課題：支出税構想の活用方法の検討、最適課税論の観点からの租税分析、J.S.ミルの租税論分析			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他	<p>「統計データ不正防止策を考える」（日本科学者会議滋賀支部『NEWS LETTER』81、2022年）</p> <p>「大西広 編著『マルクス派数理政治経済学』（基礎経済科学研究所『経済科学通信』156、2022年）</p> <p>「自己紹介と『応能税の再構築を目指して』（大阪税経新人会『大阪税経新人会ニュース』568、2022年12月）</p> <p>「関西広域連合への三重県の参加について」（三重短期大学地域問題研究所『地研年報』27、2022年）</p>		
学会等報告	<p>「地方創生におけるICT活用」（基礎経済科学研究所『2022 秋季研究大会 予稿集』、2022年、※分科会報告）</p> <p>「中小企業支援策について」（基礎経済科学研究所自由大学院 第15回読者会、ZOOM、2022年）</p> <p>「関西広域連合への三重県の参加について」（2022年度地研研究交流集會報告、2023年）</p>		
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：地方財政論（法2、夜、後期、2）、財政学（法1、昼、後期、4）、財政学（法2、夜、前期、4）、経商基礎演習（法1、昼、後期、2）、演習（法1、昼、通年、4）、社会科学演習（法2、夜、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）	<p>1年 クラス・基礎演習履修生対象（第1部・第2部）：主として、面談（進路、授業履修、他）、オフィスアワー</p> <p>2年 演習履修生対象（第1部・第2部）：主として、面談（進路、授業履修、他）、オフィスアワー、学外学習（自由参加、津市美杉町奥津方面（6月実施）、熊野市方面（12月実施）、現地の方との交流を重視）</p>		
教育上の工夫	<p>地方財政論（法2、夜、後期、2）</p> <p>できるだけ、各論点（地方債、公会計、他）の重要な点を、その関係各種データを参照したりしながら明瞭に伝える。このために、各回において、基本的に、中心となる資料（その回の内容の骨格がよくわかるもの）を提示し、これを板書や各種データや具体的事例などの内容で補足する、といった形で授業を進めている。また、地方財政論の全体像がつかめるよう、各回の内容の関連性へも配慮している。その他、学生の授業内容理解向上のため、毎回の内容が多くなりすぎないように配慮する、受講生の授業内容に関するコメントを紹介する、授業内容について学生自身で考えてもらう機会をできるだけ設ける、各回の最初数分程度は前回の簡潔なレビューをする、などの取組みをしている。</p> <p>財政学（法1、昼、後期、4）</p> <p>基本的工夫は、「地方財政論」（法2、夜）と同様である。「財政学」独自の教育上の工夫として、中間テストを入れ、受講生の側と自身の側とで授業の効果を確かめる、などの取組みを行っている。</p> <p>財政学（法2、夜、前期、4）</p> <p>基本的な工夫は「財政学」（法1、昼）と同じである。</p> <p>演習（法1、昼、通年、4）</p> <p>卒業研究の議論ができるだけ深まるような工夫を行っている。例えば、受講生の関心のこちら側での把握、これと深く関係する資料の配布、2部社会科学演習の議論内容を知る機会の設定（卒業研究経過報告会、卒業研究最終報告会）、学外学習の実施、などの取組みを行っている。</p> <p>社会科学演習（法2、夜、通年、4）</p> <p>基本的な工夫は「演習」（法1、昼）と同様である。</p> <p>経商基礎演習（法1、昼、後期、2）</p> <p>2年次にスムーズに卒業論文作成に取り掛かれるよう、これに必要な、演習テーマ（地方創生）に関する考え方やそれについての具体的な知識などの素養が高度になるような取組みを行っている。例えば、受講生のレポート方針を考慮した上での地方創生関係の資料を配布したり、レポートの報告会（経過報告会、最終報告会）を設けたり、自身が担当している2年次演習（第1部、第2部）と一緒に学外学習を実施したりしている。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本経済学会、日本租税理論学会、国際文化政策研究教育学会、経済理論学会、基礎経済科学研究所、日本科学者会議、The World Association for Political Economy			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等	<p>基礎経済科学研究所『経済科学通信』編集局員、基礎経済科学研究所 自由大学院事務局員、日本科学者会議三重支部幹事（会計担当）、三重県政府調達苦情検討委員会委員</p>		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			

三重短期大学教員研究・教育業績（2022年度）

3 一言アピール

支出税構想の活用でICT活用は非常に有意義だが、このような視点を考慮し、今後、支出税構想の活用方法をより具体的に分析していきます。
(研究テーマの応用例：日本の税制へのエクス税構想の意義—ICT活用の視点から—)

三重短期大学教員研究・教育業績（2022年度）

所属：法経科		職名：准教授	氏名：田中 里美
I 研究活動			
1 研究課題：内部留保の経営分析、実質法人税負担率の算定分析			
2 研究活動実績			
著書			
論文	「実質法人税負担率算定方法についての一考察」（三重短期大学法経学会『三重法経』第156号、2023年3月31日）		
その他			
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：会計学（法1、昼、前期、4）、会計学（法2、夜、後期、4）、演習（法1、昼、通年、4）、税務会計論（法1、昼、前期、2）、経商基礎演習（法1、昼、後期、2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）	オフィスアワーを設定し学生指導を行った。クラス担任を務め、履修指導を行った。演習では卒業論文の作成指導を行った。就職面接対策、就職相談を行った。編入相談を行った。		
教育上の工夫	<p>会計学（法1、昼、前期、4） 『市民が学ぶ決算書』という拙著を教科書として、授業を行っている。毎回コメントコメントペーパーを利用して、学生の授業内容の理解度を確認し、授業内容での質問等を受け付けている。黒板に板書して、学生には、ノートに板書内容を写してもらい、授業を進行している。</p> <p>会計学（法2、夜、後期、4） 『市民が学ぶ決算書』という拙著を教科書として、授業を行っている。毎回コメントコメントペーパーを利用して、学生の授業内容の理解度を確認し、授業内容での質問等を受け付けている。黒板に板書して、学生には、ノートに板書内容を写してもらい、授業を進行している。</p> <p>税務会計論（法1、昼、前期、2） 『会計制度と法人税制』という拙著を教科書として、授業を行っている。毎回コメントコメントペーパーを利用して、学生の授業内容の理解度を確認し、授業内容での質問等を受け付けている。黒板に板書して、学生には、ノートに板書内容を写してもらい、授業を進行している。</p> <p>演習（法1、昼、通年、4） 各自、分析したい企業の決算書分析を行っている。決算書から基本指標を分析し、卒業論文としてまとめる事を目標にしている。</p> <p>経商基礎演習（法1、昼、後期、2） 『企業の論点』という拙著を教科書として、授業を行っている。教科書を輪読し、教科書の内容について討論を行っている。また、興味関心のあるテーマをレポートとして書かせている。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本会計研究学会、会計理論学会、税務会計研究学会、国際公会計学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動	会計理論学会 論文査読		
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
企業の内部留保や法人税の負担率を分析することで、企業が抱える問題について明らかにしていきたいと思います。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2022年度）

所属：法経科	職名：准教授	氏名：今本 幸平
I 研究活動		
1 研究課題：19世紀のドイツ文学（特にハインリヒ・ハイネ、ヴィルヘルム・ミュラー）		
2 研究活動実績		
著書		
論文		
その他	研究ノート「『アッタ・トル 夏の夜の夢』の副題について—シェイクスピアの『夏の夜の夢』との関係」『ハイネ道遥』第15号、2022年11月、65-70ページ	
学会等報告		
共同研究 助成研究		
II 教育活動		
1 担当科目：ドイツ語Ⅰ（基礎、昼、通年、2）、ドイツ語Ⅰ（基礎、夜、通年、2）、ドイツ語Ⅱ（共通、昼、通年、2）、文学Ⅰ（共通、昼、前期、2）、文学Ⅰ（共通、夜、前期、2）、文学Ⅱ（共通、昼、後期、2）、文学Ⅱ（共通、夜、後期、2）		
2 教育活動実績		
課外活動指導		
学内教育活動 （その他）	法経科第2部1年生のクラス担任として学生の履修指導を行った。 オフィスアワー：火曜1300-1430	
教育上の工夫	ドイツ語Ⅰ（基礎、昼、通年、2） 従来全員で行っていた発音指導については個別に指導した。今後もこの方式を継続したい。文法事項の説明や練習問題の解答には板書を行わず、ほぼ全てパワーポイント資料を用いた。文字の大きさや音声の挿入など、資料の改善を進めたい。	
	ドイツ語Ⅰ（基礎、夜、通年、2） 少人数であったが、出席者は全員熱心に取り組んでくれた。昼間の講義と同様にパワーポイントを使用した。要点を整理しやすくなった点良かった。資料の改善を今後も進めたい。	
	ドイツ語Ⅱ（共通、昼、通年、2） 新たな文法事項をスムーズに学べるように、ドイツ語Ⅰで学んだ内容を随時復習するようにしていた。教科書の文法事項を勉強した後は、検定試験の類似問題等を用いて文法事項の定着に努めている。	
	文学Ⅰ（共通、昼、前期、2） 普段あまり読書をしないという学生向けに、読んでみようという気持ちが少しでも起きるよう、予備知識を与えるという方針で講義を行っている。また、自分の意見を書くことに慣れるために、毎回テーマを決めてコメントカードを提出させている。	
	文学Ⅰ（共通、夜、前期、2） 読書経験が少ない学生でも、少しでも興味がわくように、時代背景などを関連画像などを用いて予備知識を与えるという方針で講義を行っている。また、自分の意見を書くことに慣れるために、毎回テーマを決めてコメントカードを提出させている。	
	文学Ⅱ（共通、昼、後期、2） ドイツ文学という「難しそう」な内容にも関わらず、熱心に聴いてくれる学生が多かった。ドイツ文学は決して難しいものばかりではないと感じてもらえるよう、親しみやすいと思われる作品を選んで、重要場面の状況や当時の時代背景などをできるだけ具体的に分かりやすく説明するよう努めている。	
	文学Ⅱ（共通、夜、後期、2） ドイツ文学という「難しそう」な内容にも関わらず、熱心に聴いてくれる学生が多かった。ドイツ文学は決して難しいものばかりではないと感じてもらえるよう、親しみやすいと思われる作品を選んで、重要場面の状況や当時の時代背景などをできるだけ具体的に分かりやすく説明し、文学作品を遠い別世界の物語としてではなく、自分の身近な問題と関連づけて読めるよう努めている。	
III 学会等及び社会における主な活動		
1 所属学会：日本独文学会、阪神ドイツ文学会、関西大学独逸文学会、ハイネ道遥の会、Internationale Wilhelm-Müller-Gesellschaft（国際ヴィルヘルム・ミュラー協会）		
2 社会活動実績		
地域連携事業		
学外審議会委員等		
学外講演会講師等		
その他の社会活動		
他大学非常勤講師		
3 一言アピール		
ドイツ語の響きのかっこよさにひかれてドイツ語とドイツ文学を学び始めました。今でも変わっていないその気持ちを、学生たちと少しでも共有できるような授業ができるよう努力したいと思います。		

三重短期大学教員研究・教育業績（2022年度）

所属：法経科		職名：准教授	氏名：田添 篤史
I 研究活動			
1 研究課題：社会システムの再生産およびその方向性、経済状態の変化とその政治的帰結			
2 研究活動実績			
著書			
論文	「資本主義のもとにおける民主主義-必要条件としての政治的権力と経済的権力の分離」『経済科学通信』第156号、pp.27-33、(2023年2月)		
その他			
学会等報告	「ESG投資が有効である条件に関する検討」基礎経済科学研究所2022年研究大会(2022年9月) 「資本主義が『民主主義』を可能にする条件」経済理論学会第70回大会(2022年10月) 「『素材の弾力性』と生産力の変化」基礎経済科学研究所2023年春季研究交流集会(2023年3月)		
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：演習（法1、昼、通年、4）、社会科学演習（法2、夜、通年、4）、経商基礎演習（法1、昼、後期、2）、経済原論（法1・生活、昼、前期、4）、経済原論（法2、夜、前期、4）、経済学史（法1、昼、後期、2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 (その他)	経商コースの1部および2部のクラス担任を受け持ち各種の指導を行った。 ゼミ生に対して編入・就職指導を個別に行った。		
教育上の工夫	<p>経済原論（法1・生活、昼、前期、4） 教科書をベースとして要点を抜き出したレジュメを作成し、毎回配布した。毎回の授業の冒頭で前回の復習を行い、知識の定着を図った。また理解が難しいと思われる箇所については、繰り返し説明するようにした。Googleクラスルームを活用し、資料をアップロードすることで学生が欠席した回についても配布資料を入手しやすいようにした。</p> <p>経済原論（法2、夜、前期、4） 昼の経済原論と同様の工夫を行ったが、昼の講義で不十分だった点を反省し、夜の講義において説明方法、板書内容の改善を行った。</p> <p>経済学史（法1、昼、後期、2） 経済学史で取り扱う学者たちの理論は、現代の経済理論と比較すると素朴であるが、それだけに要点となる考え方が理解しやすい形で表現されている。そのことを活用して、経済学的な考え方の要点をつかむことを意図した説明を行った。経済原論と同様にGoogleクラスルームを活用し、資料をアップロードすることで学生が欠席した回についても配布資料を入手しやすいようにした。</p> <p>演習（法1、昼、通年、4） 前期では日本経済に関するテキストを輪読し自分自身の興味ある対象が何かを探し、後期ではゼミ全体でテキストを講読するという点に加えて、個々人で卒業論文の作成とその発表を行うことで自分の意見をまとめていくという形で行った。</p> <p>社会科学演習（法1、夜、通年、4） 前期ではテキストの輪読を行い、後期ではゼミ全体で共通のテキストを講読しながら、個々人で卒業論文の作成を行うという形に進めた。内容および重視した点は昼の演習と同一である。</p> <p>経商基礎演習（法1、昼、後期、2） 2年生から始まる演習との連続性を意識し、文献の収集方法、データの集め方、論文の作成をするうえで基本となるルールの説明を行った。またその後日本経済に関するテキストの輪読を行い、早めに自分の興味あるテーマを設定することを促した。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本経済学会、経済理論学会、経済統計学会、政治経済研究所、基礎経済科学研究所			
2 社会活動実績			
地域連携事業	「データでみる日本経済の現状と課題」三重短期大学オープンカレッジ（2022年12月）		
学外審議会委員等	経済理論学会編集局員、基礎経済科学研究所理事、基礎経済科学研究所編集局員、三重県地方卸売市場運営協議会委員		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師	京都大学経済学研究科「Introduction to East Asian Economies」		
3 一言アピール			
<p>ある社会システムが物質的および制度的に安定的に再生産されるのはどのような場合か、またその方向性は各主体の決定によってどのような影響を受けることになるのかという点について研究を行っています。このことをベースとしながら、経済状態の変化が政治的選択に対してどのような影響を及ぼすのかという点についても研究を進めています。最近には特に民主主義という政治制度の持続性を検討しています。教育面では、経済原論という難解ではありますが、経済学のコアとなる部分について少しでも理解してもらえるように努力していきます。</p>			

三重短期大学教員研究・教育業績（2022年度）

所属：法経科		職名：准教授	氏名：浅野 和也
I 研究活動			
1 研究課題：自動車産業における労使関係・労務管理研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他	「自動車産業」大原社会問題研究所編『2022年版 労働年鑑 第92集』旬報社、179-182頁、2022年6月		
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：経営学（法1、昼、前期、4）、経営学（法2、夜、後期、4）、人的資源管理論（法2、夜、前期、2）、経商基礎演習（法1、昼、後期、2）、演習（法1、昼、通年、4）、社会科学演習（法2、夜、通年、4）			
2. 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）	1年生クラス担任、論文指導、就職指導、オフィスマナー		
教育上の工夫	<p>経営学（法1、昼、前期、4） パワーポイントは用いずプリント教材を配布しオーソドックスな講義を実践した。現在、話題・問題になっているビジネスの事例を取り入れつつ、学説の解説も行うことで理論と実態へのアプローチに努めた。また、受講者の理解度を確認するためのコメントシートや不定期の課題レポートを行った。受講者からは「興味・関心が高まった」などのコメントを得ることができた。</p> <p>経営学（法2、夜、後期、4） パワーポイントは用いずプリント教材を配布しオーソドックスな講義を実践した。現在、話題・問題になっているビジネスの事例を取り入れつつ、学説の解説も行うことで理論と実態へのアプローチに努めた。また、受講者の理解度を確認するためのコメントシートや不定期の課題レポートを行った。受講者からは「わかりやすくてためになった」などのコメントを得ることができた。</p> <p>人的資源管理論（法2、夜、前期、2） パワーポイントは用いずプリント教材を配布しオーソドックスな講義を実践した。人的資源という、経営者が人材を有効活用するためのツールと思われがちなので、働く側からの視点に重点を置いた内容で講義を実践した。なぜ働きすぎによる過労死や過労自殺、うつ病などが社会問題化しているのか制度や構造的な問題、それが私たちの生活に与える影響などについて幅広く扱った。また、受講者の理解度を確認するためのコメントシートや不定期の課題レポートを行った。受講者からは「卒業後の働くことを意識することができてよかった」などのコメントを得ることができた。</p> <p>経商基礎演習（法1、昼、後期、2） グループディスカッションを中心に議論する力とコミュニケーションを培うように努めた。演習内でパワーポイント資料を作成しプレゼンを実施した。</p> <p>演習（法1、昼、通年、4） 労働問題を主たるテーマに教材を配布し学生にレジメ作成と発表をしてもらい、内容について議論した。あわせて、就職指導を行った。小論文・作品コンクールに演習として論文を提出した。</p> <p>社会科学演習（法2、夜、通年、4） 労働問題を主たるテーマに教材を配布し学生にレジメ作成と発表をしてもらい、内容について議論した。あわせて、就職指導を行った。小論文・作品コンクールに演習として論文を提出し、優秀賞と佳作を受賞した。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：社会政策学会、労務理論学会、日本労務学会、労働社会学会、日本経営学会、北ヨーロッパ学会、過労死防止学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等	社会政策学会秋季大会企画委員、労務理論学会理事、北ヨーロッパ学会理事、令和5年度訓練受講希望者等に対するジョブ・カード作成支援推進事業に係る技術審査委員会		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
経営学をはじめ社会科学を学ぶことをつうじて、社会は多種多様な価値観で形成されているからこそ論理的考察が重要であることを感じてもらえたらと思います。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2022年度）

所属：法経科		職名：准教授	氏名：川上 哲
I 研究活動			
1 研究課題：デジタル改革の分析、戦後地方自治史研究、大都市部住民の政治意識分析			
2 研究活動実績			
著書			
論文	<p>○区長準公選運動とはどのような運動であったのか—その課題と論点（月刊『東京』442号、8-14頁、2023年3月）</p> <p>○新しい資本主義とは何か—岸田政権の政策をどう読み解くか（『賃金と社会保障』No.1816、4-12頁、2022年12月）</p> <p>○2000年代以降の国政選挙から見えてくる論点と今後の課題（月刊『東京』438号、17-28頁、2022年11月）</p> <p>○地方行政のデジタル化はどこまで進んだか—住民視点からの改革の重要性（『賃金と社会保障』No.1806、4-15頁、2022年7月）</p>		
その他			
学会等報告	高度経済成長終焉期における東京都民の政治意識の変容（総合人間学会第16回研究大会一般研究発表報告、2022年6月26日）		
共同研究 助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：行政学（法1、昼、前期、4）、行政学（法2、夜、後期、4）、地方政治論（法1、昼、後期、4）、法学基礎演習（法1、昼、後期、2） 演習（法1、昼、通年、4）、社会科学演習（法2、夜、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）	クラス担任、オフィスアワー、卒論指導、編入学指導、公務員試験指導、就職試験指導		
教育上の工夫	<p>行政学（法1、昼、前期、4） 毎回、講義内容に関する詳細なレジメ・資料を作成し、板書で概念図などを示しながら解説を行った。また毎回の授業の最後に講義内容に関する小課題を出し、自らの考察結果を論述してもらい、受講生が授業内容を理解できているかを確認した。また映像資料を活用して受講生の理解を深める授業を行った。</p> <p>行政学（法2、夜、後期、4） 毎回、講義内容に関する詳細なレジメ・資料を作成し、板書で概念図などを示しながら解説を行った。また毎回の授業の最後に講義内容に関する小課題を出し、自らの考察結果を論述してもらい、受講生が授業内容を理解できているかを確認した。また映像資料を活用して受講生の理解を深める授業を行った。</p> <p>地方政治論（法1、昼、後期、4） 毎回、講義内容に関する詳細なレジメ・資料を作成し、板書で概念図などを示しながら解説を行った。また毎回の授業の最後に講義内容に関する小課題を出し、自らの考察結果を論述してもらい、受講生が授業内容を理解できているかを確認した。</p> <p>法学基礎演習（法1、昼、後期、2） 受講生の関心のある文献を相談して決め、輪読を行った。ゼミでの報告の方法や文献の調べ方や読み方など、基本的なアカデミック・スキルについての指導を行った。また受講生同士の議論が深まるような問いかけを中心に授業を実施した。</p> <p>演習（法1、昼、通年、4） 前期は受講生の関心のある文献を相談して決め、輪読を行った。後期は卒論作成に向けた研究報告と卒論指導を中心に授業を進めた。報告者のみならず司会についても受講生に務めてもらい、受講生同士の議論が深まるような授業を実施した。</p> <p>社会科学演習（法2、夜、通年、4） 前期は受講生の関心のある文献を相談して決め、輪読を行った。後期は卒論作成に向けた研究報告と卒論指導を中心に授業を進めた。受講生の主体性を引き出すため、報告者のみならず司会についても受講生に務めてもらい、受講生同士の議論が深まるような授業を実施した。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本行政学会、日本地方自治学会、社会政策学会、同時代史学会、総合人間学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等	津市「政策課題研修第15期」講師・アドバイザー		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師	三重大学（特殊講義 戦後日本の社会と政治）、三重県立看護大学（保健福祉行政論）、皇學館大学（社会保障論）、名城大学（地域福祉論）		
3 一言アピール			
地方行政のデジタル化・DX化政策が進められています。こうした「デジタル改革」が地方自治体や地域にどのような影響を及ぼしていくのかを注視しています。また歴史研究として東京都を中心とした革新自治体研究も進めているところです。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2022年度）

所属：法経科	職名：講師	氏名：鷺尾 和紀
I 研究活動		
1 研究課題：マーケティング戦略論、マーケティング生活価値の創造・サービスマーケティング、地域マーケティング研究		
2 研究活動実績		
著書		
論文	鷺尾和紀「文化マーケティングの構成要素— 先行研究の検討と研究課題 —」高千穂論叢(高千穂大学高千穂学会) 第57巻 第3・4号合併号, pp.73~98,2023年3月	
その他		
学会等報告		
共同研究 助成研究		
II 教育活動		
1 担当科目：マーケティング論Ⅰ・マーケティング論（法1、昼、前期、4）、マーケティング論Ⅰ・マーケティング論（法2、夜、後期、4）、マーケティング論Ⅱ（法1・2、昼、後期、2）、経商基礎演習（法1、昼、後期、2）、演習（法1、昼、通年、4）、社会科学演習（法2、夜、通年、4）		
2 教育活動実績		
課外活動指導	軽音楽部顧問、三重短期大学生協理事	
学内教育活動 （その他）	クラス担任、オフィスアワー、学外演習（現場実習）、卒論作成指導、編入学のための面接試験指導、資格取得指導	
教育上の工夫	<p>マーケティング論Ⅰ・マーケティング論（法1、昼、前期、4） 単に専門用語を覚えるだけでなく、身の回りから心がけることで将来へ向けての意識を芽生えさせるような授業展開を行った。授業内において、数回考えさせる課題を与え、受講生個人一人一人にフィードバックを行い、授業の状況と改善点や工夫を求めようとした。</p> <p>マーケティング論Ⅰ・マーケティング論（法2、夜、後期、4） マーケティング論(法1、昼)と同様な授業展開を行った。 授業スタイルが確立されたことから、前期より工夫をこなしアンケート集計の評価が高まった。</p> <p>マーケティング論Ⅱ（法1・2、昼、後期、2） マーケティングⅠの内容を踏まえ、主に企業研究や地域マーケティングについて授業展開を行った。</p> <p>経商基礎演習（法1、昼、後期、2） コロナ情勢も落ち着いてきたこともあり、数回のFW（フィールドワーク）と工場見学等を行った。また発表を数回行い個々の能力の向上と協調性を身に付けさせた。</p> <p>演習（法1、昼、通年、4） 論文を通じて現地調査を行い、論文作成への足掛かりとした。グループ討論を主に行い個々の能力の向上と協調性を身に付けさせた。</p> <p>社会科学演習（法2、夜、通年、4） レポート作成、発表を数回行い、論文作成の足掛かりとした。グループ討論を主に行い個々の能力の向上と協調性を身に付けさせた。</p>	
III 学会等及び社会における主な活動		
1 所属学会：日本商業学会、パーソナルファイナンス学会、日本マーケティング学会		
2 社会活動実績		
地域連携事業		
学外委員等	津地方裁判所・津簡易裁判所「民事調停委員」（2021年10月1日～現在）	
学外講演会講師等		
その他の社会活動	伊藤達雄研究室都市環境ゼミナール会員（2017年～2023年3月解散）	
他大学非常勤講師		
3 一言アピール		
<p>マーケティングを通じて、生きる力を身につけ社会に対応できる研究活動と学生指導を行っていききたい。時代の最先端に踏み込んだ、未来への新しい発見とビジネスモデルを追求していききたいと考えている。さらに学生と地域において、還元できるような活動を積極的に行っていききたい。来年度からは地域研究に向けて精進していききたい。また、コロナにより遠隔授業やオンライン授業の経験をしたことでさらなる教育体制を踏まえつつ、これから先を見据えた授業対応をしていききたい。精一杯精進してまいります。</p>		

三重短期大学教員研究・教育業績（2022年度）

所属：法経科		職名：講師	氏名：鎌塚 有貴
I 研究活動			
1 研究課題：軍事予算統制，文民統制			
2 研究活動実績			
著書	(共著)『トピックから考える日本国憲法』(北樹出版)2023年3月		
論文			
その他			
学会等報告	(単独)「目的税と防衛費増額財源」民主主義科学者協会法律部会春合宿(憲法分科会)2023年3月28日		
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：日本国憲法・憲法Ⅰ(法1、昼、前期、4)、憲法(生活、昼、前期、4)、憲法Ⅱ(法1、昼、後期、2)、日本国憲法・憲法Ⅰ(法2、夜、後期、4)、演習(法1、昼、通年、4)、法学基礎演習(法1、昼、後期、2)、社会科学演習(法2、夜、通年、4)			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 (その他)	クラス担任、オフィスマナー、編入学試験対策・指導		
教育上の工夫	日本国憲法・憲法Ⅰ(法1、昼、前期、4) ニュース映像などを利用して、時事問題を扱った。		
	憲法(生活、昼、前期、4) ニュース映像などを利用して、時事問題を扱った。		
	憲法Ⅱ(法1、昼、後期、2) ニュース映像などを利用して、時事問題を扱った。		
	日本国憲法・憲法Ⅰ(法2、夜、後期、4) 判例の解説に重点を置き、理解を深めるよう努力した。		
	法学基礎演習(法1、昼、後期、2) 講義の復習をしながら、現代社会における問題など発展的な課題に取り組んだ。		
	演習(法1、昼、通年、4) 各自報告テーマを選択し、発表した。		
	社会科学演習(法2、夜、通年、4) 学生の自主的な取り組みによる発表形式のゼミを運営した。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本公法学会、全国憲法理論研究会、憲法理論研究会、日本財政法学会、民主主義科学者協会法律部会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等	津市いじめ対策協議会委員、津市いじめ問題対策協議会委員、鈴鹿市情報公開審査会委員、鈴鹿市行政不服審査会委員、鈴鹿亀山地区広域連合情報公開審査会・鈴鹿亀山地区広域連合個人情報保護審査会委員、鈴鹿市個人情報保護審査会委員、三重県自動車廃物認定委員、亀山市行政不服審査会委員		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール 教育と研究を両立できるよう頑張ります。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2022年度）

所属：法経科	職名：講師	氏名：西川 昇吾
I 研究活動		
1 研究課題： 労働協約・争議行為法理論の比較法研究		
2 研究活動実績		
著書		
論文	<p>「ドイツにおける労働協約以外の労使間合意（上）―書面性を欠く労働組合と使用者間の合意の法的取扱い」労働法律旬報 2008号30～39頁（2022年5月25日）</p> <p>「ドイツにおける労働協約以外の労使間合意（下）―書面性を欠く労働組合と使用者間の合意の法的取扱い」労働法律旬報 2009号24～39頁（2022年6月10日）</p>	
その他		
学会等報告		
共同研究		
助成研究		
II 教育活動		
1 担当科目： 労働法（法1、昼、後期、4）、労働法（法2、夜、後期、4）、社会保障法（法1・生活、昼、前期、2）、演習（法1、昼、通年、4）、法学基礎演習（法1、昼、後期、2）、社会科学演習（法2、夜、通年、4）		
2 教育活動実績		
課外活動指導	写真サークル「色撮（いろどり）」顧問	
学内教育活動 （その他）	クラス担任、オフィスアワー、就職受験作文添削・面接対策指導、大学3年次編入受験「志望理由書」添削・面接対策指導	
教育上の工夫	<p>労働法（法1、昼、後期、4） 労働法学の正確な知識や概念等を摂取し、それらを基盤とした論理展開ができるよう、とりわけ法的意義や法的根拠、要件等の伝達に留意した。</p> <p>労働法（法2、夜、後期、4） 受講学生のなかには、社会人経験者も見受けられることから、労働法理論の解説はもとより、その法的対処・解決の見当がつかう知識・情報等の伝達を心がけた。</p> <p>社会保障法（法1・生活、昼、後期、2） 社会保障制度の概要を中心としつつも、今後の同制度を担う受講学生が、その望ましいあり方についての自己の見解をもてるよう、法的課題の伝達に注力した。</p> <p>演習（法1、昼、通年、4） 検討する労働法の争点において確認しなければならない判例・学説の報告と、その後の討論を通じて、論理的思考や自己主張ができる場の構築に努力した。</p> <p>法学基礎演習（法1、昼、後期、2） 労働判例の検討を通じて、企業という現場の実情が想像でき、紛争当事者のやり取りの臨場感も再現できるよう、多角的な問いを發した。</p> <p>社会科学演習（法2、夜、通年、4） 労働事件をどのように解決するかという視点だけでなく、どのような行動をとれば紛争を回避できたかという視角からの討論となるよう、質問等を工夫した。</p>	
III 学会等及び社会における主な活動		
1 所属学会： 日本労働法学会、社会法研究会、熊本労働法研究会		
2 社会活動実績		
地域連携事業		
学外審議会委員等	<p>三重県労働委員会 公益委員（第47期）</p> <p>行政不服審査会 委員</p> <p>社会福祉法人 三重県社会福祉協議会 三重県福祉サービス運営適正化委員会 副委員長</p>	
学外講演会講師等	「障がい者雇用の基本的な考え方～事例を踏まえて～」三重労働局・三重県・公共職業安定所 共催「令和4年度 公正採用選考研修会」講師（2022年8月23日・9月6日）	
その他の社会活動	NPO法人労働問題研究所 会員	
他大学非常勤講師		
3. 一言アピール		
<p>社会法を学ぶことは、みずからの生き方を考えることでもあると解されます。学生一人ひとりが、今後の望ましい労働者像・社会保障制度について、自分なりの見解をもってもらえるよう、研究・教育活動に取り組む所存です。</p>		

三重短期大学教員研究・教育業績（2022年度）

所属：法経科		職名：講師	氏名：照井 遼瑛
I 研究活動			
1 研究課題：複数不法行為者に対する連帯責任原則の正当化根拠に関する研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他	「市場媒介型集団訴訟における不特定多数加害者の不法行為責任—建設アスベスト訴訟最高裁判決の紹介を中心に—」地研通信第144号（2023年3月17日）1-7頁		
学会等報告	<ul style="list-style-type: none"> ・照井遼瑛「仙台高判令和2年9月15日LEX/DB25566812—物権的妨害排除請求権に基づく放射性物質除去請求（原状回復請求）の可否」21世紀不法行為法研究会（2023年3月25日） ・照井遼瑛「石綿含有建材を製造販売した建材メーカーらが、石綿関連疾患に罹患した建設作業従事者らに対し、民法719条1項後段の類推適用により、上記建設作業従事者らの各損害の3分の1について連帯して損害賠償責任を負うとされた事例」明治大学民法研究会（2022年11月24日） ・照井遼瑛「福島原発事故による事故由来放射性物質によって汚染された農地について、所有権に基づく妨害排除請求（原状回復）が否定された事例（仙台高判令和2年9月15日LEX/DB25566812）」日本土地環境学会研究発表会（2022年11月12日） ・照井遼瑛「仙台高判令和2年9月15日LEX/DB25566812—物権的妨害排除請求権に基づく放射性物質の除去請求の可否」21世紀不法行為法研究会（2022年8月27日） 		
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：民法Ⅰ（法1、昼、前期、4）、民法Ⅰ（法2、夜、前期、4）、民法Ⅱ（法1、昼、後期、2）、法学基礎演習（法1、昼、後期、2）、演習（法1、昼、通年、4）、社会科学演習（法2、夜、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	ソフトテニス部顧問		
校内教育活動（その他）	クラス担任、オフィスアワー、卒論指導、編入学指導、公務員試験指導、就職試験指導		
教育上の工夫	<p>民法Ⅰ（法1、昼、前期、4） 学習範囲が非常に広く、抽象的な条文を多く扱うため、発展的な内容はできる限り省略し、「なぜこの法律・条文・制度を学ぶ必要があるのか」といった基本的なことに時間をかけて講義した。その上で、初学者でも理解しやすいように具体的な事例をできるだけ多く取り上げ、それに即して基本的な事項や重要な判例・学説を解説し、分かりやすく要点を絞った内容になるよう心掛けた。また、各回の残り10分程度でその時の講義における重要用語に関する小テストを行い、知識の定着を図るとともに、寄せられた質問については、次回講義の冒頭で丁寧に回答し、履修者の疑問の解消に努めた。</p> <p>民法Ⅰ（法2、夜、前期、4） 学習範囲が非常に広く、抽象的な条文を多く扱うため、発展的な内容はできる限り省略し、「なぜこの法律・条文・制度を学ぶ必要があるのか」といった基本的なことに時間をかけて講義した。その上で、初学者でも理解しやすいように具体的な事例をできるだけ多く取り上げ、それに即して基本的な事項や重要な判例・学説を解説し、分かりやすく要点を絞った内容になるよう心掛けた。また、各回の残り10分程度でその時の講義における重要用語に関する小テストを行い、知識の定着を図るとともに、寄せられた質問については、次回講義の冒頭で丁寧に回答し、履修者の疑問の解消に努めた。</p> <p>民法Ⅱ（法1、昼、後期、2） 学習範囲が非常に広く、抽象的な条文を多く扱うため、発展的な内容はできる限り省略し、「なぜこの法律・条文・制度を学ぶ必要があるのか」といった基本的なことに時間をかけて講義した。その上で、初学者でも理解しやすいように具体的な事例をできるだけ多く取り上げ、それに即して基本的な事項や重要な判例・学説を解説し、分かりやすく要点を絞った内容になるよう心掛けた。また、各回の残り10分程度でその時の講義における重要用語に関する小テストを行い、知識の定着を図るとともに、寄せられた質問については、次回講義の冒頭で丁寧に回答し、履修者の疑問の解消に努めた。</p> <p>法学基礎演習（法1、昼、後期、2） 前半では、条文の読み方、裁判制度の基礎知識、判例や法律文献の探し方、法文の解釈方法、判決文の読み方といった卒業論文の執筆に必要不可欠な法律リテラシーを教員・ゼミ生の双方向のコミュニケーションを取りながら身に付けてもらうよう心掛けた。後半では、自分の考えを他者に論理的に説明する力を身に付ける訓練として、関心のある民法上のテーマや論点についてゼミ生各自に報告をしてもらい、かつ参加者から報告に対する質問や疑問を出してもらうことで、法的な問題を発見する力や簡潔に報告する力の向上を図った。</p> <p>演習（法1、昼、通年、4） 卒論執筆に必要な基礎知識を伝えたくて、ゼミ生各自の卒論テーマについて、1回につき、1〜3名のゼミ生に経過報告をしてもらい、かつその報告に対して他の参加者から疑問点や意見を出してもらうことで、論理的な思考力や論理的な文章を書く力の向上を図った。また、報告及び質疑応答に際して、教員側から論文執筆の作法を適宜全体に示した。最終的には、各自に10000〜20000字程度の卒論を執筆してもらい、卒業論文集として纏めることができた。</p> <p>社会科学演習（法2、夜、通年、4） 前期では、条文の読み方、裁判制度の基礎知識、判例や法律文献の探し方、法文の解釈方法、判決文の読み方といった卒業論文の執筆に必要不可欠な法律リテラシーを伝えたくて、自分の考えを他者に論理的に説明する力を身に付ける訓練として、関心のある民法上のテーマや論点についてゼミ生各自に報告をしてもらい、かつ参加者から報告に対する質問や疑問を出してもらうことで、法的な問題を発見する力や簡潔に報告する力の向上を図った。後期では、ゼミ生各自の卒論テーマについて、毎</p>		

三重短期大学教員研究・教育業績（2022年度）

<p>回1名ずつ経過報告をしてもらい、かつその報告に対して他の参加者から疑問点や意見を出してもらうことで、論理的な思考力や論理的な文章を書く力の向上を図った。また、報告及び質疑応答に際して、教員側から論文執筆の作法を適宜全体に示した。最終的には、各自に10000～15000字程度の卒論を執筆してもらい、卒業論文集として纏めることができた。</p>	
<p>Ⅲ 学会等及び社会における主な活動</p>	
<p>1 所属学会：日本私法学会、比較法学会、環境法政策学会、日本土地環境学会、人間環境問題研究会</p>	
<p>2 社会活動実績</p>	
地域連携事業	三重短期大学オープンカレッジ「民法における相続についての新しいルール」（2022年12月3日）
学外審議会委員等	
学外講演会講師等	四日市西高校進路ガイダンス模擬授業「民法入門—約束と契約って何が違うの？」（2022年12月16日）
その他の社会活	
他大学非常勤講師	
<p>3 一言アピール</p> <p>「人はなぜ他人の犯した過ちに対しても損害賠償責任を負うことがあるのか」という問いに対する理論的見解について民法の共同不法行為の条文とアメリカの判例を手掛かりにして研究しています。民法は私達の日常生活と切っても切り離せない関係にある法律であるということを伝えることができるよう、今後も研究・教育活動に努めていきたいと思います。</p>	

三重短期大学教員研究・教育業績 (2022年度)

所属：食物栄養学科		職名：教授	氏名：橋本 博行
I 研究活動			
1 研究課題：食物アレルギーの意図しない相互接触の防止に関する研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文	橋本博行, 池田達哉, 吉光真人, 清田恭平, スポンジたわしを介した調理用ボウル間的小麦アレルギーの二次汚染, 日本食品衛生学雑誌, 63(2), 70-78 (2022) 査読有		
その他			
学会等報告			
共同研究 助成研究	食物アレルギーとなる食品粉体の飛散性に関する研究 (共同研究)		
II 教育活動			
1 担当科目：食物栄養学入門 (食栄、昼、前期、2)、食品学総論 (食栄、昼、前期、2)、食品学実験 (食栄、昼、前期、1)、食品学各論 (食栄、昼、前期、2)、食品衛生学 (食栄、昼、後期、2)、食品学衛生学実験 (食栄、昼、後期、2)、食品の機能 (食栄、昼、後期、2)、特別演習 (食栄、昼、通年、4)			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 (その他)	クラス担任 (1、2年次生)、オフィスアワー、就職・編入面接指導		
教育上の工夫	<p>食品学総論 (食栄、昼、前期、2) 毎回、その回の教育内容の重要項目について、まとめた授業プリントを更新して講義を行った。教科書による予習、復習を指導した。また、栄養士実力認定試験や管理栄養士国家試験の該当範囲の過去問により、重要項目や用語について確認できる追加プリントによる講義も行った。</p> <p>食品学各論 (食栄、昼、前期、2) 毎回の授業の重要項目について、まとめた授業プリントを作成して講義を行った。栄養士実力認定試験や管理栄養士国家試験の該当範囲の過去問により、重要項目や用語について確認できる追加プリントによる講義も行った。</p> <p>食品学実験 (食栄、昼、前期、1) 実験は、学生を半数ずつに分け、2つ実験室で実施した。化学実験を安全に行うための基本的な実験方法の練習を繰り返した後、食品に関する各実験を行うようにした。実験内容は食品学総論の講義内容の理解を深めるための実験を選んで実施した。</p> <p>食品衛生学 (食栄、昼、後期、2) 毎回の授業の重要項目について、まとめた授業プリントを作成して講義を行った。栄養士実力認定試験や管理栄養士国家試験の該当範囲の過去問により、重要項目や用語について確認できる追加プリントによる講義も行った。</p> <p>食品衛生学実験 (食栄、昼、後期、1) 2つ実験室で実施した。食品衛生学で学習した食中毒菌や食品添加物の検査方法について、食品衛生の知識や技術が身につくように配慮して実験を実施した。また、事前に実験操作について全員が練習を行い、実験操作に習熟できるように心がけた。</p> <p>食品の機能 (食栄、昼、後期、2) 食品中に含まれる生体調節機能を持つ食品成分について解説した。特に、糖尿病や高血圧等の疾病の成り立ちについて、別科目で習った内容の復習も含めて講義することにより、食品成分による疾病予防効果が理解できるように配慮した。</p> <p>特別演習 (食栄、昼、通年、4) 食品粉体の取り扱い時の手指への各食物アレルギーの付着に関する研究を行った。研究の方向性は教員が示すようにしたが、研究手法の具体的な内容は学生自身が工夫することにより、多くの研究データが入手できた。</p> <p>食物栄養学入門 (食栄、昼、前期、2) 食物栄養学科の教員がオムニバス形式で、学科の進路の説明や、各授業科目の学び方などを講義した。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本アレルギー学会、日本農芸化学会、日本食品衛生学会、日本家政学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	オープンカレッジ「ビタミンとミネラルの摂取のポイント」2022年11月19日		
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
<p>集団給食施設等の食物アレルギー対応食を提供している調理現場において、食物アレルギーの管理に関する研究を行っています。研究成果を論文発表することにより、食物アレルギー対応を行っている現場の実務に活用されることを期待しています。 (研究テーマの応用例：粉体状の食物アレルギーの調理時における混入防止対策)</p>			

三重短期大学教員研究・教育業績（2022年度）

所属：食物栄養学科		職名：教授	氏名：阿部 稚里
I 研究活動			
1 研究課題：和食に関する研究、栄養教育の有効性に関する研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文	<p>(1) The Global Association between Egg Intake and the Incidence and Mortality of Ischemic Heart Disease—An Ecological Study. Norie Sugihara, Yoshiro Shirai, Tomoko Imai, Ayako Sezaki, Chisato Abe, Fumiya Kawase, Keiko Miyamoto, Ayaka Inden, Takumi Kato, Masayo Sanada, Hiroshi Shimokata. Int. J. Environ. Res. Public Health 2023, 20(5), 4138; doi.org/10.3390/ijerph20054138. (査読付き)</p> <p>(2) 和食スコアと低骨密度率および60歳以上の骨密度との関連—10年間の国際比較研究. 阿部稚里、今井具子、瀬崎彩也子、宮本恵子、川瀬文哉、白井禎朗、眞田正世、位田文香、加藤匠、杉原規恵、下方浩史. 名古屋学芸大学健康・栄養研究所年報 第14号 P1-8, 2022年.(査読付き)</p> <p>(3) 和食、減塩とSDGs. 下方浩史、今井具子、阿部稚里. 名古屋栄養科学雑誌 8号 P33-41, 2022年</p> <p>(4) Global association between traditional Japanese diet score and all-cause, cardiovascular disease, and total cancer mortality: a cross-sectional and longitudinal ecological study. Chisato Abe, Tomoko Imai, Ayako Sezaki, Keiko Miyamoto, Fumiya Kawase, Yoshiro Shirai, Masayo Sanada, Ayaka Inden, Takumi Kato, Norie Sugihara and Hiroshi Shimokata J Am Nutr Assoc. 2022 Oct 11;1-8. doi: 10.1080/27697061.2022.2130472. Online ahead of print. (査読付き)</p> <p>(5) Change in the association between coffee intake and ischemic heart disease in an international ecological study from 1990 to 2018. Yoshiro Shirai, Tomoko Imai, Ayako Sezaki, Keiko Miyamoto, Fumiya Kawase, Chisato Abe, Masayo Sanada, Ayaka Inden, Takumi Kato, Norie Suzuki and Hiroshi Shimokata. Scientific Reports. 2022 Jul 5;12(1):11319. doi: 10.1038/s41598-022-15611-x. Ayako. (査読付き)</p> <p>(6) Association between the Mediterranean Diet Score and Healthy Life Expectancy: A Global Comparative Study. Ayako Sezaki, Tomoko Imai, Keiko Miyamoto, Fumiya Kawase, Yoshiro Shirai, Chisato Abe, Masayo Sanada, Ayaka Inden, Takumi Kato, Norie Suzuki, Hiroshi Shimokata. J Nutr Health Aging. 2022;26(6):621-627. doi: 10.1007/s12603-022-1811-y.(査読付き)</p>		
その他			
学会等報告	<p>(1) Chisato Abe, Tomoko Imai, Ayako Sezaki, Keiko Miyamoto, Takumi Kato, Norie Sugihara, Hiroshi Shimokata. Global association between Traditional Japanese diet score and hypertension prevalence: cross-sectional and longitudinal ecological study. 22nd IUNS-ICN International Congress of Nutrition in Tokyo, Japan. (2022.12)</p> <p>(2) Chisato Abe, Tomoko Imai, Sezaki Ayako, Miyamoto Keiko, Fumiya Kawase, Yoshiro Shirai, Masayo Sanada, Ayaka Inden, Takumi Kato, Norie Sugihara, Hiroshi Shimokata. Traditional Japanese Diet Score and Cardiovascular Disease Mortality -a Cross-sectional and Longitudinal Global Study. The 8th Asia Congress of Dietetics. Yokohama, Japan. (2022.08) (ACD2022 Excellent Poster Award)</p> <p>その他共同発表者として、国際学会9報、国内学会4報</p>		
共同研究 助成研究	<p>(1) 科学研究費基金 基盤研究(C) 課題番号22K02194「和食パターンと主要な疾病の死亡・発症・有病率—30年間の国際比較研究—」2022-2024年度</p> <p>(2) 一般社団法人日本調理科学会 特別研究 『次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理』三重県研究調査</p> <p>(3) 家庭内環境を考慮した女性3世代の食習慣と健康状態に関する栄養疫学的横断研究</p> <p>(4) 名古屋学芸大学健康・栄養研究所：客員研究員</p>		
II 教育活動			
1 担当科目：栄養教育論（食栄、昼、前期、2）、栄養教育論実習（食栄、昼、前期、1）、栄養指導論（食栄、昼、後期、2）、栄養指導論実習（食栄、昼、後期、1）、食物栄養学入門（食栄、昼、前期、2）、給食運営管理論実習Ⅱ（食栄、昼、通年、1）、特別演習（食栄、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動	クラス担任（食栄1年生、食栄2年生）、オフィスアワー、就職・編入学指導等個別相談		
教育上の工夫	<p>栄養教育論（食栄、昼、前期、2） 栄養士免許必須科目であり、栄養士として必要な定義、歴史、目的、対象、場、法的根拠および栄養士が教育を行うための方法論を教える教科である。1年生の前期という、栄養士に関連する専門知識をほとんど持たない中、この幅広い範囲を学ぼうと学生はよく頑張ったと思う。教科内容である行動目標シートを用い、学生の教育方法への理解を深めるのに努めた。</p> <p>栄養教育論実習（食栄、昼、前期、1） 個人に対する栄養教育を行うために、カウンセリングの手法を使った話し方、媒体作成、栄養教育の実施および評価を行った。一通り自分自身で行うことで、学生は非常に成長したと思う。自主的な学習を行うためのサポートを行った。</p> <p>栄養指導論（食栄、昼、後期、2） ライフステージ別の対象者に対応した栄養指導のあり方と方法論について、スライドとプリントを用いながら講義した。講義内容が多く、学生は付いてくるのが大変だったと思うが、毎回の感想では、良く学習している姿が伺えた。また、毎回出席カードを用いて質疑応答をしたところ、たくさんの学生から質問が出ており、教科内容や栄養士について興味を深めたのが伺えた。</p> <p>栄養指導論実習（食栄、昼、後期、1） 栄養指導教室の企画のプレゼンテーションと実施を行った。自主的にまとめる内容が多く、この2年間の集大成になったという意見が多かった。また、パワーポイントの使い方、人前での発表の仕方なども勉強になったという意見も多く出た。</p> <p>食物栄養学入門（食栄、昼、後期、2） 初学者のための学び方について、各教科のオムニバス講義を行った。</p> <p>給食運営管理論実習Ⅱ（食栄、昼、通年、1） 栄養士実習に必要な知識とマナー、課題研究に積極的に取り組めるよう指導を行った。実習施設ごとに重点的に準備すべき内容が異なるため、できる限り個別対応を行った。</p> <p>特別演習（食栄、昼、通年、4） 食や健康に関する情報を自ら選択できるよう、栄養学研究の基本を教授した。興味のある課題を学生自身で設定し、解決に至るまでの方法論を教授し、卒業論文指導を行った。なおその一部を本学の小論文・作品コンクールに応募し最優秀賞を獲得した。また日本家政学会中部支部の家政学関連院生・学生研究発表会で研究発表も行った。</p>		

三重短期大学教員研究・教育業績（2022年度）

Ⅲ 学会等及び社会における主な活動	
1 所属学会：日本栄養士会、日本栄養改善学会、日本家政学会、日本栄養・食糧学会、日本調理科学会、日本未病学会、日本ビタミン学会、ビタミンE研究会、ゴマ科学会	
2 社会活動実績	
地域連携事業	「より良い食生活を目指そう！」三重短期大学オープンカレッジ，一般市民，2022年11月
学外審議会委員等	日本栄養・食糧学会中部支部参与兼庶務幹事、日本栄養改善学会評議員、第70回日本栄養改善学会学術総会実行委員会委員
学外講演会講師等	
その他の社会活動	
他大学非常勤講師	
3 一言アピール 栄養教育とは、対象とする個人や集団のQuality of Life (QOL) を高めるために、教育手段を用いて好ましい食行動の実践と習慣化を促すために、具体的に働きかけることです。そこで、食行動のよりよい変容を促すために、有効な栄養教育法について検討しています。 (研究テーマの応用例：子どもに対する和食教育について)	

三重短期大学教員研究・教育業績 (2022年度)

所属：食物栄養学科		職名：准教授	氏名：駒田 亜衣
I 研究活動			
1. 研究課題：特定健診・特定保健指導に関する研究 県民健康・栄養調査の評価に関する研究 ソーシャルメディアを活用した食生活・意識向上に関する研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文	<ul style="list-style-type: none"> ・「Google Trends を用いたヘルスリテラシーの評価」(共著) 山田真司、駒田亜衣、熊谷貴子 (2022.7) 第23回日本医療情報学会看護学術大会論文集(Proceedings) pp.139-142. ・「アスリート向け弁当メニューの提案-団体選手用の斡旋弁当-」(共著) 駒田亜衣、服部知美 (2022.11) 三重短期大学地域問題研究所年報, 第27号, pp81-88. ・「栄養士・管理栄養士養成施設学生における調理操作頻度による調理技術および学習意欲に及ぼす影響」(共著) 中川七海、木下麻衣、大杉領子、若杉悠佑、杉野香江、駒田亜衣、梅原頼子、堀田千津子 (2023.3) 鈴鹿大学・鈴鹿短期大学部紀要, 健康科学編 第6号 		
その他	・令和3年度三重短期大学 共同研究報告書「令和2年度 特定健康診査・特定保健指導の解析」(2022.7)		
学会等報告	・An Intervention Study on Health Awareness and Dietary Awareness Using the Social Networking Service" LINE" (共同報告) Makoto Ohtsuki, Ai Komada, Hiromi Okada, Kanako Furuta, Yuki Aikawa, Yoriko Umehara (2022.12) 22nd International Congress of Nutrition in Tokyo, Japan (Tokyo)		
共同研究 助成研究	<ul style="list-style-type: none"> ・共同研究「特定健康診査・特定保健指導の解析」(津市保険医家助成課) ・令和4年度三重県県民健康・栄養調査結果の解析・三重県健康福祉部(受託研究)「過去3年分国民健康・栄養調査事業に関する専門指導業務委託」(代表) (2022.10~2023.3) 		
II 教育活動			
1. 担当科目：調理学(食栄、昼、前期、2)、給食運営総合指導(食栄、昼、前期、2)、給食運営管理論実習Ⅰ(食栄、昼、前期、2)、給食運営管理論実習Ⅱ(食栄、昼、通年、1)、給食運営管理論実習Ⅲ(食栄、昼、通年、1)			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 (その他)	クラス担任(食栄1年生、食栄2年生)、食栄学生就職指導(食栄2年生)、食栄学生編入学指導(食栄2年生)		
教育上の工夫	<p>調理学(食栄、昼、前期、2) 食品や使用する器具の写真を出来る限りスライド等で示し、理解しやすいように工夫している。また、「調理学実習Ⅰ」を担当いただいている非常勤講師と連携をとり、実習と講義がリンクするように調整している。 栄養価計算については、成分表の見方や項目の確認を丁寧に行った。</p> <p>給食運営総合指導(食栄、昼、前期、2) 大量調理や校外実習に必要な知識を身につけることを目的としている。献立作成に加え、発注や原価分析などの練習も取り入れるようにしている。</p> <p>給食運営管理論実習Ⅰ(食栄、昼、前期、2) 同講義をもとに大量調理を実践し、栄養士業務の主となる給食の運営を学ぶことを目的としている。献立作成、発注、検収、衛生管理、帳票類の作成など、実習を通して給食運営の一連の流れを把握できるよう工夫している。</p> <p>給食運営管理論実習Ⅱ・(食栄、昼、通年、1) 栄養士実習に必要な知識やマナー、課題研究に積極的に取り組めるよう指導を行った。特に、実習先ごとに重点的に準備すべき内容が異なるため、できる限り個別に対応した。</p> <p>給食運営管理論実習Ⅲ(食栄、昼、通年、1) 栄養士実習に必要な知識やマナー、課題研究に積極的に取り組めるよう指導を行った。 2022年度はコロナ禍により校外実習の受け入れが変更になった施設もあったため、実習先と密な連携をとり、一部学内実習で対応した。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本栄養士会、日本栄養改善学会、日本栄養・食糧学会、日本病態栄養学会、日本公衆衛生学会、日本ヒューマンケア科学学会、日本家政学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	「世界の料理講座(調理実習)」の開催 津市国際交流協会 高大連携授業講座「製菓実習」講師の受け入れ 相可高校		
学外審議会委員等	津市栄養士連絡会委員 津地域栄養管理ネットワーク研究会委員		

三重短期大学教員研究・教育業績（2022年度）

学外講演会・講師等	<ul style="list-style-type: none"> ・三重県保険医協会市民講座 講師（三重県保険医協会、津市）（2022年5月） 講演内容「家族の健康を守るために考えたい食生活」 ・津市ヘルスマイトリーダー研修会講師（津保育所施設長連絡協議会、津リージョンプラザ栄養指導室）（2022年9月） 実習内容「主食・主菜・副菜をそろえた食事（講義・調理実習）」
その他の社会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ZTV制作番組「おしえて先生」出演、旬の食材についてのコメント担当（2022年4月）
他大学非常勤講師	鈴鹿大学短期大学部 食物栄養学専攻「公衆栄養学」担当
<p>3 一言アピール</p> <p>食習慣や生活スタイルは地域ごとに特徴があり、それらを客観的に明らかにすることによって、その土地や環境に合った健康増進や生活習慣予防の方策が立てられます。有効な方策を見出すため、特定健康診査・特定保健指導や県民健康栄養調査の結果をいろいろな観点から探り性別、年代、地域だけでなく、普段の生活習慣による違いなど、健康増進に役立つ知見を得ることを目的に研究を進めています。</p> <p>（研究テーマの応用例： 有効な特定保健指導に関する研究、栄養摂取量と生活習慣との関連に関する研究、地域における食生活の問題点と課題）</p>	

三重短期大学教員研究・教育業績（2022年度）

所属：食物栄養学科		職名：准教授	氏名：相川 悠貴
I 研究活動			
1 研究課題：ラットを用いた運動と食餌制限の組み合わせが骨と筋に及ぼす影響の検討、食欲をコントロールする方法、登山時の生理的変化			
2 研究活動実績			
著書			
論文	<p>Aikawa Y, Yamashita T, Nakai N, Higashida K. Low-carbohydrate, high-fat diet, and running exercise influence bone parameters in old mice. <i>Journal of applied physiology</i> 132(5):1204-1212.2022年5月。（査読有）</p> <p>Hattori Y, Aikawa Y, Omi N. Female Athlete Triad and Male Athlete Triad Syndrome Induced by Low Energy Availability: An Animal Model. <i>Calcified tissue international</i> 111(2) 116-123. 2022年6月。（査読有）</p> <p>Kioka K, Aikawa Y, Wakasugi Y, Narukawa T, Fukuyasu T, Ohtsuki M, Yamashita T, Sasai N, Omi N. Soy protein intake increased bone mineral density under nonenergy-deficiency conditions but decreased it under energy-deficiency conditions in young female rats. <i>Nutrition research (New York, N.Y.)</i> 106 1-11. 2022年10月。（査読有）</p>		
その他			
学会等報告			
共同研究 助成研究	<p>科研費 若手研究「走運動と食餌量制限によるエネルギー不足状態における筋質の評価」（代表者）（課題番号：JP20K19531）</p>		
II 教育活動			
1 担当科目：解剖生理学（食栄、昼、前期、2）、解剖生理学実験（食栄、昼、後期、1）、運動保健学（食栄、昼、後期、2）、健康管理概論（食栄、昼、後期、2）、生化学（食栄、昼、前期、1）、生化学実験（食栄、昼、前期、1）、管理栄養特殊講義（食栄、昼、後期、2）、特別演習（食栄、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 (その他)	<p>クラス担任（食栄1年生、食栄2年生）、食栄学生就職指導（食栄2年生）、食栄学生編入学指導（食栄2年生）</p>		
教育上の工夫	<p>解剖生理学（食栄、昼、前期、2） 人体を構築する器官・臓器・組織の形態・構造・働きについて、栄養の消化吸収や栄養士の疾病対策に特にかかわりの深い消化器を中心に授業を行った。パワーポイントとパワーポイント中に文字を書き込める機能を使用し、学生の興味を引くよう心掛けた。毎回の授業後にコメントを提出させ、そこに書かれた全ての質問に対して次の授業の初めに回答した。</p> <p>解剖生理学実験（食栄、昼、後期、1） 人体の構造と機能に対する理解を深めさせるためことを目的に実験を行った。自身の身体を使った実験や、日常では観察することができない臓器切片の観察を行わせ、理解を深めさせた。</p> <p>運動保健学（食栄、昼、後期、2） 健康のために有効な運動の知識を身に付けさせるため、基礎的な内容に加えて、最新の知見を紹介した。毎回の授業後にコメントを提出させ、そこに書かれた全ての質問に対して次の授業の初めに回答した。</p> <p>健康管理概論（食栄、後期、2） 健康管理の制度について、栄養士が関連する内容について、ライフステージ毎の知識を身に付けさせた。学生の興味を引くため、最新の社会ニュースや動画を用い、学生でも用いられる制度の紹介を行った。授業毎に小テストを行い、知識の定着度を確認した。</p> <p>生化学（食栄、昼、前期、2） 糖質・脂質・タンパク質の構造とその生体内代謝機構について、栄養学や食品学の理解につながる内容を中心に授業を行った。パワーポイントとパワーポイント中に文字を書き込める機能を使用し、学生の興味を引くよう心掛けた。毎回の授業後にコメントを提出させ、そこに書かれた全ての質問に対して次の授業の初めに回答した。</p> <p>生化学実験（食栄、昼、前期、1） 生化学に対する理解を深めさせるためことを目的に実験を行った。一部では遠隔授業を実施した。試薬を用いて、実験の基礎を身につかせつつ、生体内で起こる化学反応を実験室で調べた。</p> <p>管理栄養特殊講義（食栄、昼、後期、2） 各教員によるオムニバス形式の講義を行った。栄養士力認定試験、管理栄養士国家試験にむけて、出題傾向や重要点を紹介し、問題演習を行わせて理解を深めさせた。</p> <p>特別演習（食栄、昼、通年、4） スポーツ栄養サポート、骨に関する動物実験、運動や食欲に関するヒト実験を行い、学生の解剖生理学、生化学、栄養学の知識獲得に繋がる演習を行った。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本体力医学会、日本栄養・食糧学会、日本スポーツ栄養学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	<p>三重短期大学出前講座「健康のための運動と食事」2022年8月、2023年2月 高大連携授業出前講座「牛乳の等電点沈殿」2022年10月 三重短期大学オープンカレッジ「カロリー制限を探求する」2022年11月 高校ハンドボール部栄養サポート2020年12月～</p>		

三重短期大学教員研究・教育業績（2022年度）

学外審議会委員等	日本スポーツ栄養学会評議員
学外講演会講師等	KAGO食スポーツ栄養セミナーvol.41 アスリートの骨の健康と栄養 2023年3月
その他の社会活動	
他大学非常勤講師	三重大学「スポーツ健康科学b（テニス）」
<p>3 一言アピール</p> <p>非スポーツ競技者、スポーツ競技者の両方に対する、健康へ導く運動と食生活の良い組み合わせについて説明していきます。 （研究テーマの応用例：健康教室の実施）</p>	

三重短期大学教員研究・教育業績（2022年度）

所属：食物栄養学科		職名：講師	氏名：杉野 香江
I 研究活動			
1 研究課題：ビタミンDの欠乏状況と身体機能およびメンタルヘルスに関する調査研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文	<ul style="list-style-type: none"> • Sekijima H., Oshima T., Ueji U., Kuno N., Kondo Y., Nomura S., Asakura T., Sakai-Sugino K., Kawano M., Komada H., and Kotani H. Toxicologic pathological mechanism of acute lung injury induced by oral administration of benzalkonium chloride in mice. <i>Toxicological Research</i> doi.org/10.1007/s43188-023-00178-0 (2023.3) (査読あり) • Kato, T., Mitani Y., Terashima, T., Sugino, K., Takami, K., Sugajima, Y., Yamashita, T. Site-specific changes in BMD over a two-year period in swimming trained postmenopausal middle-aged women. <i>Conference Proceedings 2022 Asia-Singapore Conference on Sport Science – Practical challenges encountered in sport and solutions adopted in Sport Science</i> 33-38 (2023.1) (査読あり) 		
その他			
学会等報告	<ul style="list-style-type: none"> • 関島秀久、杉野香江、大島徹、他 食物摂取が塩化ベンザルコニウム中毒死にもたらす影響 第44回第69回日本法医学学術中部近畿地方集会 (2022.10) 		
共同研究 助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：応用栄養学Ⅰ（食栄、昼、前期、2）、応用栄養学Ⅱ（食栄、昼、前期、2）、栄養学（食栄、昼、後期、2）、食生活論（生活、昼、後期、2）、栄養学実験（食栄、昼、後期、1）、応用栄養学実習（食栄、昼、後期、1）、特別演習（食栄、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	華道部顧問、茶道部顧問		
学内教育活動 （その他）	クラス担任（食栄1年生、食栄2年生）食栄2年生就職指導、食栄2年生編入学指導、オフィシアラー		
教育上の工夫	<p>応用栄養学Ⅰ（食栄、昼、前期、2） 15回の限られた時間で多くの内容を理解してもらうため、パワーポイントで要点をまとめ、かつ資料を配布することで、復習をしやすいように工夫している。また、特に重要なポイントは書き込み欄を設けることで、記憶に残りやすいよう配慮した。講義では、学生の興味を引くよう、献立例や症例の写真等を取り入れている。</p> <p>応用栄養学Ⅱ（食栄、昼、前期、2） 栄養管理において重要となる食事摂取基準の基礎的理解、運動と栄養、特殊環境と栄養の3部構成とし、テーマごとに小テストを実施することで知識が定着するよう工夫した。要点をまとめたパワーポイントと資料配布は、応用栄養学Ⅰと同様の形式にて実施している。</p> <p>栄養学（食栄、昼、後期、2） 栄養士必修科目かつ卒業必修科目であり、栄養士養成のための基礎的な知識を習得する必要があることから、生化学等の復習も交えながらゆっくりと丁寧に説明することを心掛けている。資料については、重要なポイントや覚えるべき内容に書き込み欄を設け、記憶に残りやすく、また復習しやすいよう工夫した。</p> <p>食生活論（生活、昼、後期、2） 複数の専攻の学生が受講することから、栄養学や食品学の入門の内容を丁寧に講義した。食に関する社会問題や、世間で見かける健康情報などの身近な話題に触れることで、学生の興味を引く工夫した。</p> <p>栄養学実験（食栄、昼、後期、1） 栄養素の特徴や消化・吸収、代謝についてなど、栄養学の講義で学んだ知識をより深めることができる実験・演習内容にしている。実験を行うだけにとどまらず、データについて十分に考察できるようにレポートの課題内容を工夫した。</p> <p>応用栄養学実習（食栄、昼、後期、1） 各ライフステージにおける、食事摂取基準に応じた献立作成を行い、実際に自分の献立を調理できるようなスケジュールにしている。また、行事食、調乳実習、嚥下対応食の試食、とろみ剤の使用等、幅広い体験ができる内容を取り入れた。</p> <p>特別演習（食栄、昼、通年、4） えん麦の調理方法の違いによる食後血糖値変化と、身近な食品から分離した酵母の製パンへの利用の2つをテーマに演習を行った。履修学生が中心に被験者となり、食事摂取後の血糖値を測定することで糖尿病における栄養管理について理解を深めることができた。また、酵母の利用性については、学生の興味や関心を追求し、調理の応用力を高めることができた。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本栄養士会、日本栄養改善学会、日本栄養・食糧学会、骨粗鬆症学会、体力医学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	世界の料理講座（調理実習）の補助 津市国際交流協会		
学外審議会委員等			
学外講演会講師等	<ul style="list-style-type: none"> 出前講座「骨の健康を守るために」（講師）鈴鹿市社会福祉センター（2022年11月） 公開講座「ライフステージにおける食と健康」（講師）三重短期大学オープンカレッジ（2022年12月） 		
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
生涯健康な生活をおくるためには、身体機能およびメンタルヘルスの維持が重要です。これらに関連する食習慣、生活習慣について、調査し検討しています。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2022年度）

所属：食物栄養学科		職名：助教	氏名：飯田 津喜美
I 研究活動			
1 研究課題：タンパク質の構造と機能に関する研究、地域伝統食材・食文化に関する調査研究、ジュニア世代のスポーツ栄養学及びその指導に関する調査研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他	小野はるみ、飯田津喜美、若杉悠佑：「ウエイトリフティングジュニア選手の食生活調査（2020年度）」、「ウエイトリフティングジュニア選手の食生活調査（2021年度）」スポーツ医・科学研究MIE第29巻、30巻合併号25-39、2023年1月		
学会等報告	磯部 由香、阿部 雅里、飯田 津喜美、乾 陽子、奥野 元子、久保 さつき、小長谷 紀子、駒田 聡子、鷺見 裕子、成田 美代、萩原 範子、平島 円、水谷 令子：日本調理科学会2022年度大会「次世代に伝え継ぐ日本の家庭料理 三重県の家庭料理 地域の特徴」、2022年9月、兵庫県立大学		
共同研究	蛋白質を用いたドラッグ・デリバリー・システム（DDS）に関する研究（蛋白質の構造・機能解析）		
助成研究	ササゲ属マメの国内外での利用圏と調理科学的利用法の検討 一般社団法人日本調理科学会 特別研究『次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理』三重県研究調査		
II 教育活動			
1 担当科目：給食計画実務論実習Ⅰ（食栄、昼、前期、1）、校外実習事前事後指導（食栄、昼、通年、1）、臨床栄養学実習（食栄、昼、前期、1）、解剖生理学実験（食栄、昼、後期、1）、栄養学実験（食栄、昼、後期、1）、特別演習（食栄、昼、通年、4）			
2. 教育活動実績			
課外活動指導	バレーボール部顧問		
学内教育活動 (その他)	食栄1年次生クラス担任、食栄2年次生クラス担任（就活指導等）、オフィスアワー		
教育上の工夫	<p>実験実習（食栄、昼、前期・後期、1） 実験実習が滞りなく進行するように担当教員の補佐を務めた。また、研究で培った実験手法等を学生にわかりやすく伝えるよう努めた。</p> <p>特別演習（食栄、昼、通年、4） 地域伝統食材・食文化に関する調査研究分野において、文献の読み解き方、研究のまとめ方、プレゼン指導等を通して実社会に必要な知識及び技術の習得につながるよう努めた。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本栄養士会、日本栄養改善学会、日本生化学会、日本調理科学会、日本蛋白質科学会、日本熱測定学会他			
2 社会活動実績			
地域連携事業	三重短期大学地域連携センター2022年度「橿原地域の魅力創出のための調査研究」 出前講座「健康づくりのための家庭料理を学ぼう」伊賀市西条公民館、2022年8月26日		
学外審議会委員等	三重県スポーツ協会スポーツ医・科学実行委員会委員（2010年6月～現在）同スポーツ栄養学班班長（2020年6月～現在）、日本栄養改善学会評議員（2018年11月～2022年10月まで）、一般社団法人日本調理科学会 特別研究『次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理』三重県研究調査員（2012年～現在）同三重県副責任者（2014年～2023年3月まで）、公益社団法人三重県栄養士会 理事（2021年5月～現在）		
学外講演会講師等	スポーツ栄養指導教室講師（分担）三重県立四日市工業高校、2022年6月23日		
その他の社会活動	三重県学生バレーボール連盟監事		
他大学非常勤講師	放送大学2022年度第2学期面接授業「食卓の調理科学」、2023年1月7～8日		
3. 一言アピール			
<p>タンパク質は、その構造や機能を調べることにより様々な性質を知ることができます。現在、大阪府立大学との共同研究において、生体内輸送蛋白質であるリポカリン型プロスタグランジンD合成酵素（L-PGDS）を用いた新規ドラッグ・デリバリー・システム（DDS）の開発を目指し、本蛋白質の熱安定性と機能性について調査しています。</p> <p>また、三重県の伝統食材（シロミトリ豆等）を調査し、有効利用法を研究しています。あわせて将来に残したい家庭料理・行事食の継承活動も行っています。</p> <p>（研究テーマの応用例：地域伝統食材の有効利用法の提案、食生活改善・普及事業の実施と評価 等）</p>			

三重短期大学教員研究・教育業績（2022年度）

所属：食物栄養学科		職名：助教	氏名：服部 知美
I 研究活動			
1 研究課題：保健機能食品、機能性表示食品に関する研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文	<p>1. Tomomi Hattori, Yoichi Nagamura. Development of new menus using foods with health claims in Japan, and evaluation of survey results for users. <i>Int J Anal Bio-Sci</i> 10, 49-59, 2022.9 (査読有)</p> <p>2. 服部知美: 保健機能食品制度における食品形態の実態と健康食品管理士の皆様に意識していただきたいこと. <i>日本食品安全協会誌</i> 17:164-167, 2022.8 (査読有)</p> <p>3. 駒田亜衣, 服部知美: アスリート向け弁当メニューの提案-国体選手用の斡旋弁当-. 三重短期大学地域問題研究所地研年報第27号, 81-88, 2022.12</p> <p>4. 長村洋一, 服部知美: 爆発的に増加する機能性表示食品の現状を見てのある提案. <i>日本食品安全協会誌</i> 17: 87-93, 2022.5</p>		
その他	三重短期大学付属図書館 図書館だよりNo50 食物栄養学科 服部知美 おすすめ図書 「食で医療費は10兆円減らせる 渡邊昌/著」 2022.12		
学会等報告	<p>1. 服部知美: 保健機能食品を使用した「保健機能のあるバランス食」および「日本の薬膳」の開発. 第26回日本病態栄養学会年次学術総会 京都2023.1</p> <p>2. Tomomi Hattori, Yoichi Nagamura: The promotion of Japan's system of Foods with Function Claims and development of "balanced and healthy meals" to improve dietary habits. The 22nd International Congress of Nutrition, Tokyo, 2022.12.</p> <p>3. Tomomi Hattori, Yoichi Nagamura: Proposals for New and Improved Measures for the Development of Japan's Foods with Functional Claims System. The 8th Asian Congress of Dietetics, Yokohama, 2022.8.</p>		
共同研究	助成研究		
II 教育活動			
1 担当科目：特別演習（食栄、昼、通年、4）、栄養教育論実習（食栄、昼、前期、1）、給食運営管理論実習Ⅰ（食栄、昼、前期、1）、調理学実習Ⅰ（食栄、昼、前期、1）、調理学実習Ⅱ（食栄、昼、後期、1）、応用栄養学実習（食栄、昼、後期、1）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 (その他)	クラス担任（食栄1年生、食栄2年生）、食栄学生就職指導（食栄2年生）		
教育上の工夫	<p>実験実習（食栄、昼、前期・後期、1） 円滑な実習の進行のための前日当日の準備、及び運営のための実習費の管理に努めた。特に給食運営管理論実習Ⅰでは、自身の現場経験に基づく細部にわたる助言、指導を心がけた。</p> <p>特別演習（食栄、昼、通年、4） 保健機能食品を使用した健康に配慮した献立作成、地産地消やSDGsをテーマにした献立作成、20歳代女性のバランス食の考案と試作を重ねた信頼性の高い分量にて調理、盛り付けおよび現場で役立つわかりやすいレシピ(分量と作り方)の書き方指導を行い、「三重短期大学食物栄養学科70期レシピ集」（本文カラー60ページ）を作成した。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本栄養士会、日本栄養改善学会、日本病態栄養学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	<p>1. 三重短期大学出前講座「自分自身の健康のために ～食生活改善と保健機能食品の利用の仕方～」多気町役場 2022.11.19</p> <p>2. 三重短期大学出前講座「高齢者における生活習慣病&フレイル予防対策」津市片田公民館 2022.9.14</p>		
学外審議会委員等	市立四日市病院給食業務受託者選考委員 2022年8月～12月		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
<p>健康の維持増進の要となる食生活について、地域の皆様が心から重要と感じ、食生活改善への行動変容へと導けるよう、講演会、学会等を通じて発信していきます。</p> <p>また、疾病予防、重症化予防に貢献できるよう栄養学の研究を進めてまいります。</p>			

三重短期大学教員研究・教育業績（2022年度）

所属：食物栄養学科		職名：助教	氏名：福安 智哉
I 研究活動			
1 研究課題：CF患者の腸内細菌叢に関して			
2 研究活動実績			
著書			
論文	共著：Kazuki Kioka et al. Soy protein intake increased bone mineral density under nonenergy-deficiency conditions but decreased it under energy-deficiency conditions in young female rats. Nutrition Research, Volume 106, October 2022, Pages 1-11		
その他			
学会等報告			
共同研究 助成研究	日本におけるCF患者の動向及び実態調査(2018-) アレルギーマウスにおける腸内細菌叢の変容 (2021-)		
II 教育活動			
1 担当科目：食品学実験（食栄、昼、前期、1）、生化学実験（食栄、昼、前期、1）、食品衛生学実験（食栄、昼、後期、1）、栄養指導論実習（食栄、昼、後期、1）、校外実習事前事後指導（食栄、昼、通年、1）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 (その他)	クラス担任（食栄1年生、2年生）、食栄学生就職・編入指導（2年生）		
教育上の工夫	<p>各種実験（食栄、昼、前期・後期、1） 各種実験において、円滑な進行の為に事前準備、助言を行った。加えて、感染症対策の為に複数教室での授業の準備計画を行い、円滑な進行に努めた。</p> <p>栄養指導論実習（食栄、昼、後期、1） 栄養指導論実習において、PC等を用いた栄養指導方法に関して、見やすい字の大きさや色合い、トラブルシューティング等、技術的サポートを行った。</p> <p>校外実習事前事後指導（食栄、昼、通年、1） 校外実習事前事後において、感染症対策の為に校内実習となった学生が発生したが、円滑に実習が行われる為に注力した。書類やメールでのやり取りが増加したため、基本的な送付方法等の指導を行った。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本臓器学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	伊賀市での出前講座 2022年6月 「管理栄養士国家試験対策講座」の補助 2022年10月 オープンカレッジ 2022年11月		
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動	嚢胞性線維症支援ネットワークに所属		
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
腸内細菌叢というのはとても複雑で、様々な要因によって変化するのに加えて、疾患との関連が報告されています。腸内細菌叢を変容させる方法はいくつもありますが、特に栄養は腸内細菌叢を変化させる要因として代表的な物ですので、研究で得た知見を元に、より良い腸内細菌叢について、変え方等の指導をしております。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2022年度）

所属：生活科学科		職名：教授	氏名：南 有哲
I 研究活動			
1 研究課題：環境概念の理論的探究、生活科学についての原論的理解の深化、外来生物問題をめぐる環境思想の研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文	清水幾太郎における環境概念について 地研年報 第27号 2022年11月 33-41		
その他	ゴミから考える生活スタイルの見直し SDGsと家政学のつながり (一社)日本家政学会中部地区家政学原論部会・生活経営部会合同研究会 2023年3月 4-6		
学会等報告			
共同研究 助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：環境論（共通、夜、前期、2）、生活と環境（食栄・生活、昼、前期、2、隔年）、環境政策論（法1・生活、昼、後期、2）、環境政策論（法2、夜、後期、2）、地域政策論Ⅱ（法2、夜、後期、2）、環境倫理学（生活、昼、前期、2、隔年）、居住環境特別演習（生活、昼、通年、4）、居住環境基礎（生活、昼、後期、2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	イラスト部顧問		
学内教育活動 (その他)	一年次クラス担任 オフィスアワー設定、編入学指導		
教育上の工夫	<p>環境論（共通、夜、前期、2） 自然科学的テーマに内容を限定している。</p> <p>生活と環境（食栄・生活、昼、前期、2、隔年） 大量生産・消費・廃棄という現代人の生活の在り方が環境に及ぼす影響およびそれへの対処について、具体的な事例に基づきながら解説している。</p> <p>環境政策論（法1・生活、昼、後期、2） 社会科学的テーマに内容を限定している。</p> <p>環境政策論（法2、夜、後期、2） 社会科学的テーマに内容を限定している。</p> <p>地域政策論Ⅱ（法2、夜、後期、2） 地域の基幹たる第一次産業の課題について生物多様性の見地から解説している。</p> <p>環境倫理学（生活、昼、前期、2、隔年） 環境倫理学の柱となるテーマであるところの、「世代間倫理」・「人間中心主義批判」・「環境的正義」についての学説を紹介することで、環境問題をめぐる思想的な課題について解説し、思考を促している。</p> <p>居住環境特別演習（生活、昼、通年、4） 視聴覚教材を利用してリアルな認識を得させうえて、それを基にした説明と討論を行い、最後に感想文を書かせることで、参加者自身の認識の深化を図っている。</p> <p>居住環境基礎（生活、昼、後期、2） 視聴覚教材を利用してリアルな認識を得させうえて、それを基にした説明を行い、最後に感想文を書かせることで、参加者自身の認識の深化を図り、なおかつ、2年次における所属ゼミ選択についての判断材料を提供している。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：唯物論研究協会、基礎経済科学研究所、関西唯物論研究会、日本家政学会、日本家政学会家政学原論部会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	オープンカレッジ講師「獣害問題を考える」、2021年8月7日		
学外審議会委員等	津市廃棄物減量等推進審議会委員（2021年1月～現在に至る）		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			

三重短期大学教員研究・教育業績（2022年度）

3 一言アピール

環境思想と家政学原論の統合を目指します。

（研究テーマの応用例：外来生物問題の環境倫理、家政学から見た獣害問題）

三重短期大学教員研究・教育業績（2022年度）

所属：生活科学科		職名：教授	氏名：木下 誠一
I 研究活動			
1 研究課題：住宅・施設における生活空間の計画			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告			
共同研究 助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：キャリア形成セミナー（共通、昼、前期、2）、居住計画論（生活、昼、前期、2）、居住福祉論（生活、昼、後期、2）、住生活論（生活、昼、後期、2）、建築製図基礎（生活、昼、前期、2）、居住環境基礎（生活、昼、後期、2）、居住環境特別演習（生活、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 (その他)	1年次クラス担任、オフィスアワー、卒業研究指導、編入学指導		
教育上の工夫	<p>居住計画論（生活、昼、前期、2） パワーポイント等を使用して、視覚的に理解しやすい講義を心掛けている。授業の冒頭で前回提出されたレポートの中から優れた評価のものを紹介し解説することで、前回の内容を振り返るようにしている。</p> <p>居住福祉論（生活、昼、後期、2） パワーポイント等を使用して、視覚的に理解しやすい講義を心掛けている。資格に関連した内容にもふれて、資格取得への関心を高めるようにしている。学生の意見等を反映する方法の検討が課題である。</p> <p>住生活論（生活、昼、後期、2） パワーポイント等を使用して、視覚的に理解しやすい講義を心掛けている。講義の最後には、講義のテーマに関連した動画を見てもらうことで、理解を深めるようにしている。学生の意見等を反映する方法の検討が課題である。</p> <p>建築製図基礎（生活、昼、前期、2） コロナ感染防止の観点から、実習室と普通教室の2教室に分けて実施した。学生の理解度や作業の進捗などに個人差があるため、なるべく各机をまわって個別に質問を受け、作業の進捗状況に合わせてアドバイスするように心掛けた。</p> <p>居住環境基礎（生活、昼、後期、2） 問題解決型の授業として、学生は課題に取り組み、グループワークによる意見交換を通して問題意識を深め、最後に成果を発表する形式で実施している。</p> <p>居住環境特別演習（生活、昼、通年、4） 学生の主体性を尊重し、学生自身に研究テーマを設定させ、研究成果を居住環境コースの卒業研究発表会で発表している。</p> <p>キャリア形成セミナー（共通、昼、前期、2） 毎回異なる分野の講師を招くことで、学生自身がキャリアについての考えを深め、進路選択に役立てられるようにしている。受講者数が200名を超えるため、教室間をオンラインで結び、同時配信した。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本建築学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	三重短期大学出前授業「高齢者の住まい」南が丘公民館（2022年12月）		
学外審議会委員等	鈴鹿市景観審議会審査部会員、鈴鹿市景観アドバイザー、松本市景観アドバイザー、津市景観アドバイザー、津市景観審議会委員、三重県建設技術センター理事、津市中勢グリーンパーク指定管理者選定委員会委員、大学基準協会短期大学評価第2分科会委員		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
子どもから高齢者まで快適に暮らせる生活空間の質向上を目指した提案を行っていきたくと思っています。 (研究テーマの応用例：住宅や各種施設の計画・設計)			

三重短期大学教員研究・教育業績 (2022年度)

所属：生活科学科	職名：教授	氏名：小野寺 一成
I 研究活動		
1 研究課題：地方都市再生の計画及び事業に関する研究、地方都市における持続可能な集約型都市構造、多核ネットワーク型都市構造、行政計画体系における広域都市計画、都市農村計画の意義、都市再生手法、都市拠点デザイン、住宅団地再生のあり方、住民参加と都市計画理論の共存、住民参加型計画の効果		
2 研究活動実績		
著書		
論文	地方都市において実践されたコンパクトシティ化計画及び事業の効果 一富山市における都市構造再編と中心市街地活性化を中心にー 三重短期大学生活科学研究会紀要 みえ生活科学研究 第2号 2023年3月 地方合併都市における地域拠点「核」の形成に関する考察 一津市における旧庁舎跡地活用を事例としてー 2022年度日本建築学会大会(北海道) 学術講演研究発表会オーガナイズドセッション都市計画部門 C.人口減少・感染症と戦う地方都市のプランと拠点デザインの展開・実践 7069 選抜梗概(採択) 2022.9.6	
その他	公共交通体系の強化と中心市街地の再生による都市構造の再編 一富山市のコンパクトシティ化を事例としてー 日本建築学会大会(北海道) 研究協議会(都市計画部門)「新たな価値を実現するための都市・都市計画の枠組み」 2022.9.7 旧庁舎跡地活用による市民ホールを有した拠点のストリート化 一津市久居アストプラザを事例としてー 日本建築学会大会(北海道) 研究懇談会(都市計画部門)「ウォーカーシティに向けたアーバンストリートの統合デザイン」 2022.9.8	
学会等報告		
共同研究 助成研究	近年の都市計画関連法改正と地方都市再生を担った計画及び事業の役割と効果 一地方都市における都市構造再編と中心市街地活性化を中心にー2022年度 地域問題研究所 研究員 2022年4月～2023年3月	
II 教育活動		
1 担当科目：まちづくり企画・まちづくり設計Ⅰ(生活、昼、前期、2・1)、住環境計画(生活、昼、前期、2)、地域政策論Ⅰ・地域政策論(食・生活・法Ⅰ、昼、前期、2)、自治体行政特論(食・生活・法Ⅰ、昼、前期、2)、地域づくり実践(生活、昼、夏季集中講義、2)、まちづくり設計・まちづくり設計Ⅱ(生活、昼、後期、1)、地域環境学(生活、昼、後期、2)、都市計画論(生活、昼、後期、2)、居住環境基礎(生活、昼、後期、2)、居住環境特別演習(生活、昼、通年、4)		
2 教育活動実績		
課外活動指導	都市計画ゼミにて、津市一身田寺内町の館及び寺内町の視察(校外演習v.1)、津市津城跡及び旧伊勢街道大門商店街の視察(校外演習v.2)、三重県立総合博物館MIEMUの視察(校外演習v.3)、日本最古の木造天守閣を有する犬山城と歴史的街並みが残る城下町の視察(校外演習v.4)を実施。	
学内教育活動 (その他)	生活科学1年次クラス担任、オフィスアワー 前期：水曜日14:00～15:30、後期：水曜日14:00～15:30、「居住環境特別演習」のゼミ生における卒業研究と発表会の指導、及び「2022年度都市計画ゼミ卒業研究(論文・計画・設計)集」の作成・編集。また、4年制大学への編入希望者に対し、志願理由書の添削、小論文の書き方指導、面接試験の指導。	
教育上の工夫	まちづくり企画・まちづくり設計Ⅰ(生活、昼、前期、2・1) 本講義は2年生向けの講義であることから2022年度からまちづくり企画としての開講となった。今年度は、新型コロナ禍3年目のため、前半の企画及び後半の計画ともグループワークとした。現地調査、テーマ、コンセプトなどを検討する際、出来る限り参考資料を配布するとともに具体的な事例を紹介しながら説明している。今後も学生一人ひとりと接する機会を増やし個別的な指導を心掛けていきたい。	
	住環境計画(生活、昼、前期、2) 講義に関しては、図表を中心としたパワーポイント等の視覚的教材を積極的に使用するとともに、毎回の講義後に簡単なキーワード試験を取り入れ、興味を持てるような工夫をしている。居住環境コースの1年生前期用であり、学習の出発点と位置づけていることから、分かりやすい講義に努めている。	
	地域政策論Ⅰ・地域政策論(食・生活・法Ⅰ、昼、前期、2) 今後も、図表を中心としたパワーポイント等の視覚的教材を積極的に使用するとともに、毎回の講義後に簡単なキーワード試験を取り入れ、興味を持てるような工夫をしていきたい。主に2年生前期用の講義と捉えており、少し難しい講義になっている。今年度は1年生も多く受講して来ていることから、2年生用をアピールするか、少し内容を易しくするか考えたい。	
	自治体行政特論(食・生活・法Ⅰ、前期、2) この講義は、津市長をはじめ津市の職員によるリレー式の講義であり、本学の「地域連携講義」の一つとして行われる特色ある講義である。毎回の講義内容を履修ノートとして提出するとともに、津市議会の傍聴レポートを課題としている。講演者が話しやすく学生が質問し易い状況をつくることを心掛けたい。	
	地域づくり実践(生活、昼、夏季集中講義、2) 今年度から始まった、生活福祉・心理コースと協働の夏季集中講義である。夏休みの前半8月1日、2日と後半9月29日、30日の計4日間の講義であった。両コース件32名の学生参加と全教員により、津駅周辺地域を対象としたフィールドワークを行うなど、全体として新聞や市広報に取り上げられるなど盛況な結果となった。今後も、生活科学科の特徴ある講義として継続したい。	
	まちづくり設計・まちづくり設計Ⅱ(生活、昼、後期、1) 今年度は、前半の企画をグループワーク、後半の設計をグループワークもしくは個人設計とした。結果として、各自が設計に取り込める時間が増えることとなった。今後も学生一人ひとりと接する機会を増やし個別的な指導を心掛けていきたい。2年生後期の建築士を目指した授業であることから、2年生前期講義のまちづくり企画履修者に限るなどの適正な受講者数も課題としたい。	
	地域環境学(生活、昼、後期、2) 今後も、図表を中心としたパワーポイント等の視覚的教材を積極的に使用するとともに、毎回の講義後に簡単なキーワード試験を取り入れ、学生の興味を引く工夫を施し、最新の情報などを取り入れ、知的興味を持てるように工夫をしていきたい。なお、受講人数が多くなったり大教室で講義を行った場合、評価が下がる傾向にある。	
	都市計画論(生活、昼、後期、2) 今後も、新しい情報を加えるとともにわかりやすさに努め、図表を中心としたパワーポイント等の視覚的教材を積極的に使用しながら、毎回の講義後に簡単なキーワード試験を取り入れて興味を持てるような工夫をしたい。やはり、履修学生が増えた時の評価が課題となる。	

三重短期大学教員研究・教育業績（2022年度）

	<p>居住環境基礎（生活、昼、後期、2）</p> <p>昨年度は在外研修のため、今年度からの参加であった。居住環境コース4名の教員によるローテーション形式による講義である。都市計画分野では、4名程度のグループで、1.まちづくりワークショップ（三重短期大学周辺の現状を知ろう）、2.まちづくりのテーマ・コンセプトを考えよう（グループワークなど）、3.まちの将来構想づくり（持続可能な地域づくり）をワークショップ形式で行い、都市計画ゼミやまちづくりの内容を体験できる講義とした。</p>
	<p>居住環境特別演習（生活、昼、通年、4）</p> <p>授業計画としては、まちづくり及び都市計画さらには地域の公共施設等の今日的な課題等を題材に研究テーマを決め、資料調査及び現地調査等に基づく分析による結果を導き、各自の考察を行い、卒業研究論文または卒業研究計画及び卒業研究設計として取りまとめることとしている。前期は輪講を行いながら各自研究テーマを決め、夏休みに調査を行い、後期から卒業研究報告を取りまとめ、卒業研究（卒業論文・卒業計画・卒業設計）発表会にて各自発表を行っている。2022年度はゼミ生のまちや都市への興味の一環として、一身田寺内町、津城及び大門商店街、三重県立総合博物館MIEMU、犬山城及び城下町の視察を行った。</p>
Ⅲ 学会等及び社会における主な活動	
1 所属学会：一般社団法人日本建築学会、公益社団法人日本都市計画学会	
2 社会活動実績	
地域連携事業	
学外審議会委員等	<p>一般社団法人建築学会 都市計画委員会 地方都市拠点デザイン小委員会委員（2019.4～）、一般社団法人日本建築学会 東海支部 常議員（2020.6.1～）、一般社団法人建築学会 東海支部 都市計画委員会幹事（2019.4～）</p> <p>三重県開発審査会委員（建築）（2022～）、津市市民活動推進事業交付金対象事業選考懇話会委員長（2022～）、津市大門・丸之内地区未来ビジョン策定委員会オブザーバー（2022～）、明和町立第1期再編小学校（仮称）等整備事業設計・施工一括発注方式事業者選定委員会副委員長（2022.7.20～）、明和町都市計画審議会委員長（2022～）、津駅周辺道路空間再編検討委員会委員長（2021～）、三重県公共事業評価審査委員会（技術(都市計画)）（2020～）、四日市市開発審査会委員（都市計画・建築）（2016～）、三重県事業認定審査会委員（都市計画）（2015～）、津市建築審査会委員（都市計画）（2014～）、津市農業振興対策協議会委員（会長）（2014～）、津市福祉有償運送運営協議会委員（会長）（2014～）、尾鷲市都市計画マスタープラン見直し策定委員長（2020～2021）</p>
学外講演会講師等	
その他の社会活動	
他大学非常勤講師	
3 一言アピール	
<p>地方都市再生の計画及び事業に関する研究、地方都市における持続可能な集約型都市構造の検討、行政計画体系における広域都市計画、都市農村計画の意義、都市再生手法、都市拠点デザイン、住宅団地再生のあり方、住民参加と都市計画論の共存、住民参加型計画の効果、人口減少時代の都市計画など、今後の都市計画の課題に取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>（研究テーマの応用例：地方都市再生、持続可能な多核ネットワーク型都市構造の検討、広域都市計画の検討、都市農村計画の検討、老朽化した公共住宅団地等の建替え検討、住民参加のまちづくり）</p>	

三重短期大学教員研究・教育業績 (2022年度)

所属：生活科学科		職名：准教授	氏名：北村 香織
I 研究活動			
1 研究課題：障害のある人に対する地域生活支援、社会福祉政策史（医療政策史含む）			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告	「選択的夫婦別姓を考える」はもりあフェスタ2022 報告、2023年3月11日。		
共同研究 助成研究	「障害のある人の尊厳を守る ―障害者虐待防止法・障害者差別解消法と地方自治体の役割」2022年度三重短期大学地域問題研究所研究員		
II 教育活動			
1 担当科目：障害者福祉論（生活、昼、前期、2）、社会福祉発達史（生活、昼、前期、2）、社会福祉援助技術演習Ⅰ（SS、昼、後期、4）、社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ（SS、昼、後期、3）、福祉心理基礎演習（生活、昼、後期、2）、演習（生活、昼、通年、4）、社会福祉援助技術現場実習Ⅰ（生活、昼、後期、3）、社会福祉援助技術現場実習Ⅱ（生活、昼、前期、3）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	子ども食堂サークル顧問 ボランティアサークル顧問		
学内教育活動 (その他)	オフィスアワー（火曜日：4限）、卒論作成指導、ゼミ生に限らず、就職活動支援、4年制大学への編入希望者に対し、小論文及び面接対策を行った。		
教育上の工夫	<p>障害者福祉論（生活、昼、前期、2） 障害者福祉制度の基本のみならず、「障害とは何か」を考えるような内容を加えることで、障害者福祉に関する理解を深め、さらにこれからの具体的な行動に繋がられることをめざしました。また、映像教材も適宜使用することで、障害のある人の生活についてできるだけ具体的にイメージできるように心掛けました。</p> <p>社会福祉発達史（生活、昼、前期、2） 「社会福祉」自体のイメージができない学生に対しても、その構造を説明するように工夫をしました。現在と歴史とがどうつながっているのかについても、具体的に説明するように心掛けました。</p> <p>社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ（SS、昼、後期、3） 実習先についての問題関心を深めるとともに、社会福祉の視点を持ち、実習先の利用者・職員の方々と良好な人間関係を築き、より多くのことを学び取ることができるよう指導を行いました。特に、実習課題の設定に関しては講義時間だけではなく課外でも多くの時間を割いて指導を行いました。今年度は、数年ぶりに全員が現場実習に行くことになったので、学生同士のコミュニケーションも含め、より丁寧な指導を心がけました。</p> <p>社会福祉援助技術現場実習Ⅰ（SS、昼、後期、3） 積極的に動くことが難しい学生に対し、実習巡回や帰校日などを使ってじっくり話を聞いたり、実習指導者とも十分に意思疎通をはかって、学生の状況をわかっていただくことに心掛けました。</p> <p>社会福祉援助技術現場実習Ⅱ（SS、昼、前期、3） コロナ禍の実習となり、学生に少しでも体調不良があれば細かい対応が迫られました。施設側と学生との連絡を密にとり、すぐに対応するよう努めました。また、施設側からの相談にもすぐに応じるようにして、現場が緊迫した中での実習生受け入れに対して少しでも負担を減らすように対応しました。</p> <p>社会福祉援助技術演習Ⅰ（生活、昼、後期、4） 社会福祉援助技術総論の講義における理論学習を実践的に応用できるように、講義の内容と連動して演習に臨めるためのプログラム作成に努めました。また、演習のふりかえり作業を毎回レポート化できるようにして、そのフィードバックについても積極的にを行うようにしました。</p> <p>地域づくり実践（生活、昼、集中、2） 今年度から開講した科目ですが、開講にあたり、学科教員とともに会議やワークショップを重ねて準備をした上で、フィールドワーク、グループワークなど実践的な授業を行いました。備品やワークショップの準備に関しても積極的にを行いました。</p> <p>演習（生活、昼、通年、4） 夏休みに他大学との合同ゼミを開催し、立命館大学、佛教大学、愛媛大学、神戸大学、和歌山大学等の3年生4年生とともに報告や討論を行いました。準備をしてゼミ生全員が参加し、賞も受賞しました。そのほかフィールドワークにも出て活動も行いました。卒業論文指導はもちろんのこと、就職・編入学の書類の指導も行いました。</p> <p>福祉心理基礎演習（生活、昼、後期、2） 様々な背景を持つ学生がいるので、それにも配慮しつつ、ゼミが仲間作りの場にもなるように、新聞記事の紹介や今日の一言などを通してひとりひとりが自分を表現できる場を特に重視しました。また、ゼミの内容についても、学生から積極的に提案をするように求めてとりくみました。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本社会福祉学会、障害学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	<p>「公的扶助」「障害者福祉論」「権利擁護と成年後見制度論」 三重短期大学社会福祉士国家試験対策講座、2022年9月。 「ノーマライゼーション理念から考える誰もが住みやすいまちづくり」 三重短期大学オープンカレッジ、2022年11月12日</p>		

三重短期大学教員研究・教育業績（2022年度）

学外審議会委員等	三重県ユニバーサルデザインのまちづくり推進協議会委員、三重県発達障害者支援地域協議会委員、三重県障害者給付費等及び障害児通所給付費等不服審査会委員、社会福祉法人鈴風会評議員、社会福祉法人風の丘評議員、三重県障がい者虐待防止対策支援事業に伴う専門家チーム構成員、三重県社会福祉審議会委員、三重県行政不服審査会委員
学外講演会講師等	「障害者の尊厳を守るために ～虐待のない支援を目指して～」高浜市自立支援協議会 2022年度虐待防止研修 講師 2023年2月。
その他の社会活動	日本科学者会議三重支部幹事
他大学非常勤講師	鈴鹿大学短期大学部「社会福祉概論」、日本福祉大学教育・心理学部「関係行政論」
<p>3 一言アピール</p> <p>障がいのある人が社会生活を送る時に障壁となるものは具体的に何なのかを分析しながら、皆が生きやすい社会の仕組みについて考察しています。また、女性の貧困や労働環境についても関心を持っています。</p> <p>(研究テーマの応用例：ユニバーサルデザインのまちづくり、男女共同参画のまちづくり 等)</p>	

三重短期大学教員研究・教育業績（2022年度）

所属：生活科学科		職名：准教授	氏名：武田 誠一
I 研究活動			
1 研究課題：○地域包括ケアシステム推進における地域の課題分析。○後期近代における「互助」の在り方の検討。			
2 研究活動実績			
著書	『保健医療と福祉』分担執筆（担当範囲 第2章 保健医療の制度），ミネルヴァ書房，2022年。		
論文			
その他			
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：社会福祉援助技術総論（生活、昼、前期、4）、医療福祉論（生活、昼、前期、2）、社会福祉援助技術論Ⅰ（生活、昼、後期、4）、福祉心理基礎演習（生活、昼、後期、2）、福祉心理演習（生活、昼、通年、4）、社会福祉援助技術現場実習Ⅱ（生活、昼、前期、3）、社会福祉援助技術現場実習Ⅰ（生活、昼、後期、3）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 (その他)	1年生前期のクラス会を毎月開催し、学生の学修・生活指導を行った。通年でオフィスアワー（週1回 1コマ）を実施し、ゼミ生、科目履修者の学修指導を行った。		
教育上の工夫	<p>医療福祉論（生活、昼、前期、2） 専門的な内容であったが、それが学生の知的刺激に結びついているのであれば、その期待に応えられるように、今後も講義で取り上げる内容を更にブラッシュアップしていきたい。また、ミニットペーパーを活用し学生の理解度を把握している。</p> <p>社会福祉援助技術総論（生活、昼、前期、4） ソーシャルワークを理解できるように事例を多く取り入れた。 主体的な学修ができるように、学生が発表する機会を積極的に取り入れた。</p> <p>社会福祉援助技術論Ⅰ（生活、昼、後期、4） 少人数であるため、グループワークを多用した。 映像教材などを活用して、学生の理解度を高める工夫を行った。</p> <p>社会福祉援助技術現場実習Ⅱ（生活、昼、前期、3） 実習中の巡回を通じて、実習目標の達成度、日誌の記述などの指導を行うことで、実習中の不安解消など実習生のサポートを行った。</p> <p>社会福祉援助技術現場実習Ⅰ（生活、昼、後期、3） 実習中の巡回を通じて、実習目標の達成度、日誌の記述などの指導を行うことで、実習中の不安解消など実習生のサポートを行った。</p> <p>福祉心理基礎演習（生活、昼、後期、2） 新聞レポートを活用し、意見発表を積極的に行えるように工夫を行った。</p> <p>福祉心理演習（生活、昼、通年、4） 卒業論文の完成に向け、個別指導と全体での指導を合わせ実施した。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本社会福祉学会、日本保健福祉学会、日本保健医療福祉連携教育学会、日本医療・病院管理学会、日本プライマリ・ケア連合学会、社会政策学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	出前講座2022年9月、12月、計2回実施。政策研究・研修「地域におけるゴミ出し支援の課題に関する研修」実施 オープンカレッジ（2022年11月）「私たちの医療と福祉の支え」		
学外審議会委員等	津市介護保険事業等検討委員 2016年10月～、松阪市 福祉有償運送運営協議会委員 2017年4月～、四日市市障害者差別解消支援地域協議会委員 2018年3月～、津市社会福祉事業団評議員 2021年6月～		
学外講演会講師等	一般社団法人みえ障害者の親なきあとテーマ別勉強会 2023年3月。		
その他の社会活動			
他大学非常勤講師	皇學館大学現代日本社会学部「公的扶助論」、日本こども福祉専門学校通信教育部社会福祉士学科「保健医療サービス」		

三重短期大学教員研究・教育業績（2022年度）

3 一言アピール

福祉、介護、医療での支援のあり方について、関心を持ち研究しております。
専門職として職場や地域で自己研鑽を目指す方と協働していければと考えております。

三重短期大学教員研究・教育業績（2022年度）

所属：生活科学科		職名：准教授	氏名：笠 浩一朗
I 研究活動			
1 研究課題：自然言語処理、コーパス言語学			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告			
共同研究 助成研究	科研費 基盤研究（C）「同時通訳の訳出方略の分析のための柔軟な対訳対応付け手法の開発」（代表者）（課題番号：17K02765）		
II 教育活動			
1 担当科目：情報処理実習Ⅰ（共通、夜1クラス、前期、1）、情報処理実習Ⅱ（共通、昼2クラス、後期、1）、数理科学（生活、昼、前期、2）、情報と社会（共通、昼、前期、2）、情報技術論・情報と科学（生活、昼、後期、2）、プログラミング基礎（共通、昼、後期、2）、居住環境基礎（生活、昼、後期、2）、居住環境特別演習（生活、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	ダンス部顧問		
学内教育活動 (その他)	クラス担任（居住環境コース）、4年制大学への編入学を目指す学生への数学、情報等の個別指導を実施した。		
教育上の工夫	<p>情報処理実習Ⅰ（共通、夜、前期、1） 実習は、スライドで説明をしながら進めるが、学生のPC活用力のレベル差が大きいため、進度が早い学生や遅い学生は各自が教科書を参考にすることで、自分に適したスピードで進められるように配慮した。</p> <p>情報処理実習Ⅱ（共通、昼2クラス、後期、1） 情報処理実習Ⅱは、情報処理実習Ⅰで基礎的な能力を身に付けている学生が受講しているため、学生によるレベル差は情報処理実習Ⅰほど大きくないため、比較的難易度が高い課題に対しても、学生が十分に対応できていた。RESASを用いて実データをもとに現実世界の問題の解決策を考える授業にしたので、学生も意欲的に取り組んでいた。</p> <p>数理科学（生活、昼、前期、2） 学生間において知識、及び、理解力に差があり、すべての学生に対して適した講義内容、講義レベルを合わせることは困難なため、講義では比較的的理解しやすい内容を説明し、より深い内容を知りたい学生、及び、講義内で理解できなかった学生に対しては講義時間外の個別指導で対応するようにした。</p> <p>情報と社会（共通、昼、前期、2） 難しい内容を理解させるために、分かりやすい図を増やすなど資料を見やすくした。講義中盤の自然言語処理に関する内容、及び、講義後半の情報システムに関する内容については、少し理解できていない学生が多いようなので、具体的な事例を紹介することで、理解しやすい内容になるように工夫した。</p> <p>情報技術論・情報と科学（共通、昼、後期、2） 情報技術の基本的な内容について学べる講義であるが、ITサポート試験及び基本情報処理技術者試験に興味がある学生も多く受講するため、資格試験を意識した講義内容にした。講義内容の理解度を確認するテストでは、4択問題にすることで、難しい内容でも学生が取り組みやすいように意識した。</p> <p>プログラミング基礎（共通、昼、後期、2） 本格的なプログラミングを勉強するのは初めての学生が多かったので、Google Colaboratoryを活用することで、初心者でもプログラミングに取り組みやすい環境を提供することができた。講義内では、プログラミング言語（Python）の文法ルールの説明を中心に行い、実際のプログラミングの作業は、講義外で学生に取り組んでもらうことで、短時間で充実した内容を提供できた。</p> <p>居住環境基礎（生活、昼、後期、2） Scratchを用いたプログラミングのグループ実習を行なった。プログラミングの基本操作を簡単なゲームを作ることで体験してもらい、その後、グループでプログラミングして作品を作ってもらった。実際、グループで作品を完成させるのは困難だったので、作品のアイデアだけでも課題提出を可能とした。</p> <p>居住環境特別演習（生活、昼、通年、4） 演習では、学生の興味がある情報処理を活用した研究（プロジェクト）に取り組んでおり、2022年度は三重短期大学のLINEスタンプ制作、HP制作、Pythonを用いたプログラミングなどを実施した。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：電子情報通信学会、言語処理学会、情報処理学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	小中学生向けプログラミング講座（新型コロナ禍のため中止）		
学外審議会委員等			
学外講演会講師等	三重アカデミックセミナー「人工知能の現状」（2022年8月18日）		
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
<p>プロの同時通訳者の訳出メカニズムの解明のため、大規模に収集した同時通訳者の音声言語データを、統計的な手法で解析しています。</p> <p>また、津市民及び三重県民への地域貢献への取り組みとして、子供向けのプログラミング講座を定期的に開催していく予定です。</p>			

三重短期大学教員研究・教育業績（2022年度）

所属：生活科学科		職名：准教授	氏名：高橋 彩
I 研究活動			
1 研究課題：青年期の政治意識、アイデンティティ形成、親子関係、道徳的判断			
2 研究活動実績			
著書			
論文	高橋彩 生活保護の責任帰属と公正感受性、心理的特権意識、共感性との関連—三重県在住の成人を対象に— 三重短期大学地域問題研究所地研年報, 第27号, pp.17-31. 2022年11月 高橋彩 短期大学生における生活保護の責任帰属—「受給者の自己責任」論と関連する要因は何か?— みえ生活科学研究, 2, pp.8-15. 2023年3月		
その他			
学会等報告	高橋彩 生活保護の責任帰属と公正感受性との関連 日本社会心理学会第63回大会ポスター発表P1235, p.166. 2022年9月		
共同研究 助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：心理学（生活・法1、昼、前期、2）、発達心理学（生活、昼、前期、2）、心理学基礎実験（生活、昼、前期、2）、福祉心理演習（生活、昼、通年、4）、心理学概論（生活、昼、後期、2）、心理学と心理的支援論（生活、昼、後期、2）、心理学研究法（生活、昼、後期、2）、青年期の心理（生活、昼、後期、2）、福祉心理基礎演習（生活、昼、後期、2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）	1年生クラス担任（前期）、オフィスアワー（火曜日15:30-17:00）、卒論作成指導、4年制大学への編入希望者に対し、志願理由書の添削、小論文の書き方指導、面接指導を行った。就職未決定者に対する就職に関する相談にのった。		
教育上の工夫	心理学（生活・法1、昼、前期、2） 指定テキストとパワーポイントを用いて対面授業を行った。配布資料の図表は引用先を示し、学生自身がさらに調べられるようにした。学生の自己理解に役立つような心理学の尺度を紹介し、結果の見方などを解説した。 発達心理学（生活、昼、前期、2） 指定テキストとパワーポイントを用いて対面授業を行った。DVDを用いて、乳幼児の言語発達、認知発達への興味や理解が深まるように工夫した。 心理学基礎実験（生活、昼、前期、2） 心理学実験の実験者と実験参加者の両方を体験しながら、データ収集、分析、レポート作成が身につくように、学生のペースに合わせた進捗で授業計画を進めた。特に提出されたレポートの添削を個別に行ったうえで、返却した。 心理学概論（生活、昼、後期、2） 指定テキストとパワーポイントを用いて対面授業を行った。テキストにない図や写真をパワーポイントで提示し、DVDも利用することで理解が深まるようにした。小課題や感想、質問を書くことで、学生が自分自身の体験と教科書の知識との関連を意識できるように心がけた。 青年期の心理（生活、昼、後期、2） 指定テキストとパワーポイントを用いて対面授業を行った。青年期特有の心理について、課題や感想を書くことを通して、学生が自分の経験や感情を振り返る機会をもてるようにした。動画をなるべく取り入れるようにした。 心理学と心理的支援論（生活、昼、後期、2） 配布資料とパワーポイントを用いて対面授業を行った。依存症、自殺、ひきこもり、発達障害、被災者など、支援を必要とする対象に応じた心理療法や支援法を解説し、ワークシートを用いて学生が自分で考えながら取り組めるように工夫した。 心理学研究法（生活、昼、後期、2） 心理学の代表的な研究方法である質問紙法、面接法、観察法を取り上げた。実験者として必要な態度やデータのとめ方など、実験方法とレポートを作成するための基本的な知識を身につけることが出来るようにした。 福祉心理基礎演習（生活、昼、後期、2） 日本心理臨床学会の『心理臨床の広場』と、日本心理学会の『心理学ワールド』から、学生自身がそれぞれ1つのテーマを選び発表を行った。各自が作成した発表資料とその解説を基に質疑応答を行うことで、心理学の幅広い研究テーマについての知識を共有することが出来た。 福祉心理演習（生活、昼、通年、4） 卒業論文を展望論文の形でまとめることを目指した。前期は論文の検索の仕方を解説し、学生は各自が関心のあるテーマに関する本や論文を集めた。後期は卒業論文の執筆を中心に指導した。1月中に卒業論文を完成させることができた。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本発達心理学会、日本パーソナリティ心理学会、日本青年心理学会 日本社会心理学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等	四日市市市民協働促進委員会副委員長		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師	大谷保育協会「発達心理学1・2」、同朋大学「心理学実験」、同朋大学「社会・集団・家族心理学」		

三重短期大学教員研究・教育業績（2022年度）

3 一言アピール

青年期のアイデンティティ発達、親子関係、道徳的判断に関心があります。2021年10月は衆議院議員選挙、2022年7月には参議院議員選挙があったことから、三重県在住の青年と成人を対象に、政治意識と生活保護の責任帰属や道徳性との関連について調査を行いました。

三重短期大学教員研究・教育業績 (2022年度)

所属：生活科学科	職名：講師	氏名：田中 武士
I 研究活動		
1 研究課題：社会保障および社会福祉の制度・政策研究、介護殺人の社会的要因の分析、臨床倫理的課題に関する研究		
2 研究活動実績		
著書		
論文	<p>「医療機関における高齢者の身元保証問題を考えるー「本人の意思とはなにか」を手がかりにー」『ゆたかな暮らし』488、10-15、2023年2月。</p> <p>「医療福祉活動における倫理的課題を考える」『医療福祉政策研究』6(1)、1-5、2023年3月。</p> <p>「『いのちと暮らしを守るなんでも電話相談会』の3年間を振り返るー相談支援現場から社会保障の再構築をめざしてー」『みえ生活科学研究』、(2)、16-22、2023年3月。</p>	
その他	<p>『介護問題の深刻化と介護保障に関する研究ー介護殺人の社会的性格と社会的背景ー』佛敎大学大学院社会福祉学専攻博士学術請求論文、2022年9月。</p> <p>「コロナ災害を乗り越える・いのちと暮らしを守る何でも電話相談会の活動について」『2022クレサラ・生活再建白書』、2022年10月。</p>	
学会等報告	「介護殺人の社会的性格と社会的背景を考える」、日本科学者会議三重支部研究会、2022年9月。	
共同研究	「介護問題の深刻化と介護保障に関する研究」、2022年度 公益財団法人 日本医療総合研究所研究助成（個人）。	
助成研究	「高齢期における自立支援から生活保障の発展に関する研究ー医療福祉職の自立観を手がかりにー」2022年度 日本高齢期運動サポートセンター研究助成（共同）	
II 教育活動		
1 担当科目：社会保障論Ⅰ（生活、昼、前期、2）、社会保障論Ⅱ（生活、昼、後期、2）、介護概論（生活、昼、後期、2）、社会福祉論・社会福祉論Ⅰ（生活・法1・法2、昼、2）、社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ（生活、昼、前期、3）、社会福祉援助技術現場実習Ⅰ（生活、昼、後期、3）、社会福祉援助技術現場実習Ⅱ（生活、昼、前期、3）、福祉心理演習（生活、昼、通年、4）、福祉心理基礎演習（生活、昼、後期、2）		
2 教育活動実績		
課外活動指導		
学内教育活動（その他）	クラス担任（1年生、前期）、オフィスマナー、医療機関や福祉施設などでの学外演習、卒論執筆指導、編入学指導、就職活動支援	
教育上の工夫	<p>社会保障論Ⅰ（生活、昼、前期、2） 授業内ごとに資料を作成し配布、授業時に書き込めるような様式としている。また、市民の生活実態をより意識できるよう短い映像なども使用する。毎授業後には質問も含め小レポートを作成してもらい、次の授業時にコメントを付けて返却し、その内容をもとに学生同士、教員との双方向の授業となるよう努めている。</p> <p>社会保障論Ⅱ（生活、昼、後期、2） 授業内ごとに資料を作成し配布、授業時に書き込めるような様式としている。また、市民の生活実態をより意識できるよう短い映像なども使用する。毎授業後には質問も含め小レポートを作成してもらい、次の授業時にコメントを付けて返却し、その内容をもとに学生同士、教員との双方向の授業となるよう努めている。</p> <p>介護概論（生活、昼、後期、2） 授業内ごとに資料を作成し配布、授業時に書き込めるような様式としている。また、市民の生活実態をより意識できるよう短い映像なども使用する。毎授業後には質問も含め小レポートを作成してもらい、次の授業時にコメントを付けて返却し、その内容をもとに学生同士、教員との双方向の授業となるよう努めている。</p> <p>社会福祉論・社会福祉論Ⅰ（生活・法1・法2、昼、2） 授業内ごとに資料を作成し配布、授業時に書き込めるような様式としている。また、市民の生活実態をより意識できるよう短い映像なども使用する。毎授業後には質問も含め小レポートを作成してもらい、次の授業時にコメントを付けて返却し、その内容をもとに学生同士、教員との双方向の授業となるよう努めている。</p> <p>社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ（生活、昼、前期、3） 実習がより効果的な内容となるよう、実習分野や施設概要、利用者や職員との交流、プライバシー保護などについて総合的な事前準備を行っている。</p> <p>社会福祉援助技術現場実習Ⅰ（生活、昼、後期、3） 1年生にとっては初めての実習となるため、緊張感のなかにも社会福祉の現場の魅力が実感できるような内容となるように適切な指導に努めている。</p> <p>社会福祉援助技術現場実習Ⅱ（生活、昼、前期、3） 長期間の実習になるが具体的な課題を明確にし、謙虚さを保ちながら社会福祉現場で積極的に様々な経験を積めるように適切な指導に努めている。</p> <p>福祉心理演習（生活、昼、通年、4） ゼミ生同士の対話の中で各人の問題意識を深め、研究報告を行い卒業論文として完成できるように指導している。</p> <p>福祉心理基礎演習（生活、昼、後期、2） ゼミ生同士の対話の中で各人の問題意識を深め、研究報告を行い卒業論文として完成できるように指導している。</p>	
III 学会等及び社会における主な活動		
1. 所属学会：日本社会福祉学会、日本社会保障法学会、日本社会医学会、社会事業史学会、日本医療福祉政策学会、日本臨床倫理学会		
2. 社会活動実績		

三重短期大学教員研究・教育業績（2022年度）

地域連携事業	オープンキャンパスミニ講義講師「社会福祉ってなんだろう?」、2022年7月。 社会福祉士国家試験対策講座講師「社会福祉論」「地域福祉論」「社会保障論」、2022年9月。
学外審議会委員等	
学外講演会講師等	
その他の社会活動	生活保護問題対策全国会議事務局次長
他大学非常勤講師	三重大学（保健医療福祉行政論）、四日市看護医療大学（健康社会要因論）
<p>3 一言アピール</p> <p>現代社会において貧困問題はますます深刻化しています。社会保障や社会福祉が権利としてしっかりと機能するためにはどうすれば良いのか、そのことをテーマに研究教育活動に取り組んでいます。大学内にこもらず、地域活動と現場実践を重視した姿勢を大切にしています。</p>	